

Institute for Advanced Studies on Asia

第 3 期
中期目標期間の
外部評価に係る
活動報告書
《研究所編》

2016 年度～ 2021 年度



東京大学東洋文化研究所

※当報告書は、2024 年 9 月 30 日に開催された外部評価委員会で使用されたものに、
委員会での指摘に従い、若干のデータの増補と書式の改変を加えたものである。

目 次

目 次.....	1
<本文>	
I. 沿 革.....	5
(1) 研究部門	5
(2) 附属東洋学研究情報センター.....	5
(3) 各 室	6
II. 組織	7
(1) 組織構成図	7
(2) 教員配置	8
(3) 教員数	9
III. 第 3 期中期目標期間の活動目標	10
IV. 第 3 期中期目標期間の主たる活動状況と成果	12
(1) 国際的連携事業の推進状況	12
(2) 共同研究の実施状況	16
(3) 組織・制度の多様化の状況	17
(4) 刊行物の状況	19
(5) 論文・著書等の研究業績の状況.....	21
(6) 叙勲・学術賞等の受章・受賞の状況.....	21
(7) 若手研究者の育成、大学・大学院教育への参画の状況	23
(8) 図書室の状況	25
(9) 附属東洋学研究情報センターでの共同利用状況	27
(10) 収入の状況	28
(11) 研究資源の公開およびアウトリーチ活動等の状況	29
(12) 研究者コミュニティや社会への貢献状況.....	30
V. 第 3 期中期目標期間の自己点検	31
<資料>	
(資料 1) 活動記録写真	35
(資料 2) 第 3 期に更新・新規締結された交流協定一覧	38
(資料 3) 国際総合日本学ネットワーク (GJS) 研究プログラム	39
(資料 4) 東アジア藝文書院 (EAA) における研究プログラム	50
(資料 5) 新しい世界史/グローバル・ヒストリーに関する国際的なネットワーク 型研究教育拠点 (GHC) プロジェクト.....	70

(資料 6)	日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) 研究プログラム	72
(資料 7)	復旦大学文史研究院・プリンストン大学東アジア学部との学術交流コン ソーシアム・プロジェクト	77
(資料 8)	復旦大学文史研究院との研究者相互派遣リスト	78
(資料 9)	フランス社会科学高等研究院との教員交流プログラム	78
(資料 10)	成均館大学校東アジア学術院・延世大学校国学研究院・京都大学人文科 学研究所との 4 研究所共同研究プログラム	79
(資料 11)	プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト	79
(資料 12)	その他の大学との交流事業	80
(資料 13)	国際的研究活動の状況	81
(資料 14)	班研究プロジェクトの状況	82
(資料 15)	東文研セミナー・シンポジウム等の研究集会開催状況	83
(資料 16)	本研究所の外国人教員比率	83
(資料 17)	新世代アジア研究部門の世界的著名教授招へいリスト	84
(資料 18)	英文図書刊行事業 (UT-IPI) での出版事例	85
(資料 19)	海外研究機関からの訪問研究員の受け入れ状況	85
(資料 20)	本研究所の刊行物一覧	86
(資料 21)	INTERNATIONAL JOURNAL OF ASIAN STUDIES (IJAS) の編集委員	88
(資料 22)	東京大学東洋文化研究所アジア研究叢書 (UTSA) の国際諮問委員	88
(資料 23)	教員の研究業績数と使用言語	88
(資料 24)	叙勲・学術賞等の受章・受賞	96
(資料 25)	若手研究者育成	97
(資料 26)	図書室の蔵書の状況	97
(資料 27)	図書室の受け入れ状況	98
(資料 28)	デジタルデータの公開状況	99
(資料 29)	漢籍整理長期研修参加者	100
(資料 30)	漢籍整理長期研修参加者所属機関	101
(資料 31)	主なデータベース	102
(資料 32)	第 3 期のデータベース新規公開	103
(資料 33)	機関推進プロジェクト	103
(資料 34)	本研究所の収入状況	105
(資料 35)	本研究所の科研費の取得率と採択率	106
(資料 36)	所蔵資料の貸し出し状況	107
(資料 37)	アウトリーチ活動	108
(資料 38)	学会における役職・委員の例	109

《本 文》

I. 沿 革

(1) 研究部門

本研究所は1941年11月26日、「東洋文化の総合的研究」を目的として、東京（帝国）大学に設置創設された。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足した。1949年、新たに3部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の6部門に再編成した。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかった。

ついで1951年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられた。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた8部門に再編成した。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960年には南アジア政治・経済部門、1964年には東北アジア部門、1968年には西アジア歴史・文化部門、1973年には東南アジア経済・社会部門、1978年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13部門を擁するにいたった。

その後、アジア地域全体が世界の中で占める重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となった。そこで、1981年に新しい構想に基づく大部門制を採用し、それまでの13部門を、汎アジア部門、東アジア部門（第一、第二）、南アジア部門、西アジア部門の5部門に統合して再出発した。

さらに、2011年にはアジア研究における新たな研究対象、研究方法、研究分野を切り拓き、アジア研究の新たなビジョンを社会に向けて提示することを目的に、新たに新世代アジア部門が設置された。

(2) 附属東洋学研究情報センター

1999年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という二つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設された。1966年の設立以来、東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれている。また、本センターの新設に伴い、絵画・考古資料を対象とする造形資料学分野が設けられ、さらに2009年度からアジアの社会調査資料を対象とするアジア社会・情報分野が増設された。2009年6月には、本センターが文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、2010年度から2015年度にかけて全国の関連研究者コミュニティに対して、より開かれたセンターとして様々な活動を行った。

(3) 各 室

所の研究活動を支えるため、国際学術交流室、情報・広報室、画像技術室が設置されている。また、2020 年からは、本研究所独自で University Research Administrator (URA) を 1 名採用し、外部資金獲得支援など、研究所の研究力強化に取り組んでいる。

1. 国際学術交流室

国際学術交流を促進するため、2011 年に国際学術交流室が設置された。国際学術交流室の以下の主な業務を行うため、英文雑誌担当、交流推進担当、構築推進担当、学術交流担当の教員が配置されている。

- ① 英文学術雑誌 (*International Journal of Asian Studies*) の Managing Editor としての編集や英文校閲など、編集・刊行に関連する業務
- ② 研究所と学術交流協定等を締結している諸機関との全所的な交流推進に関して必要な業務
- ③ 国際日本学分野の構築・推進に関して必要な業務

2. 情報・広報室

コンピュータ・ネットワーク・システムを適切に管理・運用するとともに、本研究所の各種情報を効果的に発信するため、2013 年に情報・広報室が設置された。

- ① 基幹ネットワークシステム管理
- ② データベース保守
- ③ デジタル広報、アーカイブ活動
- ④ 所員のデジタル研究活動支援

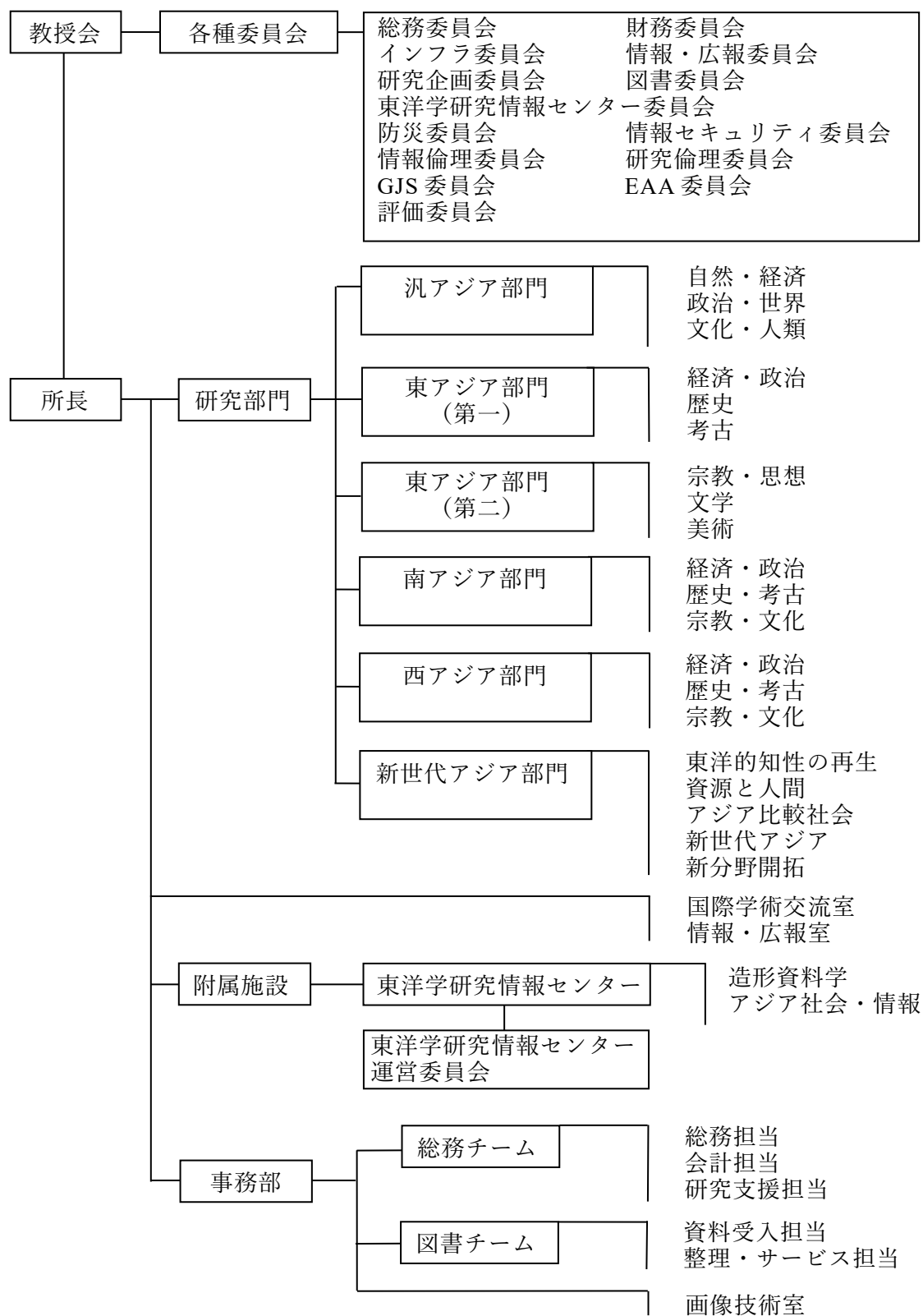
3. 画像技術室

遺跡調査室の名称変更により 2003 年に設置された。写真撮影の技術専門職員を配置している。画像技術室では、文献、造形両分野の資料学的研究を補助し、主に下記の業務をおこなっている。

- ① 考古、美術、貴重書籍、文書等の撮影
- ② フィルム、ガラス乾板等のデジタル化とその保存
- ③ これらに基づいた高精細な画像研究資料の作成
- ④ 本研究所の広報用素材の撮影

II. 組織

(1) 組織構成図



(2) 教員配置

(2021年5月1日現在)

所長 高橋昭雄	副所長 園田茂人		
汎アジア研究部門	自然・経済	教授	池本幸生
		教授	菅豊
	政治・世界	教授(兼)	松田康博
	文化・人類	教授(兼)	名和克郎
		准教授	藏本龍介
東アジア研究部門(第一)	経済・政治 歴史	教授	高見澤磨
		教授	黒田明伸
		教授	真鍋祐子
	考古	教授	小寺敦
東アジア研究部門(第二)	宗教・思想	教授	中島隆博
		准教授	田中有紀
	文学	教授	大木康
	美術	教授	板倉聖哲
		教授	塚本磨充
南アジア研究部門	経済・政治	教授	高橋昭雄
		教授	青山和佳
	歴史・考古	教授	古井龍介
		准教授	小川道大
	宗教・文化	教授	馬場紀寿
西アジア研究部門	経済・政治	教授	秋葉淳
		准教授	渡邊祥子
	歴史・考古	教授	榊屋友子
	宗教・文化	教授	森本一夫
新世代アジア研究部門	東洋的知性の再生	教授	安富歩
	資源と人間	教授	佐藤仁
	アジア比較社会	教授	園田茂人

	アジアの書物文化	准教授	上原究一
	新世代アジア	准教授	佐橋亮
	新分野開拓	准教授	額定其勞
		准教授	池亀彩
国際学術交流室		准教授	鍾以江
		准教授	柳幹康
		准教授	Christopher Byron-Gerteis
		助教	黃偉修
		助教	板橋暁子
		特任助教	具裕珍
情報・広報室		助教	藤岡洋

東洋学研究情報センター

センター長 高橋昭雄

副センター長 板倉聖哲

造形資料学	教授（兼）	梶屋友子
	教授（兼）	板倉聖哲
	教授（兼）	小寺敦
アジア社会・情報	教授（兼）	松田康博

(3) 教員数

(2021年5月1日現在)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	第3期 平均
教員数	35	36	38	37	37	37	36.6
任期無し 教員数	25	25	27	25	25	28	25.8

III. 第3期中期目標期間の活動目標

本研究所は、第3期中期目標期間（2016年度～2021年度、以下、「第3期」）において、本学第3期中期目標に基づいて下記のような活動目標を定めた。

目標 1. 「東洋文化に関する総合的研究」を行う研究所として、アジアに関する人文学、社会科学のあらゆる学問分野において卓越性と多様性を追求し、世界に先駆けて新たな知を生み出し得る世界最高水準の研究を実施する。

目標 2. アジア研究の多様性を促進しつつ研究競争力を世界主要国と比肩しうよう、適正な教員配置及び予算確保に努め、研究環境の整備を推進する。

目標 3. アジアに立地する「知の協創の世界拠点」にふさわしいアジア研究環境を充実させ、国際的にも新しい、アジア研究のモデルを創出する。

目標 4. 社会との連携を効果的に促進することで、我が国の社会及び国際社会の持続的発展に貢献する。

目標 5. 大学院教育においては、自ら考え、新しい知を生み出し、人類社会のための知の活用を目指して行動する意欲満ち溢れた人材（「知のプロフェッショナル」）を育成する。

（参考）第3期「東京大学中期目標」（一部抜粋）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ② 大学院では、修士・博士・専門職学位の各課程において、自ら考え、新しい知を生み出し、人類社会のための知の活用を目指して行動する意欲満ち溢れた人材（「知のプロフェッショナル」）を育成する。

2 研究に関する目標

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ① 世界の学術を牽引する総合研究大学として、人文学・社会科学・自然科学のあらゆる学問分野において卓越性と多様性を追求するとともに、これを基盤として新たな学問領域の創成に積極的に関わり、世界に先駆けて新たな知を生み出し得る世界最高水準の研究を実施する。

（2）研究実施体制等に関する目標

- ① 研究の多様性を促進しつつ、研究競争力を世界主要国と比肩しうよう適正かつ機動的な予算確保及び教員配置に努め、研究環境の整備を推進する。

3 社会との連携及び社会貢献を志向した教育・研究に関する目標

- ① 社会との連携を効果的に促進することで、東京大学を「知の協創の世界拠点」とし、我が国の社会及び国際社会の持続的発展に貢献するとともに、本学から生まれた知の社会への展開を効果的に進めるベンチャー創出、知財管理の仕組みの高度化・改革を推進する。

5 その他の目標

（1）グローバル化に関する目標

- ① 「知の協創の世界拠点」にふさわしい教育研究環境を充実させ、教育研究のグローバル化を推進し、我が国ならではの総合研究大学の新しい世界展開モデルを創出するとともに、中長期戦略に基づく関連組織と事務体制の機能強化を図る。

本研究所は、この活動目標を踏まえ、第 3 期において下記のような研究・教育活動を実施した。

- (1) アジアに関する人文学・社会科学の国際的ハブとして世界各地の研究者とのネットワークを強化することで文献研究とフィールド研究、古典研究と現代社会研究といった異分野融合による多角的な研究視点や手法による研究プロジェクトをグローバルに展開し、それを通じて新たな学問領域の創成に積極的に関わり、アジアに関する卓越した総合的研究を行った（目標 1）。
- (2) アジア研究に資する多様で貴重な文献資料・情報データを収集し国内外に広く公開することで本研究所の国際的な存在感を高め、同時に様々な機会を通じて優れた外国人研究者を所の事業に参画させることで所全体の研究レベルを常に世界最高水準に維持し、本研究所が創出した優れたアジア研究の成果を多様な媒体を通じて発信した。そしてアジアからの視点によるアジア研究（アジア研究のアジア化）という本研究所ならではの新しい研究モデルを創出した（目標 2）（目標 3）。
- (3) 社会と連携した研究・教育プロジェクトの推進により、アジアの知を効率的・効果的に社会に還元するとともに、社会の諸課題に応えられる人材を育成し、我が国の社会及び国際社会の持続的発展に貢献した（目標 4）（目標 5）。

IV. 第3期中期目標期間の主たる活動状況と成果

(1) 国際的連携事業の推進状況

第2期に増強した海外の有力な研究機関との研究交流協定を第3期も継続するとともに（資料2）、協定を実体化する研究・教育に関する多角的な視点による多様な形態の国際連携事業を精力的に実施した。

また、2019年からはダイキン工業からの資金提供により、新たに北京大学と東京大学が連携した研究・教育プロジェクトである東アジア藝文書院（EAA）を立ち上げた。

これにより本研究所が世界の中で果たす国際的研究ハブとしての重要な役割は世界的に認知され、国際シンポジウム等の研究集会開催や、研究者・学生の国際交流を促進し、世界的視野で多彩な研究を実現した。

《第3期》

◆ 協定数 16件（復旦大学とは交流の覚書を締結）

* 第2期の協定数 17件

1. 国際総合日本学ネットワーク（GJS）における研究プログラム

国際総合日本学ネットワーク（Global Japan Studies, GJS）は、本学国際本部「国際総合日本研究専門部会」の立ち上げによって構想され、2014年3月に「日本の日本研究を世界に開き、海外の日本研究を日本に開く」ことを目的に設立された部局横断型プログラムである。GJSは教育部門と研究部門から構成され、前者は法学部（後に文学部、2020年6月から現代日本研究センター）、後者は本研究所が支えた。

研究部門では、シカゴ大学との協定にもとづくワークショップのほか、交流協定校に収まることなく、広く世界中の研究者を講師としてセミナーや講演会を定期的で開催するとともに、ウェブサイトやメーリングリストを利用した広報活動などを実施した（資料3）。2017年からは国際日本文化研究センターを中心にした「国際日本研究コンソーシアム」に参加し、日本研究の国際ネットワークの拡大と強化に貢献した。

また、教育活動にも協力し、大学院の授業である情報学環アジア情報社会コース（ITASIA）の英語による講義も担当した。

このほか、2016年から海外の若手研究者向けサマープログラム（インバウンド）を日本で4回開催した（2020年以降はコロナ禍で中止）。“An Inquiry Into Japan’s Postwar”（日本の戦後を考える）というテーマで9日間のプログラム（2016年度と2017年度の参加費は26万円、2018年度と2019年度の参加費は28万円）で、参加者を国際公募した。累計で87人の応募があり、57人が採択された（一部学生には奨学金が支給された）。日本とアジアの関係を歴史、社会、文化、政治などの多方面から分析し、午前中には日本語（オプション）と講義に参加し、午後にはフィールドワークをすることで、新しい日本研究を創発する研究者の育成と世界の日本学の高度化に貢献した。

また GJS では、本学・国際本部が 2013 年から実施してきた香港大学・東京大学合同サマープログラム（アウトバウンド）“Japan in Hong Kong”を 2018 年に引継ぎ、その実施を引き受けた（https://hku-utokyo-summer.hku.hk/?page_id=222）。学部生については JASSO の奨学金を、大学院生については多文化共生・統合人間学プログラム（HIS）の「多文化共生・統合人間学演習 III」の授業と位置付けることにより、その財政的支援を受けることで、本学学生の旅費等の負担を軽減させた。また香港大学が独自に獲得したファンドも、本プログラムの実施に活用された。第 3 期累計で 3 回（2016 年度から 2018 年度まで）実施され、香港大学からは 29 名、東京大学から 47 名の学生がそれぞれ参加した。香港でのフィールドワークや企業見学等を通じて日港間のビジネスを多角度から考え、両校の学生によるグループワークとプレゼンテーションによって課題発見能力を育成したが、コロナ禍と香港大学側の教員の異動によって 2018 年度で終了した。

これら一連の活動を通じて情報共有のための知的インフラを構築し、GJS の目的である日本と世界、両者の日本研究の対話を促進、融合させることに貢献した。

2022 年 3 月末で GJS プロジェクトが終了するため、近年のアジア研究の動向の分析、今後のアジア研究の在り方に関する検討を 2020 年度から開始し、新たな研究プログラムとして、新たなコンセプトによるアジア発の Global Asian Studies（GAS）を創発した。その理念を園田茂人と佐藤仁は、論文“Asian Studies “Inside-Out”: A Research Agenda for the Development of Global Asian Studies”としてまとめ、*IJAS* Vol. 18-2 (2021)で発表した。GAS は、従来の GJS ネットワークが行ってきた活動の一部を JF-GJS イニシアチブとして引き継ぎつつ、2022 年 4 月より新しい時代のアジア研究に相応しい研究活動を推進していく計画である。そのための、国際交流基金との連携による若手研究者育成事業といった、国内外の機関との連携により事業経費を効率化するための準備を開始した。

2. 東アジア藝文書院（EAA）

2019 年度に発足した東アジア藝文書院（East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA）は、東京大学と北京大学が共同で運営するジョイント研究・教育プログラムである。「藝文書院」の名には、文系と理系、研究と教育といった垣根を越えて、世界と人間を問い直しながら育てていこうとする願いが込められている。

2018 年 12 月に締結されたダイキン―東大産学協創協定の下で、ダイキン工業株式会社から寄附金（2019 年からの 3 年間で約 1 億 6,000 万円）を得て運営される社会連携プロジェクトでもある。東洋文化研究所と総合文化研究科にオフィスを構え、それぞれ研究と教育を分担している。東アジア発のリベラルアーツにより新たな学問を構築する研究教育プラットフォームとして、今後の世界における大学の新しいあり方を示す。

本研究所は、研究部門として、本学のダイキン東大ラボ「空気の価値化ビジョン」社会連携研究部門に参画し、中島隆博が中心となって社会的共通資本としての空気を守り育てる新たな社会システムの提案に取り組むなど、社会連携による研究成果の社会還元と、新たな学知の共創に取り組んでいる。

同時に、世界哲学、世界歴史、世界文学、未来社会と環境・健康の四つのリサーチ・ユニットを設け、個々の教員たちが培った国際ネットワークをいかして既存のディシプリンに収まらない新たな課題を問う講演会やセミナーを開催し（資料 4）、これらの講演録をブックレットとしてホームページ上で公開した。

また、教育においては、学部 1、2 年生対象の学術フロンティア講義「30 年後の世界へ」を共通テーマとするオムニバス講義において授業を担当した。

なお、潮田洋一郎からの寄付によりアジアの思想・技芸・文化・社会に対して総合的な研究を行う EAA 潮田総合学芸知イニシアチブ（研究部門）を東洋文化研究所に設置する交渉を開始し、22 年度の開設に向けた準備を行った。

《第 3 期》

- ◆ 初代院長 羽田 正（東洋文化研究所・所長） 2019.7～2020.3
- ◆ 二代院長 中島隆博（東洋文化研究所・教授） 2020.3～
- ◆ EAA ブックレット 27 冊刊行

3. 新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点（GHC）

2014 年度から 2019 年度まで、日本学術振興会研究拠点形成事業の助成を受けた新しい世界史／グローバル・ヒストリーに関する国際的な教育研究ネットワーク構築事業を実施し、グローバル・ヒストリーに関する世界的研究者ネットワークを構築した。この研究事業は、従来にない新しい世界史解釈と叙述の方法を提案する革新的な研究で、国際的に大きな反響を呼んだ。本研究所は、GHC の日本における拠点となり、プリンストン大学、フランス社会科学高等研究院（EHESS）、ベルリン・フンボルト大学（ベルリン自由大学が協力機関となる）の海外 3 拠点と共同で多彩な教育・研究活動を展開した（資料 5）。

また教育プログラムでは、ベルリン、パリ、プリンストン、東京の各大学の大学院生各 3～4 名が参加し、自身の学位論文の構想を発表するサマースクールやウインターインスティテュートをプリンストン大学との協定の枠組みによる助成も活用して、各拠点持ち回りで 2016 年～2018 年まで開催した。

《第 3 期》

- ◆ 拠点責任者 羽田 正（東洋文化研究所・所長）
- ◆ 学術研究集会等の開催 18 回

4. 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局を横断して連携し、新しい教育や研究の可能性を探るために 2001 年に設立された総長室総括委員会下の全学機構である。教育方面は総合文化研究科が、研究方面は本研究所が幹事部局として、2020 年度末で活動を終了するまで 20 年間の活動を支えた。ASNET は、日本を含むアジアに関することであればいかなるものでも題材に取り上げる汎地域性と、他分野交流にみられる分野横断を基

礎とした。

本研究所は、研究方面担当部局として東文研・ASNET 共催セミナーやシンポジウムなどの主催・共催イベントを実施し、人文・社会科学のみならず自然科学をも含んだ、多様な分野の研究者との交流を行った（資料 6）。

同時に学部授業「日本・アジア学概論」や大学院授業「日本・アジア学」教育プログラムにおいて授業を担当し、2020 年度までの 5 年間で、本研究所教員延べ 47 名が講義を受け持った。

さらに 2005 年より、アジア研究に関するシンポジウムや研究会、新刊書の情報をまとめた「ASNET メールマガジン」を毎週金曜日に発信した。

《第 3 期》

- ◆ 東文研・ASNET 共催セミナー 63 回開催
- ◆ ASNET メールマガジン 330 号分発信、第 3 期末の登録者数 1,856 名

5. 復旦大学文史研究院・プリンストン大学東アジア学部との学術交流コンソーシアム・プロジェクト

復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部との三者の間で学術交流コンソーシアム協定を 2010 年に締結し、国際学術会議の開催、研究者の交流などの協力事業を継続してきた（資料 7）。

特に、復旦大学文史研究院で開催される「アジアの藝術、宗教と歴史研究」サマーセミナーでは、共催機関として講師を派遣し、参加した各大学の大学院生への講義と討論を実施した。また、毎年相互に研究者を一ヶ月程度派遣する交流活動も継続した（資料 8）。

6. フランス社会科学高等研究院との教員交流プログラム

2014 年度から、EHESS との間で、毎年 1 人ずつそれぞれの機関を 1 ヶ月程度訪問し、研究報告などを行う研究交流を実施した（資料 9）。この交流は、各教員の研究に新しい視点を導入し、研究の射程を拡大するとともに、日本とフランスのアジア研究を相互に深く理解しあう有意義な機会となった。

7. 成均館大学東アジア学術院・延世大学校国学研究院・京都大学人文科学研究所との 4 研究所共同研究プログラム

成均館大学東アジア学術院と東洋文化研究所の共催シンポジウムに 2011 年度より京都大学人文科学研究所が、2020 年度より延世大学校国学研究院が加わり、四つの研究所の合同シンポジウムとして定期開催した（資料 10）。2020 年度はコロナ禍の最中であったが、幹事校として要旨集を作成し、オンライン開催した。両国の多様な専門分野の研究者らが方法論の違いを超えてアジアに関する共通のテーマで研究発表、討論することで、刺激に満ちた学術交流の場を創出した。

8. プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト

本学の「戦略的パートナーシップ大学プロジェクト」の一環として行われた「東京大学ープリンストン大学共同研究・教育プロジェクト」の枠組みで、プリンストン大学東アジア学部との共同教育プロジェクトを実施した（資料 11）。2017 年～2019 年には、GHC が組織して両大学の大学院生を対象としたウインタースクールを東京大学及びプリンストン大学で 3 回開催した。また、2016 年、2017 年には、プリンストン大学の学部生を東京大学に受け入れ、講義や気仙沼などでのフィールドワークを実施するサマープログラムを開催した。

9. 中央研究院社会学研究所との共同作業

中央研究院社会学研究所との協定締結のもと、東京大学総合文化研究科多文化共生・統合人間学プログラムが主催する East Asian Conference for Young Sociologists へ 2019 年に共同参加した。

10. その他

ナポリ東洋大学、ブルネイ・ダルサラーム大学、チリ・カトリカ大学、シカゴ大学との間で定期的な研究者交流や大学院生のワークショップを継続した（資料 12）。

（2） 共同研究の実施状況

世界のアジア研究を牽引する国際的研究ハブとして、各教員は、海外の研究者が組織する国際的研究プロジェクトに参画し、その卓越性を追求する研究活動を推進した。同時に各教員は、多様な学問分野の研究者と共同研究を推進した。そしてその成果を発表する研究集会等を定期的に開催することで、国内の研究者ネットワークと国際的研究ネットワークを連結、強化するとともに、本研究所の評価向上に貢献した。

このように、各所員による国内外での共同研究活動を基盤として、あらたな学問領域の創成に積極的に関与し、アジアに関する卓越した総合的研究を行った。

1. 国際的研究活動

各教員は世界に先駆けて新たな知を生み出さうとする世界最高水準の研究を実施するため、国際的な研究プロジェクトに参画している。その学術的水準の高さが国際的に評価され、海外の大学において客員教授を務めたほか、海外の著名な大学や学会が組織する研究プロジェクトにおいて運営委員や諮問委員、編集委員などを務めた（資料 13）。

《第 3 期》

- ◆ 海外学術組織、プロジェクトにおける諮問委員 海外の 6 組織
- ◆ 海外の学術雑誌における編集委員 学術雑誌 18 誌

2. 班研究

各教員が、自身の研究関心に沿って設定した研究テーマのもとに学内外の多様な学問分野の研究者らを組織して共同研究を行う班研究プロジェクトを推進した（資料 14）。そして、班研究での議論や研究成果を発展させた研究課題で競争的資金を獲得した（2021 年は 7 班が外部資金を得て研究している）。

《第 3 期》

- ◆ 6 年間累計 164 班 1,590 人（年平均 27 班）
所内 41 人（各班に 1.5 人）；所外 223 人（各班 8.3 人）

3. 東文研セミナー・シンポジウム等

国内外の研究者を発表者に迎えて班研究や国際的共同研究等の研究成果を国内外に発表するセミナーやシンポジウムを定期的に対面／オンラインの双方で開催した。また、本研究所の教員の最新の研究成果を所内外に発表する所内研究会を定期的で開催した。コロナ禍のため、2019 年度末からオンサイト開催が制限されたが、2020 年 6 月にはオンライン開催を開始し、研究発信活動の継続に努めた（資料 15）。

このように国内外の研究者コミュニティと研究情報を共有することで、議論のさらなる高度化と研究成果の多分野への学術的波及につとめ、新たな学知の創出に取り組んだ。

《第 3 期》

- ◆ 6 年間累計：307 回開催（教員 1 人につき年 1.4 回）
＊コロナ禍前の 2016～2019 年度は累計 233 回、教員 1 人につき年 1.6 回

(3) 組織・制度の多様化の状況

アジア研究の国際的ハブとしての機能を充実させることで研究の国際競争力を向上させるため、第 2 期に引き続き第 3 期も国際的な研究体制の強化に取り組んだ（資料 16）。また、「部局女性人事加速 5 カ年計画」を 2021 年度に策定し、教員の男女比の是正への取り組みを開始した。

《第 3 期》（2021 年 5 月時点の兼務教員を含まない教員数 35 人）

- ◆ 外国人教員 5 人（14%）※日本の大学平均 5%
- ◆ 女性教員 8 人（23%）※国立大学文科系・医科系・教育系大学女性教員比率 25%

1. 国際学術交流室新規採用教員の国際公募

世界の優れたアジア研究者を見出し、本研究所の一員とすることで世界アジア研究ネットワークを拡張し、国際共同プロジェクトを活性化するため、国際学術交流室において新規で採用する教員を国際公募している。特に、英文エディタ担当の教員は、オックスフォード大学やロンドン大学の教員を採用するなど世界のアジア研究を見渡すことができる人材を採用し、国際発信事業を効果的、効率的に推進した。

2. 著名外国人教員を客員教授として招へい

世界と日本のアジア研究ネットワークを繋ぐハブとしての役割を果たすため、海外の有力な大学から著名なアジア研究者を毎年一定期間客員教授として招へいするプログラムを2013年から開始した。アジアや欧米の各地から様々な研究分野の研究者を受け入れ（資料17）、重層的な研究交流網を構築・強化した。

《第3期》

◆ 著名外国人教授5人を客員教授として招へい

※2021年度はコロナ禍のため来日できなかった。

3. 英文図書刊行事業（UT-IPI）

東京大学の人文・社会科学系の教員が海外の大学出版会や大手学術出版社などの国際的な評価の高い出版社で著書を出版することを促進するため、2019年度から、人文・社会科学系の英文エディター（准教授）を東洋文化研究所と社会科学研究所に採用し、海外での図書出版の事業化を推進した。

具体的には、英文エディタが、教員向けに英文学術図書出版のためのシンポジウムやセミナーを開催し、英文学術出版社からの出版や本事業に関する情報の教員への周知徹底に努めた。また、執筆者（教員）の出版提案書（ブック・プロポーザル）の作成支援、欧米の学術状況を見渡した上での戦略的なアドバイスを、執筆者と学術出版社との橋渡しなど、執筆者（教員）が学術出版社との契約、刊行に到るまでを支援した（資料18）。さらに専用のウェブサイトを開設し、英文学術図書の出版を希望する教員が随時、最新情報を入手し、担当教員に相談できる環境を整えた。

同時にこの英文エディタは、本研究所の国際学術雑誌 *IJAS* や英文図書シリーズ *UTSA* の編集も担当し、研究成果の海外発信を組織的に向上させた。

《第3期》

◆ 本研究所所属研究者の英文図書5冊（2019年度以降出版）

◆ 英文エディタとして Christopher Gerteis 准教授を採用

◆ ウェブサイト開設（<https://web.iss.u-tokyo.ac.jp/ut-ipi/>）



4. 訪問研究員

図書室の研究環境整備に加え、活発な国際共同プロジェクトや、海外の大学における教育参加、国際的学術貢献などの活動により、多い年度では、1年間に115人の海外の研究者を受け入れ、日本での研究活動を支援した（資料19）。本研究所の研究力、研究環境が高いレベルにあることが世界的に認知されている表れである。

《第3期》

◆ 2016～2019年度：29か国381人（年95人、教員1人につき2.6人）

◆ 2020～2021年度：8か国19人

5. 女性人事

本研究所では、1980年に所長に就任した中根千枝に次いで2人目の女性所長として、2017年に榊屋友子が就任した。また、本学が2021年度に策定した女性人事加速5カ年計画（教員における女性比率を2027年度までに25%にする）に基づき、本研究所でも優秀な女性教員の採用を促進するための採用方針や労働環境改善策を提示した「部局女性人事加速5カ年計画」を策定した。これにより、女性教員・女性研究者の増加による教員の研究・教育機関としての多様性を豊かにするための取り組みを開始した。

《部局女性人事加速5カ年計画》

- ◆2027年5月1日までに女性教員比率を30%以上にする。
- ◆教員公募で最終候補者の能力が同等の場合は、女性を優先して採用する。
- ◆教職員向けに働き方改革に関する啓発・研修を実施する。
- ◆手続きの簡略化、デジタル化等の推進による業務の簡素化をはかる。

《計画の履行》

- ◆2021年度採用教員数 3名、うち女性教員1名（33%）

(4) 刊行物の状況

アジア研究に関する日本語及び英語の査読学術誌や研究報告書、学術書などを編集、刊行した。研究集会開催に加え、こうした事業により、優れたアジア研究の成果を国内外に積極的に発信する世界的アジア研究拠点としての役割を果たした（資料20）。

1. *International Journal of Asian Studies (IJAS)*

世界的アジア研究拠点として、英語による国際的かつ学際的な学術査読誌をケンブリッジ大学出版局から年2回刊行している。*IJAS*はアジアに関する人文・社会科学を中心とする研究成果を世界から募集し、本研究所の教員及び国内外の著名な研究者からなる編集委員会、査読者による査読を実施した上で刊行している（資料21）。第1巻第1号は2004年1月に出版され、2022年3月現在で第19巻1号まで、合計37冊刊行されている。

*IJAS*はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視している。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たした。

《第3期》

- ◆第13巻2号～第19巻1号まで年2回定期刊行
- ◆投稿数と多様性：2016年77論文 ⇒ 2021年28か国165論文 採択率36%
- ◆閲覧数：2016年 12,700回 ⇒ 2021年 32,200回
- ◆国際編集委員の多様性：2021年 11か国21人

2. 中國繪畫絵画綜合圖録

本研究所東アジア美術研究室は、日本や海外に現存する中国絵画を調査し、画像資料として収集する事業を60年前に開始し、この画像をシリーズ図録『中國繪畫綜合圖録』として刊行する事業を推進した。30年前に「初編」の刊行を開始し、その後「続編」を刊行、2020年度に「第3編」を全巻刊行し終えた。また、「第3編」の刊行を機に、長い間入手困難となっていた「初編」「続編」を復刊し、現存する中国絵画の全貌を俯瞰できるように意図した。現存する中国絵画を概観するために必備の書としての評価を既に確立しているが、「第3編」にはシドニーなどオセアニア地域にある作品も含み、より広範な地域のコレクションを包括して集成した。

3. 東京大学東洋文化研究所アジア研究叢書 (The University of Tokyo Studies on Asia, UTSA)

班研究 P-7「英語でなされるアジア学教育プログラムに関する研究」での研究成果を具体化する取り組みとして、本研究所及び世界の研究者によって審査された、日本語による優良なアジア研究成果を翻訳、編集し、Springer Nature 社から無料でダウンロードできるオープン・アクセスの形で出版する叢書の企画を2020年から開始した(資料22)。1冊目は、学内の部局横断的な「アジア学」教育の教科書 *Indo-Pacific: History and International Relations in Emerging Asia* (仮) として刊行する準備をすすめた。

《第3期》

- ◆ 2020年、Springer Nature 社との出版に向けた具体的な協議を開始
- ◆ アドヴァイザリーボードの多様性：2021年 11か国16人
- ◆ 英語のウェブサイト (<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/UTSA>) を開設し、論文の公募を開始



4. 定期刊行物

アジア研究に関する査読学術誌『東洋文化研究所紀要』『東洋文化研究所紀要別冊』を編集、刊行し、アジア研究の質的向上に努めた。また、所員による研究成果の一定の到達点を叢書として蓄積する『東洋文化研究所叢刊』を定期的に刊行した。さらに、所員による共同研究の成果を特集する『東洋文化』を編集、刊行した。附属東洋学研究情報センターでは、学内外の研究者との共同研究を推進した機関推進プロジェクトの成果をまとめた『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。

《第3期》

- 『東洋文化研究所紀要』12冊 (目標：年2冊)
- 『東洋文化研究所紀要別冊』4冊 (不定期)
- 『東洋文化研究所叢刊』3冊 (不定期)
- 『東洋文化』6冊 (目標：年1冊)
- 『東洋学研究情報センター叢刊』13冊 (目標：年2冊)

5. その他

神奈川県立金沢文庫で 2019 年に開催した展覧会『東京大学東洋文化研究所×金沢文庫 東洋学への誘い』にあわせて図録『東洋学への誘い』を刊行した。

また、2021 年 11 月は本研究所創立 80 周年であったため『東洋文化研究所の 80 年—近 30 年の活動記録を中心に』を編集、刊行した。

(5) 論文・著書等の研究業績の状況

本研究所の任期のない教員による第 3 期の研究業績総数は 676 点（著作 120 冊、論文 479 点、その他 77 点）、1 人あたり年平均約 4.36 点と高い水準であった（資料 23）。

そのうち外国語業績数は 183 点（英語 114 点、中国語 55 点、その他 14 点）、年平均約 30.5 点で、積極的な海外発信にとりくんだ。特に、日本語の著書が外国語に翻訳されて出版された業績は 12 冊あり、各教員の研究業績が海外からも高く評価されていることの表れである。

《第 3 期》

◆ 1 人あたりの平均業績 年間約 4.36 点

◆ 1 人あたりの平均外国語業績数 年間約 1.2 点

(6) 叙勲・学術賞等の受章・受賞の状況

本研究所の教員は、第 3 期において国内外の名誉ある勲章や学術賞を多数受章・受賞し、その学術活動がアジア研究に関する顕著な成果として認められた（資料 24）。

1. 顕著な受章・受賞

◆ 斯波義信（名誉教授、元所長）

2017 年に文化勲章を受章し、世界の中国史研究に大きな影響を与えてきた多くの優れた研究が高く評価された。

さらに 2018 年には、東洋のノーベル賞とよばれる唐獎（Tang Prize）を中国学の分野では日本人として初めて受賞した。日本の中国学の伝統と西洋の社会科学の伝統の長所を革新的に統合し、同時に中国のさまざまな一次資料を巧みに利用するという、三つの学問的伝統の特徴的な長所を巧みに融合させた宋代商業史研究成果が、今日の中国学の分野において最高レベルの成果を達成したものと評価された。

◆ 羽田 正（西アジア部門・教授、名誉教授、元所長、東京大学元副学長）

イランを中心とするイスラーム圏の歴史研究に関する数多くの業績や、「新しい世界史」の世界的な提唱と実践という実績、そして本学における国際的な研究教育活

動の発展への貢献や有識者としての社会活動の功績を評価され、在職中の 2017 年秋に紫綬褒章を受章した。

さらに、歴史学と地域研究の分野で日仏の学術交流に尽力し、また東京大学副学長として日仏の大学や研究機関の間での学生交流や共同研究の連携強化を支援してきた功績が認められ、フランス共和国国民教育省が高等教育を含む教育全般に多大な貢献をした者に与える名誉勲章である、教育功労章 (Ordre des Palmes académiques) オフィシエ (将校、2 等) を受章した。

2. 学術賞の受賞

◆ 名和克郎 (汎アジア研究部門・教授)

過去 30 年近くにわたり、ネパールを中心としたヒマラヤ地域の社会的文化的動態を、主に文化人類学的な観点から研究してきたほか、様々なスケールで研究の国際交流とアジアからの研究発信のための裏方的作業も継続して行っているなど、日本のみならず、国際的な研究牽引者として積み重ねてきた業績が高く評価され、2019 年に大同生命地域研究奨励賞を受賞した。

◆ 佐藤仁 (新世代アジア研究部門・教授)

さまざまなテーマを取り上げながら、開発の意味や技法、そして開発研究という学問のあり方について縦横無尽に論じた専門書『野蛮から生存の開発論 越境する援助のデザイン』(ミネルヴァ書房、2016 年) が 2017 年に国際開発研究・大来賞を受賞した。「開発研究」というテーマも方法も確立していない領域に果敢に取り組み、開発研究の一つのすぐれた出発点を提示したことが高く評価された。

◆ 馬場紀寿 (南アジア研究部門・教授)

学術誌『パーリ学仏教文化学』で発表した論文「上座部大寺派のパーリ語主義」(29 号、2015 年) などの業績にたいし、研究成果がきわめて顕著であり、斯学の発展に大きく貢献するものと評価され、2016 年にパーリ学仏教文化学会学術賞を受賞した。

2017 年には、スリランカ上座部大寺派がインド本土の仏教に対抗して歴史書を編纂し始め、仏と法と外護者という三点で南アジア仏教世界の中心に大寺派そのものを位置づける歴史を論じた論文「スリランカにおける史書の誕生」を学術誌『東方学』(第 133 輯、2016 年) で発表し、この業績およびこれと関連する研究活動において優秀な業績を示したことが評価され、東方学会賞を受賞した。

さらに 2019 年には、思想・正典形成・言語イデオロギーを中心とした上座部仏教形成史の研究に対し、日本学術振興会賞が授与された。日本学術振興会に「上座部仏教を大乘仏教に先行させる一般的な通念を部分的に覆す独創的な研究成果を生み出している」と評価され、「研究業績は、旧来の仏教学にとどまらず、比較宗教学、歴史学、社会言語学、地域研究等に及ぶ学際性を有しており、研究のさらなる発展と波及効果を期待させる」と評された。

◆ 塚本鷹充（東アジア第二研究部門・准教授）

北宋時代に成立した文物の収蔵・公開機関である三館秘閣を中心に、北宋絵画史の成立に至るまでの過程を考察した『北宋絵画史の成立』（中央公論美術出版、2016年）が評価され、2018年に三島海雲学術賞を受賞した。この業績は、中国絵画の金字塔である北宋絵画史の成立について、従来の美術史学がとってきた様式論的なアプローチを基礎としながら、作者によって制作された時に付された意味のみならず、それが人間社会のなかに伝来してきた意味とその生成の過程を問う画期的な論考である。

◆ 小川道大（南アジア研究部門・准教授）

学術書『帝国後のインド 近世的発展のなかの植民地化』（名古屋大学出版会、2019年）に対し、2021年に第8回日本南アジア学会賞が授与された。近年のインド史研究の焦点の一つである「18世紀問題」を明確な課題として、マラーティー語文書の分析をもとに近世から植民地期にいたる権力の変動と在地社会の変容の関連を実証的に検証したきわめて意欲的な著作であると評価された。

◆ 藏本龍介（汎アジア研究部門・准教授）

博士論文「世俗を生きる出家者たち—上座仏教徒社会ミャンマーにおける出家生活の民族誌」がアジア太平洋地域に関する人文・社会科学領域の優れた博士論文であると評価され、2016年にアジア太平洋フォーラム・淡路会議第15回アジア太平洋研究賞・井植記念賞・佳作を受賞した。

（7）若手研究者の育成、大学・大学院教育への参画の状況

日本学術振興会特別研究員等を国内外から受け入れたほか、本研究所の各研究プロジェクトが中心となってサマープログラムなどの短期教育プログラムを多数開催した。これにより、院生や若手研究者らが国際的な場でプレゼンテーションをする機会を多数提供し、世界で活躍できる研究者の育成に取り組んだ。同時に、院生や若手研究者らが世界の一流研究者から直接ピアレビューを受ける機会を創出したことで、世界的視野で研究課題を設定し、国際的視座で研究を推進できるような研究者の育成に尽力した。特に、梶屋友子が、エクス・マルセイユ大学に提出されたAnaïs Leone氏の博士論文の審査委員長を務めた点は特筆できる。

また本学の大学・大学院教育へ積極的に参画することにより、本学の機能強化に大きく貢献した。

1. 国際共同教育、若手研究者育成

法学政治学研究科や人文社会系研究科、総合文化研究科、情報学環・学際情報学府のほか、農学生命科学研究科、新領域創成科学研究科といった理系研究科に所属する修士課程、博士課程の留学生を受け入れ、指導した。また、本研究所の教員との共同研究や指導を望む国内外の研究者を日本学術振興会特別研究員や外国人特別研究員として受け入れ、本研究所の高度なアジア研究環境を提供することで、国際

的にも最先端の研究を遂行する優れたアジア研究者に育成した（資料 25）。

同時に、各教員は海外の大学において様々な枠組みで教育活動を行った。その顕著な例として、中島隆博は、IHS の枠組みで 2017 年に開催された国際合同学生会議「Sharing Knowledge in a Globalized Civil Society」を担当した。エアランゲン大学、延世大学、東京大学の大学院生、ポスドクが学位論文について発表し、研究課題を国際的視座から高度化する機会を提供した。また、本学の戦略的パートナーシップ大学プロジェクトのもと、共生のための国際哲学研究センター（UTCP）と連携して、北京大学、オーストラリア国立大学、東京大学の院生らが参加する Winter Institute を開催した。各大学持ち回りで 2017 年～2018 年の間毎年開催し、院生らに世界の一流研究者らと直接議論し、その思考を国際的に高度化する場を提供した。

佐藤仁は、2017 年よりプリンストン大学 Global Scholar として両大学の架け橋を担い、2020 年までプリンストン大学ウッドロー・ウィルソン公共政策大学院において環境政策やアジアの SDGs について講義や演習を担当した。

園田茂人は、2018 年から北京外国語大学北京日本学研究センターの日本側主任教授として、同センターで各種授業や講演、イベントを行うだけでなく、その運営に携わり、現在に至っている。

高橋昭雄は、2017 年にミャンマーのイエージン農業大学でミャンマー農業史および農村社会経済構造の変容に関する集中講義を実施した。外国人がミャンマーの大学でミャンマー語による講演を行うのは初めての試みであった。

松田康博は、2017 年に国立政治大学の客員教授として「当代日本の安全保障政策」「日本の中国研究」「台日関係概論」の授業を実施した。

2. 大学院・大学教育、リカレント教育

大学院教育では、学際情報学府に毎年 2～3 人の教員が 1～3 年の任期で併任したほか（第 3 期中は全 9 人）、人文社会系研究科、法学政治学研究科、経済学研究科、総合文化研究科、農学生命科学研究科、新領域創成科学研究科の 6 研究科及び公共政策大学院並びに学際情報学府に協力講座・流動講座を出し、研究所の全教授・准教授（2021 年度 34 名）が約 70 コマの授業を毎年担当している。指導した院生数は、統計を取り始めた 2019 年度～2021 年度の 3 年間で、修士課程累計 82 人、博士課程累計 87 人、博士号取得者は 21 人で、このほかに博士論文の副査を多くの教員が務めている。これらの学位論文には、英語で書かれたものも含まれる。

学部教育ではこのほか、法学部、文学部、農学部、教育学部において、研究所の全教員が約 30 コマの授業を毎年担当している。全学対象の授業では、全学自由研究ゼミナール、初年次ゼミナール文科、教養学部英語コースにおいてアジアの歴史、文化、社会に関する講義を行った。

社会人のリカレント教育としては、東京大学のリカレント教育部門である東京大学・エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（東大 EMP）において講師を務めた。東大 EMP は、社会のトップリーダーにたいして、東京大学が新たな時代に向けて編み出したリベラルアーツを講じ、「問い」を立てるマネジメント力を育成するプログラムである。2008 年開始当初から参加し、第 3 期は延べ 4 名が講師を担当した。

《第3期》

- ◆ 指導した大学院留学生数：221 人（平均年 37 人）
- ◆ 学振特別研究員受入数：30 人（平均年 5 人）
- ◆ 指導した院生の博士号取得数：2019～2021 年度の 3 年間で 18 人
- ◆ 全学自由研究ゼミナール：教員延べ 11 人が授業を担当
- ◆ 初年次ゼミナール文科：教員延べ 6 人が授業を担当
- ◆ 教養学部英語コース（PEAK）：教員延べ 12 人が授業を担当
- ◆ 学術フロンティア講義：延べ 25 人が授業を担当

（8）図書室の状況

本研究所が収蔵する図書は約 70 万冊、雑誌は約 1 万タイトルにのぼる。分野は広範なアジア諸地域の政治・経済・歴史・文学・芸術・宗教など多岐にわたり、言語も日本語や欧米諸語のほか、中国語・朝鮮語・アラビア語・タイ語・ペルシャ語・トルコ語・サンスクリット語・インドネシア語など 28 言語以上と多様である（資料 26）。中国法制史関係書（大木文庫）をはじめアラビア文字写本集成のダイバーコレクションなど、我が国では類例の少ない貴重な資料を含むコレクションも 47 件所蔵している。

1. 図書室の蔵書状況

第 3 期も継続して貴重な学術資料の収集につとめるとともに図書室において公開することでアジア研究者の利用に供した（資料 27）。また、正平本『論語』（14 世紀前半、日本で仏教經典以外では最初の本版印刷の書籍）や『哲学の導き』注解書の写本（13 世紀、アラビア語）など、国内外機関でも所蔵していない、今日では収集困難な貴重書を 1,300 余点、コレクションも数多く所蔵しており、貴重書庫の空調や環境を適正に維持管理することで、カビや劣化などを防ぎ、必要な修復を適時に実施できるよう管理した。2019 年には、『鹽谷温博士『元曲選』全訳稿』の寄贈を受けた。

特に第 3 期には、刊行頻度や契約価格が年毎に大きく変動するタイトル、刊行の都度契約が必要なタイトル、刊行が遅延気味または刊行予定が不明確なタイトル、書店との通常の購読契約では入手できないタイトルなど、アジア諸地域で刊行される雑誌の多くが該当するタイトルが、まさにそうした性格を理由として学術雑誌全学共通経費による購入対象から除外されるという事態が生じた。これに対し本研究所は、アジア研究に必要不可欠な中国・朝鮮・東南アジア・南アジア・西アジア・東欧・西欧・アメリカなどの雑誌 269 タイトルを買い支え、継続性を維持し、学内外の学生・研究者に閲覧・複写サービスを提供した。

《第3期》

◆期間中 25,518 冊受け入れ（年 4,253 冊）

◆2016～2019 年度の図書室利用者総数 11,048 人（年 2,762 人）

※2020、2021 年度はコロナ禍対策による利用制限を実施したため、図書室利用者総数は 1,470 人（年 735 人）

2. デジタルコンテンツ化

24 万冊の漢籍を中心とする東アジア関係資料はアジア研究のための第一級資料であり、東京大学 OPAC で検索可能とすることで広く利用に供するため、漢籍書誌情報の遡及入力を継続し、目録化した。

また本研究所は、2006 年度から「アジア古籍電子図書館」等貴重書等のデジタルデータを公開してきた実績があり、第 3 期も所蔵貴重資料の撮影やマイクロフィルムのデジタル化等のデジタルアーカイブ構築を推進し、「アジア研究図書館デジタルコレクション」、「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」を含む多様なプラットフォームで、国際的に通用する最新の規格（当面は IIIF）に準拠したデータを提供し、国内外の研究教育活動での利用に供した。

特に、2018 年度から国文学研究資料館が代表である「日本語の歴史的典籍のデータベース構築事業」に参加し、所蔵和古書の撮影、画像公開を行った。また 2020 年度には、アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）と連携し、所蔵する水滸伝関係資料 2 点のデジタル撮影を行ない、総合図書館や人文社会系研究科の所蔵資料をも含めたアジア研究図書館デジタルコレクション「水滸伝コレクション」の一角として高精細画像を公開した（資料 28）。

なお、資料のデジタル化にあたっては、資料撮影の高い技術をもった技術専門職員を画像技術室に 1 名配置し、継続的なデジタル化作業を実現した。

これらのデータ等の整備を通じて多様で稀少な学術資料の保有・利用を実現することで、世界の研究者が集うアジア研究の拠点として、世界最高水準のアジア研究環境を構築した。

《第3期》

◆期間中の漢籍書誌情報遡及入力数約 7 万冊（年 1 万冊）

漢籍 24 万冊のうち第 3 期末までに 207,486 冊の遡及入力済

◆期間中の図書資料デジタル化コマ数約 17 万コマ（年約 28,500 コマ）

3. 図書館等実務担当者向けの漢籍整理長期研修

漢籍整理の普及をはかることを目的とした文部省主催の漢籍担当職員講習会が 1972 年から本研究所で実施されてきたことに始まる。1980 年以降は本研究所の主催となり、全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施している。6 月に開催する前期講習と、9 月に開催する後期講習がある。10 日間の研修では、実習や見学を交えながら、本研究所の教員や専門家による講義が行われ、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、漢籍データベースに至るまで、幅

最も多い年で、2019 年に約 2,042 万件を超える利用件数を記録した（資料 32）。なお、データベースの構築、公開にあたっては、情報処理を専門とする助教 1 名を雇用し、適正に管理した。

第 3 期には、「世界と日本」のリニューアルと「當代日本興東亞研究」の新規公開を行った。データベース「世界と日本」は、科研費で行われたいくつかのプロジェクトの成果の一部を広く活用に供するために構築しているデータベースである。戦後日本の国際関係における重要文書や演説を見ることができる『日本政治・国際関係データベース』、20 世紀、21 世紀の世界の出来事を検索できる『データベース 20 世紀・21 世紀年表』、国際関係の『略語データベース』がある。

データベース「當代日本興東亞研究（現代日本と東アジア研究）」は、日本学術振興会（JSPS）の助成を受けて構築された。中国語と英語によるアジアの国際関係に関する学術情報を蓄積したプラットフォームとして公開している。

このほか、第 3 期中にはデジタルアーカイブ「インド史跡調査団」のデータをモニュメントごとに分類、再整理し、世界的規模のデータベースに載せて国際発信するための準備を実施した。

2. 機関推進プロジェクト

当センターの研究分野は美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を扱う造形資料学分野、漢字や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を扱う比較文献資料学分野、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を扱うアジア社会・情報分野に分かれている。

これらの各分野について、当センターが提供すべき研究情報の収集、資料の整理及びデータベース構築を目的に、東洋学研究情報センターおよび東洋文化研究所が中心となって進める機関推進プロジェクトを学内外の研究者との共同研究で推進した（資料 33）。また、これらアジア研究に必要な書誌・資料などのドキュメンテーションに関する研究成果を東洋学研究情報センター叢刊として刊行した（資料 23）。

（10）収入の状況

第 3 期の年平均収入は 281,922 千円で、国立大学の運営費交付金が全国的に伸び悩むなか、第 2 期の平均収入 280,862 千円とほぼ同水準を維持した（資料 34）。第 3 期は特に、寄付金や受託研究といった外部資金の獲得に積極的に取り組み、2020 年度より URA を 1 人採用し、外部資金の獲得を支援している。

寄付金では、ダイキン―東大産学協創協定の下で 2019 年度より EAA が「空気の価値化ビジョン」社会連携研究部門に参画し（院長：中島隆博）、ダイキン工業から毎年約 5,300 万の寄付を受け入れている。このほか、データベース「世界と日本」（研究代表：田中明彦）や中国における社会意識調査（研究代表：園田茂人）に対する企業からの寄付金を受け入れた。

競争的資金では、サントリー文化財団（2 件）やトヨタ財団（2 件）、鹿島美術財

団（2件）、JFE21世紀財団（2件）、三菱財団、米日財団、旭硝子財団、三島海雲記念財団などの主要な研究助成団体からの研究助成金を多数受け入れた。

受託研究では、2014年～2019年度まで学振研究拠点形成事業（研究代表：羽田正）の、2019年度には二国間交流事業（研究代表：森本一夫）の委託金を受け入れた。

教員の科研費取得率は第3期平均62.8%で、半数以上の教員が科研費によって研究活動を推進した。また、科研費の新規採択率は53.9%と、全国平均（約26.7%）、国立大学平均（約29.6%）、本学平均（約38.2%）を大きく上回る高い水準を維持した（資料35）。特に、2021年度は70%と高く、本研究所教員の研究の学術的、社会的意義の高さを示しているとともに、URAによる申請支援の効果が表れた結果となった。

《第3期》

- ◆ 100万円以上の受託研究及び寄付金31件（年5件）
- ◆ 科研費の新規採択率平均53.9%（本学平均38.2%）

（11）研究資源の公開およびアウトリーチ活動等の状況

1. 所外への研究資源の公開

本研究所が所蔵する図書や考古遺物を、国内外の5件の事業に貸し出し、提供することで、研究資源の所外での公開につとめた（資料36）

特に、2019年6月20日～9月16日には、神奈川県立金沢文庫特別展「東京大学東洋文化研究所×金沢文庫 東洋学への誘い」を開催し、漢籍善本、敦煌遺書、キジル壁画、東方文化学院東京研究所旧蔵資料など100点を貸し出し、展示した。そして、それにあわせて図録『東洋学への誘い』を刊行するとともに、金沢文庫において連続講座「東洋学への誘い」を5回開催した。

また海外では、インドにおいて「Heritage of Delhi（デリーの遺産）」と題する写真展をインド国立博物館（2018年11月16日～30日）及び国際交流基金ニューデリー日本文化センター（2019年5月3日～6月12日）を会場として開催し、本研究所が所蔵する東京大学インド史跡調査団が1959～60年と1961～62年に撮影したイスラーム建築遺構写真と、東洋学研究情報センターの機関推進プロジェクトによって2015年と2018年に撮影した遺跡の状況とを比較展示した。

2. アウトリーチ活動

本研究所の優れた研究資源・研究成果を社会に還元するため、様々な機会を活用して所外へ発信した（資料37）（コロナ禍のため、2020年度のイベントは原則中止）。一般に向けては、「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、研究所が長年蓄えてきた知的ストックをもとにして、研究所スタッフがわかりやすく解説する公開講座を毎年開催した。なお、2021年度は、本研究所創立80周年記念特別公開講座としてオンラインで開催し、180人を超える参加者があった。

また、第3期期間中には国立大学附置研究所・センター長会議第3部会が毎年持

ち回りで開催するシンポジウムを 2019 年に担当し、「真贋のはざま—思想・文学・美術から—」を 2019 年 10 月 18 日に東京大学において開催した。

高校生へのアウトリーチ活動としては、毎年夏に開催している高校生のためのオープンキャンパスに参加し高校生向けのイベントを行なった。2017 年夏には、770 人の生徒が来場し盛況となった。また、本学の『東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～』事業でも、高校生にアジア研究に関する講義を行った。さらに、学校単位で申し込みがあった上野高校や西大和学園、土浦第一高等学校、鹿児島ラサール高校など、都内外の高校からの研究所見学・特別講義を随時受け入れた。

このほか、本研究所の日本語及び英語、中国語のホームページを適宜更新し、最新の情報を発信したほか、Facebook や X を通じてイベントなどの告知を実施した。2020 年より英語のホームページリニューアルの準備を開始した。

《第 3 期》

- ◆ 公開講座開催回数 5 回
- ◆ 高校生へのアウトリーチ活動 24 回（平均年 6 回）
※コロナ禍のため、2020 年度、2021 年度は高校生を受け入れなかった。

(12) 研究者コミュニティや社会への貢献状況

本研究所の教員の多くがアジア研究各分野の主要学会において学会長・理事長、副会長・副理事長、理事や委員などを務め、その分野の学術研究の発展を先導した。特に、学会活動の根幹である学会誌の編集委員や査読委員を務めることで、学術の正しい発展に寄与した。また、公私の研究機関、財団などで理事や運営委員、諮問委員、審査員などを務め多方面から研究者コミュニティや社会に貢献した。さらに、各種交流協会や NPO、市民団体の理事や評議員、アドバイザーを務めることでアジア研究者としての見識を広く社会に還元した（資料 38）。

V. 第3期中期目標期間の自己点検

本研究所は、本研究所が定めた第3期中期目標の達成のため、第2期に構築した国際的研究体制、交流協定を第3期中に実体化させ、最先端のアジア研究者らとの多様な手法、多角的な視点による国際連携プロジェクトを9件推進し、国際的研究ハブとして世界的な研究者ネットワークを強化した。これに伴い、国際的研究プロジェクトの諮問委員や学術雑誌の編集委員など、各教員の国際的研究活動の幅を大いに広げることができた。第3期中に受け入れた訪問研究員の数、第2期の年平均84人より増加し、年平均95人となった。さらに、このような顕著な国際活動の実績が認められ、ダイキン工業の支援による北京大学と連携した異分野融合の研究プロジェクト「東アジア藝文書院」(EAA)を立ち上げ、新たな学問領域の創成、アジアに関する卓越した総合的研究に積極的に取り組んだ。そして、このような世界の最先端の研究とつながる研究体制を構築したことで、第3期には社会的に評価される数多くの優れた研究が生み出され、日本学術振興会賞などの多くの学術賞の受賞につながった(目標1)。

また、図書室とアジア研究図書館との連携を進めるための准教授を1名新たに採用して、希少な学術雑誌の収集継続や貴重資料のデジタル化、目録化を推進した。これにより利用者の研究環境や利便性を向上させ、アジア研究のための世界屈指の図書室としての存在感を高めた。英文エディタの准教授の配置は第3期も継続し、*IJAS* や *UTSA* ではアドヴァイザリーボードとして国籍も専門性も多様な一流のアジア研究者を参画させることで、その水準を高いレベルに維持することに努め、*IJAS* の投稿数やダウンロード数を第2期から大いに上昇させた。第3期に開始した *UTSA* や *UT-IPI* といった英文図書刊行事業は、アジアの優れたアジア研究を世界に発信する媒体であり、本研究所が創発し、第4期から開始する新しいアジア研究モデルである *Global Asian Studies (GAS)* の準備と合わせて特筆できる取り組みである。あわせて、著名外国人教授の招へいや最先端のアジア研究者によるセミナー等を定期的に開催することで、「知の協創の世界拠点」にふさわしいアジア研究のための環境を充実させた(目標2)(目標3)。

社会連携の側面では、ダイキン工業との連携による「空気の価値化ビジョン」に参画し、社会的共通資本としての空気を提唱することで国際社会の持続的発展に貢献した。また、各教員は国内外で、様々な公私の団体、組織において理事や諮問委員を務めることで、研究者としての社会的役割を果たした(目標4)。

教育においては、*GJS* や *GHC*、プリンストン大学との共同教育プロジェクトにおいて自らが主体的に考える機会を提供するフィールドワークや、院生の研究成果に対し世界の一流研究者らがレビューするサマーインスティテュートやウインタースクールなどを定期的に開催し、新しい知を生み出す意欲のある社会人、研究者の育成に貢献した(目標5)。

以上、本研究所は、第3期の6年間にわたり、知の協創の世界拠点にふさわしいグローバルなアジア研究のための環境を充実させることで、世界に先駆けて新たな知を生み出し得る世界最高水準の研究を実施するとともに、新しいアジア研究モデルを創発した。そして、その研究成果を社会や教育に還元し社会の持続的発展に貢献することができた。

《資 料》

(資料1) 活動記録写真



第6回 東京大学東洋文化研究所、復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部共催国際学術会議「東アジアの文化交流における宗教、文学と画像」於：プリンストン大学（2016年12月16-17日）



成均館大東アジア学院、延世大学校国学研究院、東京大学東洋文化研究所、京都大人文科学研究所の研究者らによる共同シンポジウム「アジアの女性」於：成均館大学（2019年1月22日）



プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト
Joint Field Trip Rikuzentakata 2017



復旦大学文史研究院主催、東京大学東洋文化研究所・プリンストン大学東アジア研究学部共催サマースクール「アジアの芸術、宗教と歴史研究」於：復旦大学（2016年6月24日-7月1日）



中央研究院社会学研究所との国際交流協定を更新（2019年6月17日）



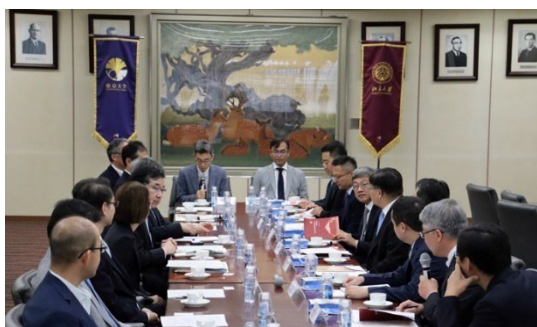
国際総合日本学（GJS）ネットワーク ラウンドテーブル・ワークショップ（2019年6月24日）



Global Japan Studies (GJS) Summer Program 2019
於：東京（2019年7月1日-11日）



HKU-UTokyo Joint Summer Program (GJS) 2018
於：香港（2018年8月1日から13日）



東アジア藝文書院（EAA）設立記念セレモニー 於：東京大学（2019年7月23日）



LOOK 東大セミナー「「哲学する」ためのレッスン・ダイキンの皆さんと試みる協働ことはじめ」於：東京大学（2020年8月26日）



第4回 GHC 共同研究セミナー“National Narratives of Global Integration” プリンストン大学（2018年1月26日～27日）



The 5th Summer School on Global History (GHC) 於：東京大学（2019年9月2日）



映画シンポジウム「アジアを知る—『真昼の星』上映&ウサーマ・ムハンマド監督講演」於：東京大学（2019年10月17日）



名和克郎教授が第34回大同生命地域研究奨励賞を受賞（2019年7月19日）



佐藤仁教授が第21回国際開発研究・大来賞を受賞（2018年2月1日）



馬場紀寿准教授（当時）が日本学術振興会賞を受賞（2019年2月7日）



『鹽谷温博士『元曲選』全訳稿』の受贈
(2019年7月)



東京大学東洋文化研究所創立 80 周年記念特別公開
講座 (2021 年 10 月 16 日)
コロナ禍の最中、オンラインで開催



第 18 回公開講座『アジアの教』講師：藏本龍介准教授
(2018 年 10 月 20 日)



2019 年度後期漢籍整理長期研修 (2019 年 9 月 2 日
-6 日)



写真展「デリーの遺産 (Heritage of Delhi)」於：イン
ド国立博物館／国際交流基金ニューデリー日本文化セ
ンター (2018 年 11 月 16 日-30 日)



特別展「東京大学東洋文化研究所×金沢文庫 東洋
学への誘い」於：神奈川県立金沢文庫 (2019 年 6
月 20 日-9 月 16 日)



高校生のための東京大学オープンキャンパス 2019
(2019 年 8 月 7 日-8 日)



画像技術室の技術専門職員による漢籍や図書資料の
デジタル化

(資料2) 第3期に更新・新規締結された交流協定一覧

国名	協定締結先	協定形態	締結年度
中国	北京大学歴史学系	その他協定	2010-
	復旦大学	部局覚書	2020-
	香港大学	全学協定・関係部局	2013-
	南京大学	全学協定・関係部局	2009-
台湾	中央研究院社会学研究所	部局協定・幹事部局	2010-
インドネシア	インドネシア大学	全学協定・関係部局	2005-
ブルネイ	ブルネイ・ダルサーラム大学人文・社会科学部	部局協定・幹事部局	2005-
韓国	延世大学校	全学協定・関係部局	1998-
イラン	テヘラン大学	全学協定・関係部局	1997-
エジプト	カイロ大学	全学協定・関係部局	1998-
フランス	社会科学高等研究院〔EHESS〕	全学協定・関係部局	2006-
	コレージュ・ド・フランス	全学協定・関係部局	2012-
ドイツ	ボン大学	全学協定・関係部局	2016-
イタリア	ナポリ東洋大学	部局協定・幹事部局	2012-
米国	シカゴ大学	全学協定・関係部局	2017-
チリ	チリ・カトリック大学	全学協定・関係部局	1996-

(資料3) 国際総合日本学ネットワーク (GJS) 研究プログラム
(2014 年度～2021 年度)

	開催日	開催場所	種別	学術集会名	講演者
1	2016 年 6 月 9 日	東京大学	講演会	第 12 回 GJS 講演会 (東文研共催) “Explaining Japan's 50-year Failure to Exploit Its Vast Geothermal Energy Resources”	Jacques E. C. Hymans (Associate Professor of International Relations, University of Southern California)
2	2016 年 7 月 7 日	東京大学	講演会	第 13 回 GJS 講演会 「The Nanban Sweets and the Trade - from the view of global history / 南蛮菓子の伝来と貿易—グローバル・ヒストリー的に—」	岡美穂子 (東京大学史料編纂所助教)
3	2016 年 10 月 6 日	東京大学	講演会	第 14 回 GJS 講演会 “When Honesty Ceased to be the Best Policy: Foundation of Political Rhetoric of Meiji Japan”	五百旗頭薫 (東京大学法学政治学研究科教授)
4	2016 年 11 月 7 日	東京大学	講演会	第 15 回 GJS 講演会 “Shinto—A Religion of the Signifier?”	Fabio Rambelli (Professor, Religious Studies and East Asian Languages, The University of California, Santa Barbara)
5	2016 年 11 月 11 日	東京大学	講演会	第 16 回 GJS 講演会 “The heart of Japanese Creativity”	トマス・カスリス (オハイオ州立大学特別名誉教授)
6	2016 年 11 月 24 日	東京大学	講演会	第 17 回 GJS 講演会 “Countries for Commercial Relations: The Tokugawa Struggle to Control Chinese in Japan”	松方冬子 (東京大学史料編纂所准教授)
7	2017 年 2 月 4 日	東京大学	講演会	第 18 回 GJS 講演会 (東文研・ASNET 共催) 「もう一つの「歴史のための弁明」: 東アジア相互嫌悪感情と帝国談論に向かい合う」	白永瑞 (延世大学教授)

8	2017 年 3 月 27 日	東京大学	講演会	第 19 回 GJS 講演会 「追いついた近代：二つの学問共同体の狭間で考えていること」	荻谷剛彦（オックスフォード大学教授）
9	2017 年 5 月 15 日	東京大学	講演会	第 20 回 GJS 講演会 「Repetition and Recovery: The Limits of Reason in Post 3.11 Japan / 東日本大震災後における理性の限界」	マイケル・フィッシュ（シカゴ大学人類学部教授）
10	2017 年 5 月 30 日	東京大学	講演会	第 21 回 GJS 講演会 「『銀子事之外悪しく』－近世日本の領国貨幣の誕生と終焉」	ギヨーム・カレ（Associate Professor, Ecole des hautes Etudes en Sciences Sociales,EHESS）
11	2017 年 6 月 14 日	東京大学	講演会	第 22 回 GJS 共催講演会 「グローバル時代の日本学研究」	パトリシア・シュタインホフ（ハワイ大学マノア校社会学部教授・学部主任）
12	2017 年 6 月 15 日	東京大学	講演会	第 23 回 GJS 講演会 「大地を撮る－濱谷浩から中平卓馬まで」	Bert Winther-Tamaki（カリフォルニア大学アーバイン校人文学部）
13	2017 年 12 月 7 日	東京大学	講演会	第 24 回 GJS 講演会 “Small Voices, Screaming Bodies: Poetic Witnesses of the Showa Period”	エリス俊子（東京大学総合文化研究科教授）
14	2018 年 1 月 19 日	東京大学	講演会	第 25 回 GJS 講演会 「多様化と収斂－明治日本における機関車技術の発展」	中村尚史（東京大学社会科学研究所副所長・教授）
15	2018 年 5 月 15 日	東京大学	講演会	第 26 回 GJS 講演会 「近世日本における個人性」	Peter Nosco（ブリティッシュコロンビア大学教授）
16	2018 年 5 月 29 日	東京大学	講演会	第 27 回 GJS 講演会 「和辻哲学の視点による「尊厳」の再構想」	ジョン・マラルド（ノースフロリダ大学名誉教授）
17	2019 年 10 月 25 日	東京大学	講演会	第 28 回 GJS 講演会 “Filling the “Spiritual Vacuum”: The Educational Legacy of Occupation Reforms in Japan”	ジョリオン・トーマス（ペンシルベニア大学宗教学部助教授）

18	2021 年 4 月 16 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 1 回) 講演 1「韓国における日本研究の現状と課題：翰林大学日本学研究所の目指すところ」 講演 2「ソウル大学日本研究所の活動：日韓における生活世界の危機を直視し、新たな連帯を求める」	徐禎完（翰林大学日本学研究所長）、趙寛子（ソウル大学日本研究所副教授）
19	2021 年 5 月 11 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 2 回) 「韓国の日本研究：国民大学日本学研究所を中心に」	崔喜植（国民大学日本学研究所長・教授）
20	2021 年 6 月 22 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 3 回) 「韓国人類学の日本研究：1980 年代から現在まで」	権肅寅（ソウル大学人類学科教授）
21	2021 年 7 月 20 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 4 回) 「ラウンドテーブル方法としての「日本」？中国における日本研究の課題と可能性」	鍾以江（東洋文化研究所准教授）、劉岳兵（南開大学日本研究院院長・教授）、王中忱（清華大学日新書院院長・中国言語文学学部教授）、林少陽（香港城市大学中文及歴史学部教授）
22	2021 年 10 月 26 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 5 回) “Japanese Studies in Indonesia: Crisis and Reorientation”	Dr. Fadjat I. Thufail (Research Center for Area Studies, National Research and Innovation Agency, Indonesia)
23	2021 年 11 月 2 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 6 回) “Hanging by a thread of a Dreaming Precariat: Mitigating the death of Japanese Studies in the Philippines”	Karl Ian Uy Cheng Chua (Professor, Director, Japanese Studies Program, Ateneo de Manila University, the Philippines)
24	2021 年 11 月 23 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ (第 7 回) “Japanese Studies in India: Present State and Future Prospects”	Dr. P. A. George (Professor and Chairperson, Centre for Japanese Studies School of Language, Literature and Culture Studies Jawaharlal Nehru University)

25	2021 年 12 月 10 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ（第 8 回） “The Rise and Eclipse of Japanese Studies in Thailand”	Kitti Prasirtsuk (Professor, Political Science, Thammasat University, Thailand)
26	2022 年 1 月 18 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ（第 9 回） 「Japanese Studies in Malaysia / マレーシアにおける日本研究」	Md Nasrudin Bin Md Akhir (Professor, Department of East Asian Studies, Faculty of Arts & Social Sciences, Universiti Malaya)
27	2022 年 1 月 25 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ（第 10 回） 「ベトナムにおける日本研究：現状と課題 / Japanese Studies in Vietnam: Current Status and Issues」	Phan Hai Linh (PhD. History / Associate Professor, Department of Japan studies, Faculty of Oriental studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University Hanoi)
28	2022 年 3 月 1 日	Zoom	講演会	アジアにおける日本研究講演会シリーズ（第 11 回） “Reflections on Japanese Studies in Singapore: Past, Present, and Future”	Timothy D. Amos (Associate Professor and Head of Department of Japanese Studies, National University of Singapore)
29	2016 年 6 月 16 日	東京大学	セミナー	第 21 回セミナー 「満洲国における「国籍」創出をめぐる葛藤—地縁社会と対峙する日本の「国民」観念」	遠藤正敬（早稲田大学台湾研究所次席研究員）
30	2016 年 6 月 16 日	東京大学	セミナー	第 22 回セミナー 「蔵原惟人と自然主義—1920 年代の日本における人間性の表現をめぐって」	チンユエン・レイ（プリンストン大学東アジア学部博士課程）
31	2016 年 6 月 30 日	東京大学	セミナー	第 23 回セミナー 「多宝塔の武士一日蓮の大曼荼羅と日本の武器・武具の装飾」	酒井孔明（コロンビア大学東アジア言語文化学部博士課程）
32	2016 年 7 月 14 日	東京大学	セミナー	第 24 回セミナー 「グローバルな高等教育の潮流に関する日本の対応」	エヴァ・リーアス（ベルリン自由大学東アジア研究科博士課程）

33	2016 年 7 月 21 日	東京大学	セミナー	第 25 回セミナー 「Women as Healers in Early Modern Japan / 近世医 療における女性の役割」	エヴァン・ヤング（ディキン ソン大学歴史学部助教授）
34	2016 年 11 月 10 日	東京大学	セミナー	第 26 回セミナー 「1970 年代～80 年代の日 韓連帯運動におけるトラン スナショナルなコミュニカ ティブ・ネットワーク」	李美淑（東京大学大学院総合 文化研究科「多文化共生・統 合人間学プログラム」特任助 教）
35	2016 年 11 月 21 日	東京大学	セミナー	第 28 回セミナー 「『子支那之犬養毅也、僕 日本之康有為也』－明治 後期の日中間における友 情の可能性を問い直す」	Eric Han (Associate Professor, College of William and Mary)
36	2016 年 12 月 12 日	東京大学	セミナー	第 28 回セミナー 「斯道－嘉納治五郎と日 本のエリート－」	ランス・ガトリング（株式会社 ネクシアル・リサーチ・宇宙防 衛コンサルティング社長）
37	2016 年 12 月 15 日	東京大学	セミナー	第 29 回セミナー／駒場 ASNET セミナー 「幻影を選択する－白石 晃士監督『シロメ』にみ るアイドルのリアリティ と演技性との架橋」	Lindsay Nelson (Lecturer, Center for Global Communication Strategies, The University of Tokyo)
38	2016 年 12 月 19 日	東京大学	セミナー	第 30 回セミナー 「日本統治下における台 湾史叙述をめぐるポリテ ィクス－米台日中それぞ れの視点から」	白根晴治（ニューヨーク市立 大学歴史学部助教授）
39	2017 年 2 月 13 日	東京大学	セミナー	第 32 回セミナー 「第二次大戦後の日本にお けるアニメーション製作の 国産化過程とその要因」	木村智哉（明治学院大学非常 勤講師）
40	2017 年 3 月 2 日	東京大学	セミナー	第 33 回セミナー 「東アジアを旅した倫理 教科書－19 世紀末から 20 世紀初まで」	Nam Nguyen (Professor, Department of Oriental Studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University in HCMC)
41	2017 年 3 月 6 日	東京大学	セミナー	第 34 回セミナー 「近代日本における進化論 と宗教」	ゴダール・クリントン（北海 道大学 現代日本学プログラ ム講師）

42	2017 年 4 月 24 日	東京大学	セミナー	第 35 回セミナー 「丸山真男の思想における近代性と歴史性」	莫易（オックスフォード大学 歴史学部博士課程）
43	2017 年 5 月 22 日	東京大学	セミナー	第 36 回セミナー 「帝国の帰郷、そのあと でー引揚者たちの経済体 験（1945～56）」	西崎純代（立命館大学国際関 係学部助教）
44	2017 年 5 月 29 日	東京大学	セミナー	第 37 回セミナー 「日本映画をめぐる問いー スペインの映画批評におけ るアニメとコメディ」	ホセ・モンターニョ（立教大 学異文化コミュニケーション 学部講師）
45	2017 年 6 月 5 日	東京大学	セミナー	第 38 回セミナー 「人種のトライアンギュ レーションー日本とハリ ウッド白人&黒人パディ 映画の文化政治学ー」	ブライアン・ロック（東京大 学教養学部特任講師）
46	2017 年 6 月 19 日	東京大学	セミナー	第 39 回セミナー 「儒教と京都学派ー京都 学派の政治思想に対する 東アジア的解釈」	トーマス・リドウェン（慶応 義塾大学専門員翻訳担当）
47	2017 年 7 月 3 日	東京大学	セミナー	第 40 回セミナー 「『正法念処経』の視覚的 ＜翻訳＞としての『餓鬼 草紙』」	若林晴子（プリンストン大学 東アジア学部非常勤講師）
48	2017 年 7 月 10 日	東京大学	セミナー	第 41 回セミナー 「「不毛な努力」？：千島 列島における外国毛皮猟 船への明治日本の対処」	山本敬洋（日本学術振興会特 別研究員 PD）
49	2017 年 7 月 20 日	東京大学	セミナー	第 42 回 セミナー 「グローバルな交差点と しての山村昌永著『西洋 雑記』と「牛皮之地」の 物語」	ダヴィデ・メルヴァルト（マ ドリード自治大学客員講師、 東京大学史料編纂所外国人研 究員）
50	2017 年 10 月 16 日	東京大学	セミナー	第 43 回 セミナー 「移動する理論としての 地政学：日本における地 政的想像の発展 1925～ 1945 年」	渡辺敦子（ウォーリック大学 グローバル化地域化研究セン ターアソシエイトフェロー）
51	2017 年 11 月 20 日	東京大学	セミナー	第 44 回 セミナー 「快楽の購入ー現代日本 における女性の性的探求 とフェミニズム」	ハンプルトン・アレクサンドラ （文京学院大学外国語学部助 教）

52	2017 年 11 月 27 日	東京大学	セミナー	第 45 回セミナー 「バック・トゥ・ザ・フューチャー—『大日本史』を通してみる水戸の知られざる物語」	アリーズ・ホルヴァート（東洋文化研究所訪問研究員）
53	2017 年 12 月 11 日	東京大学	セミナー	第 46 回 セミナー 「大日本帝国から再考するポスト帝国時代の人口移動—サハリン(樺太)から北海道への引き揚げを中心に」	ジョナサン・ブル（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教）
54	2017 年 12 月 18 日	東京大学	セミナー	第 47 回セミナー 「『東照大権現縁起』—家光による封土の神聖化とその装置」	イアン・シパリー（シカゴ大学歴史学部博士課程）
55	2018 年 2 月 5 日	東京大学	セミナー	第 48 回セミナー 「Japan's Pacific Overtures, 1600-1625: Rethinking Tokugawa-Habsburg Relations / 1600～1625 年における日本の太平洋進出—江戸初期の日西外交関係を再検討する」	ジョシュア・バッツ（東京大学史料編纂所外国人特別研究員）
56	2018 年 2 月 13 日	東京大学	セミナー	第 49 回 東文研・GJS 共催セミナー 「十八、十九世紀の漢文圏における相互認識と徂徠学派」	藍弘岳（台湾国立交通大学副教授）
57	2018 年 4 月 27 日	東京大学	セミナー	第 50 回 セミナー 「現代日本の多様性、社会経済、文化における変化：ミクロ、そしてマクロ的視点」	ポール・カポビアンコ（米国アイオワ大学 博士課程）
58	2018 年 5 月 25 日	東京大学	セミナー	第 51 回 GJS セミナー 「踊る政治：ウィーン会議と鹿鳴館」	フェリックス・ロシュ（英国コヴェントリー大学上級講師）
59	2018 年 7 月 20 日	東京大学	セミナー	第 54 回セミナー 「『方圓雑集』（軍事関連和訳本目録）と『図海策』（1856）—江藤新平らにおける制度知の交流」	ベルランゲ河野紀子（フランス・リール大学日本近現代史教授）
60	2018 年 10 月 26 日	東京大学	セミナー	第 55 回 セミナー 「近代人道活動の勃興：日本赤十字社と国際赤十字・赤新月運動」	鈴木 路子（ロンドン大学 SOAS 歴史学科・博士候補生）

61	2018 年 11 月 9 日	東京大学	セミナー	第 56 回 セミナー 「『不自由』な資本主義の もとの自由化ロジック: 日 本における新自由主義的経 済政策と社会経済制度の変 化」	ステファン・ヘーブ (ジュネ ーブ大学社会科学部社会 学部 研究アシスタント・博 士候補者)
62	2018 年 12 月 7 日	東京大学	セミナー	第 57 回セミナー 「東日本大震災後の LGBT 運動の影響と反響」	ナターシャ・フォックス (カナダ・ブリティッシュコ ロンビア大学地理学部博士候 補生)
63	2019 年 5 月 17 日	東京大学	セミナー	第 59 回 セミナー 「日本の原子力の未来を 想像する: 高度成長時代 における夢・理想・構 想」	ジョナサン・アンドリュ・ リアー (カリフォルニア大学 バークレー校歴史学部博士論 文提出志願者、東京大学社会 科学研究所客員研究員、フル ブライト・ジャパン大学院研 究員)
64	2019 年 6 月 14 日	東京大学	セミナー	第 60 回セミナー 「「グローバルヒストリア ン」としての村上直次 郎?: 批判的検討」	ビルギット・トレムル・ヴェ ルナー (チューリッヒ大学ポ スドク研究員)
65	2019 年 11 月 8 日	東京大学	セミナー	第 61 回セミナー 「宗教教誨の政治史と現 在」	アダム・ライオンズ (京都ア メリカ大学コンソーシアム博 士研究員)
66	2019 年 11 月 29 日	東京大学	セミナー	第 62 回セミナー 「帝国と搾乳: 近代日本 乳産業の歴史と文化」	堀口典子ジェーン (テネシー 大学准教授)
67	2019 年 12 月 13 日	東京大学	セミナー	第 63 回セミナー 「和辻哲郎の儒教的絆」	カイル・シャトルワース (日 本女子大学教授)
68	2019 年 12 月 17 日	東京大学	セミナー	第 64 回セミナー 「日本におけるチベット ディアスポラ政治学」	スティーブン・クリストファ ー (学振ポスドク研究員、京 都大学)
69	2020 年 1 月 10 日	東京大学	セミナー	第 65 回セミナー 「ラグビーで来日、文化 で滞在」	クリストファー・J・ヘイズ (京都府立京都学・歴史館 京 都学研究員、セインズベリー 日本藝術研究所 准研究員)
70	2020 年 1 月 31 日	東京大学	セミナー	第 66 回セミナー 「科学研究会東京学派の 研究: 東京学派とフラン スの哲学」	エディ・デュフルモン (ボル ドー・モンテーニュ大学准教 授)、中島隆博 (東洋文化研 究所教授)

71	2020 年 6 月 16 日	Zoom	セミナー	第 67 回セミナー 「首里城：ウフグシクの復元 (1992 年) から火災 (2019 年) までの意味と意義」	トラビス・サイフマン (東京 大学史料編纂所特任研究員)
72	2020 年 6 月 19 日	Zoom	セミナー	第 68 回セミナー 「書評セッション『中国 料理と近現代日本』をめぐって」	園田茂人 (東洋文化研究所教授)
73	2020 年 10 月 27 日	Zoom	セミナー	第 69 回 セミナー 「中国のリベラル系商業 新聞における「日本像」 の多重構造 2009-2015」	チョウ・テンテン 刁恬甜 (香港大学博士課程学生)
74	2020 年 11 月 19 日	Zoom	セミナー	第 70 回 セミナー 「ベルリンへのロケット： 日本における航空の 未来派 1900 年～1939 年」	スポーダナ・ウィジェーラト ナー (慶應義塾大学非常勤講 師)
75	2020 年 12 月 22 日	Zoom	セミナー	第 71 回 セミナー 「高齢化社会の課題に取り 組むための日本タイ協 力：政策移転のダイナミ クス」	ナランダ・ロブソン (モナシ ュ大学 教育助手)
76	2021 年 1 月 19 日	Zoom	セミナー	第 72 回セミナー 「文学館と「文豪ストレ イドッグス」のコラボイ ベント：文学の振興の側 面から」	権民赫 コン・ミンヒョク (高麗大学博士課程学生)
77	2021 年 3 月 30 日	Zoom	セミナー	第 73 回 セミナー 「賀川豊彦：「日本のガン ジー」」	ボー・タオ 陶波 (早稲田大 学ビジティング・リサーチフ ェロー)
78	2021 年 5 月 25 日	Zoom	セミナー	第 74 回 セミナー 「日本社会は中国帰国者 を記憶するか」	山崎哲 (一橋大学大学院社会 学研究科博士後期課程、学振 DC2)
79	2021 年 6 月 1 日	Zoom	セミナー	第 75 回 セミナー 「教育にまつわる恐怖と期 待：米領フィリピンにおけ る日本人植民者の学校」	北田依利 (ラトガーズ大学 博士号候補生、東洋文化研究 所訪問研究員)
80	2017 年 12 月 13 日	東京大学	ワークシ ョップ	国際総合日本学ネットワ ーク特別企画 「東京大学・シカゴ大学合 同院生ワークショップと教 員ラウンドテーブル」	

81	2018 年 6 月 15 日	東京大学	ワークシ ョップ	東京学派の研究（第 1 回） 「アジアの概念化」	磯前順一（国際日本文化研究 センター教授）、松田利彦 （国際日本文化研究センター 教授）
82	2018 年 10 月 4 日	東京大学	ワークシ ョップ	東京学派の研究（第 2 回） 「中国哲学をめぐる」	佐藤将之（台湾大学教授）、 小島毅（東京大学教授）、石 井剛（東京大学教授）
83	2019 年 1 月 22 日	東京大学	ワークシ ョップ	東京学派の研究（第 3 回） 「日本哲学と東京大学の 哲学」	トマス・カスリス（オハイオ 州立大学特別名誉教授）、小 林康夫（青山学院大学、東京 大学名誉教授）
84	2019 年 6 月 24 日	東京大学	ワークシ ョップ	国際総合日本学（GJS）ネ ットワーク ラウンドテ ーブル・ワークショップ 「プラセンジット・デュ アラ教授の近著『グロー バル近代の危機：アジア の伝統と持続可能な未 来』の書評会」	プラセンジット・デュアラ （デューク大学）、磯前順一 （国際日本文化研究センタ ー）、中島隆博（東洋文化研 究所）、鍾以江（東洋文化研 究所）
85	2020 年 7 月 15 日	Zoom	ワークシ ョップ	東京学派ワークショップ 「江湖・無縁・アゴラー 松方冬子「普遍、アゴ ラ、グローバル・ヒスト リー」によせて、もうい ちど『自由』の在処を探 す」	石井剛（東京大学大学院総合 文化研究科教授）、大木康 （東洋文化研究所教授）、内 田力（東洋文化研究所特任研 究員）、松方冬子（東京大学 史料編纂所准教授）
86	2020 年 7 月 18 日	Zoom	ワークシ ョップ	東京学派ワークショップ 「包摂と排除：東京（帝 国）大学の近代学知」	鍾以江（東京大学）、磯前順 一（国際日本文化研究センタ ー）、平野克弥（カリフォル ニア大学ロサンゼルス校）、 上村静（尚絅学院大学）、小 田龍哉（同志社大学）、吉田 一彦（名古屋市立大学）、川 村寛文（関東学院大学）、関 口寛（四国大学）、片岡耕平 （北海花園大学）、中島隆博 （東京大学）
87	2020 年 9 月 30 日	Zoom	ワークシ ョップ	東京学派ワークショップ 「社会学の中の東京学 派」	園田茂人（東京大学）、中筋 直哉（法政大学）、矢野善郎 （中央大学）、米村千代（千 葉大学）

88	2019 年 11 月 5 日	東京大学	シンポジウム	東京学派研究会 「東アジアの伝統仏教学と近代仏教学」	柳幹康（花園大学国際禅学研究所副所長）、一色大悟（東京大学ヒューマニティーズセンター特任助教）
89	2020 年 1 月 27 日	東京大学	シンポジウム	東京学派の研究シンポジウムシリーズ 「東京学派：その求心力と遠心力」（第 1 回）	武川正吾（明治学院大学教授）、エディ・デュフルモン（ボルドー・モンテーニュ大学准教授）
90	2020 年 10 月 17 日	Zoom	シンポジウム	東京学派シンポジウム 「東京学派と日本古典－源氏物語をめぐって」	中島隆博（東京大学）、木村朗子（津田塾大学）、穂矢まりえ（『源氏物語 A・ウェイリー版』訳者）、森山恵（『源氏物語 A・ウェイリー版』訳者）、ポール・シャロウ（ラトガーズ大学）、寺田澄江（フランス国立東洋言語文化大学）、藤井貞和（東京大学名誉教授）、高木信（相模女子大学）
91	2016 年 8 月 24 日～9 月 2 日	東京大学	サマープログラム	第 1 回国際総合日本学（Global Japan Studies）サマープログラム “An Inquiry into Japan’s Postwar”	
92	2017 年 7 月 29 日～8 月 8 日	東京大学	サマープログラム	第 2 回国際総合日本学（Global Japan Studies）サマープログラム “An Inquiry into Japan’s Postwar”	
93	2018 年 7 月 31 日～8 月 10 日	東京大学	サマープログラム	第 3 回国際総合日本学（Global Japan Studies）サマープログラム “An Inquiry into Japan’s Postwar”	
94	2019 年 7 月 1 日～7 月 11 日	東京大学	サマープログラム	第 4 回国際総合日本学（Global Japan Studies）サマープログラム “An Inquiry into Japan’s Postwar”	

(資料4) 東アジア藝文書院 (EAA) における研究プログラム
(2019 年度～)

学術研究集会等の開催

2019 年 3 月 21～23 日

北京大学－東京大学ジョイントプログラム
立ち上げ会議

2019 年 6 月 25 日

EAA Workshop「哲学者とはどのような人々
か？－概念的・歴史的・社会的考察」
若澤 佑典（ヨーク大学）

2019 年 7 月 7 日

【共催】シンポジウム「世界哲学としての
中国哲学」
李晨阳（南洋理工大学）、張志強（中国社会
科学院）

2019 年 7 月 8 日

【共催】国際ワークショップ「東京学派と
近代教養の編成」
石田正人（ハワイ大学）、町泉寿郎（二松學
舎大学）、中島隆博（東京大学東洋文化研究
所教授・EAA 副院長）

2019 年 7 月 12 日

EAA ダイアログ(1)
パク・チョルヒ（ソウル大学校、東京カレッ
ジ招聘教授）×中島隆博（EAA 副院長）

2019 年 7 月 24 日

【共催】IAGS・EAA 共催セミナー「自民政
権の現在と今後」
パク・チョルヒ（ソウル大学校、東京カレ
ジ招聘教授）、内山 融（東京大学）

2019 年 7 月 26 日

EAA Forum「世界文学としての東アジア文
学」

武田将明（東京大学総合文化研究科准教授）、
鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）、
張旭東（北京大学、ニューヨーク大学）

2019 年 8 月 30 日

EAA Forum with Visiting Young Scholars Ju-
Ling Lee “Image, Body and Colonialism:
Taiwan under Japanese rule”/Kyle Peters
“Early Nishida Philosophy and Autopoiesis:
On Two Frameworks of Self Formation”/
Michael Facius “Narrating Edo pasts: Between
history and historying”

2019 年 10 月 24 日

EAA「中国近現代文学研究会」第 1 回
鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）、
王欽（EAA 特任講師）

2019 年 10 月 29 日

2019 年度秋学期の EAA 読書会第 3 回「文学
と共同体の思想」
王欽（EAA 特任講師）

2019 年 11 月 2 日～3 日

北京フォーラム 2019 第 13 分科会「書院に
よるリベラルアーツ教育：世界の経験とア
ジ ア の 経 験 Liberal Education through
College: World’s Experience and Asian
Experience」
石井剛（EAA 副院長）

2019 年 11 月 7 日

EAA「中国近現代文学研究会」第 2 回

王欽（EAA 特任講師）、鈴木将久（東京大学
人文社会系研究科教授）、裴亮（武漢大学文
学院准教授）

2019 年 11 月 12 日

2019 年度秋学期の EAA 読書会第 4 回「文学
と共同体の思想」

建部良平（EAA リサーチ・アシスタント）

2019 年 11 月 14 日～ 19 日

国際学術大会『『沖縄学』は可能なのかーポ
スト伊波普猷時代の挑戦と展望』

崎濱紗奈（EAA 特任研究員）

2019 年 11 月 15 日

【共催】中国社会文化学会 2019 年第 2 回例会
「歴史学のなかの「南京事件」」孫江（南京
大学）

2019 年 11 月 28 日

EAA「中国近現代文学研究会」第 3 回

鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）、
王欽（EAA 特任講師）

2019 年 12 月 1 日

EAA Forum「舞踏の越境ーメテオール《土
方異とその分身》をめぐって」

星野太（金沢美術工芸大学）、ボヤン・マン
チェフ（哲学者／ドラマトゥルク）、アニ・
ヴァセヴァ（アーティスト／演出）、レオニ
ード・ヨフチェフ（出演）、小林康夫（青山
学院大学）、國分功一郎（東京工業大学）

2019 年 12 月 9 日

EAA 第一回座談会「世界人間学宣言」

石井剛（EAA 副院長）、太田邦史（東京大学
大学院総合文化研究科長・教養学部長）、武
田将明（東京大学総合文化研究科准教授）、
伊達聖伸（東京大学総合文化研究科准教授）、

田辺明生（東京大学総合文化研究科教授）、
中島隆博（EAA 副院長）、馬路智仁（東京大
学総合文化研究科准教授）

2019 年 12 月 10 日

2019 年度秋学期の EAA 読書会第五回

具裕珍（EAA 特任助教）、王欽（EAA 特任
講師）

2019 年 12 月 12 日

“Rethinking (Asian) University: Institutional-
izing the Liberal Arts”

ブレガム・ダルグリーシュ（東京大学総合
文化研究科准教授）

2019 年 12 月 13 日

【共催】第 63 回 GJS セミナー「和辻哲郎の
儒教的絆」

カイル・シャトルワース（日本女子大学講
師）

2019 年 12 月 17 日

EAA Workshop “Chinese and Japanese Ethics:
History and Prospects”

Ryohei Tatebe (EAA) , Mizuki Uno (EAA),
Rika Dunlap (University of Guam), Michael
Hemmingsen(University of Guam)

2019 年 12 月 17 日

EAA セミナー「フランスの公共空間におけ
る宗教的中立性の拡大：新しいライシテに
向かって？」

エマニュエル・オーバン（フランス・ボワ
ティエ大学副学長、社会関係・法務・倫理
担当）、伊達 聖伸（東京大学総合文化研究科
准教授）、山元 一（慶應義塾大学教授）

2019 年 12 月 18 日

EAA セミナー「近現代中国の目に映るトルコ」
咎涛（北京大学歴史系副教授、EAA Visiting
Scholar）

2019 年 12 月 19 日

EAA/ IASA Seminar “The Writing of National History in the Early Period of Turkish Republic: Centering on Turkish History Thesis”
咎涛（北京大学歴史系副教授・EAA Visiting Scholar）、秋葉淳（東洋文化研究所准教授）、中島隆博（EAA 副院長）

2019 年 12 月 19 日

EAA ダイアログ(2)
ブレット・デービス（ロヨラ大学メリーランド校）×中島隆博（EAA 副院長）

2019 年 12 月 19 日

EAA「中国近現代文学研究会」第 4 回
鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）、王欽（EAA 特任講師）

2020 年 1 月 6 日～ 10 日

Winter Institute at NYU
羽田正（EAA 院長、東京大学副学長）、中島隆博（EAA 副院長）、武田将明（東京大学総合文化研究科准教授）、王欽（EAA 特任講師）、八幡さくら（EAA 特任助教）、建部良平（EAA リサーチ・アシスタント）

2020 年 1 月 7 日

EAA セミナー「ライシテ再考ー中国・日本の視点から」
咎涛（北京大学歴史系副教授、EAA Visiting Scholar）

2020 年 1 月 16 日

EAA 中国近現代文学研究会第 5 回
王欽（EAA 特任講師）

2020 年 1 月 17 日

EAA Forum “On Secularism from Historical and Regional Perspectives”
Zan Tao (PKU, EAA), James Babb (Institute of Social Science, UTokyo), Goto Emi (IASA, UTokyo)

2020 年 1 月 21 日

EAA ダイアログ(3)
咎涛（北京大学歴史系副教授、EAA Visiting Scholar）×羽田正（東京大学副学長・EAA 院長）

2020 年 1 月 22 日

EAA ダイアログ(4)
咎涛（北京大学歴史系副教授、EAA Visiting Scholar）×石井剛（EAA 副院長）

2020 年 1 月 29 日

EAA ダイアログ(5)
Eddy Dufourmont（ボルドー大学准教授）
×中島隆博（EAA 副院長）

2020 年 2 月 11 日

シンポジウム「東アジアにおける世界文学の可能性」
武田将明（東京大学総合文化研究科准教授）

2020 年 4 月 1 日

EAA 第 2 回座談会「World Kyōyō-gaku（世界教養学）and Future Liberal Arts」
中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、大石和欣（東京大学総合文化研究科教授）、渡邊雄一郎（東京大学総合文化研究科教授）、Jonathan Woodward（東京大学総合文化研究科教授）、岡田泰平（東京大学総合文化研究科准教授）、井上彰（東京大学総合文化研究科准教授）

2020 年 4 月 22 日

EAA オンラインワークショップ「感染症の哲学」
中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、王欽（EAA 特任講師）、張政遠（東京大学総合文化研究科准教授）、金杭（延世大学校）、國分功一郎（東京大学総合文化研究科准教授）

2020年4月23日
第1回「文学と共同体の思想」読書会
王欽（EAA 特任講師）

2020年5月2日
EAA 中国近現代文学研究会 第6回
王欽（EAA 特任講師）

2020年5月15日
EAA 座談会「アートの再定義」
中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、納富信留（東京大学人文社会研究科教授）、大石和欣（東京大学総合文化研究科教授）、田辺明生（東京大学総合文化研究科教授）、成田大樹（東京大学総合文化研究科准教授）

2020年5月25日
EAA・華東師範大学批評理論中心共催ワークショップ「伝染病と危機時代の文学と思想」
中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）

2020年6月6日
第2回「文学と共同体の思想」読書会
建部良平（EAA リサーチ・アシスタント）

2020年6月22日
第1回 石牟礼道子を読む会
宇野瑞木（EAA 特任研究員）、高山花子（EAA 特任研究員）

2020年7月4日
第3回「文学と共同体の思想」読書会
建部良平（EAA・リサーチアシスタント）

2020年7月6日
第2回 石牟礼道子を読む会

宇野瑞木（EAA 特任研究員）、高山花子（EAA 特任研究員）

2020年7月14日
EAA 第3回座談会「テクノロジーの時代における人間の学問」
中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、橋本摂子（東京大学総合文化研究科准教授）、イザベル・ジロドウ（東京大学総合文化研究科准教授）、羽藤英二（東京大学工学系研究科教授）、開一夫（東京大学総合文化研究科教授）

2020年7月15日
東京学派ワークショップ「江湖・無縁・アゴラー松方冬子『普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー』によせて、もういちど『自由』の在処を探す」
中島隆博（EAA 院長）、松方冬子（東京大学史料編纂所准教授）、内田力（東洋文化研究所特任研究員）、大木康（東洋文化研究所教授）、石井剛（EAA 副院長）

2020年7月20日
第3回 石牟礼道子を読む会
宮田晃碩（東京大学大学院博士課程）、高山花子（EAA 特任研究員）

2020年7月30日
EAA ウェビナー「コロナ危機と医療・介護政策過程」
石垣千秋（山梨県立大学准教授）、朴志善（岡山大学助教）、具裕珍（EAA 特任助教）

2020年8月3日
第4回 石牟礼道子を読む会
宇野瑞木（EAA 特任研究員）、高山花子（EAA 特任研究員）

2020年8月15日

第1回 日中韓オンライン朱子学読書会
田中有紀（東洋文化研究所准教授）

2020年8月17日

第5回 石牟礼道子を読む会
建部良平（EAA リサーチ・アシスタント）

2020年8月26日

LOOK 東大セミナー「「哲学する」ためのレ
ッスンダイキンの皆さんと試みる協働こ
とはじめ」
中島隆博（EAA 院長）

2020年8月26日

EAA オンラインワークショップ「感染症と
文学」
張政遠（東京大学総合文化研究科准教授）、
佐藤勢紀子（東北大学）、宇野瑞木（EAA 特
任研究員）、高山花子（EAA 特任研究員）、
デンニツァ・ガブラコヴァ（ヴィクトリ
ア大学ウェリントン）、潘文慧（香港公開大
学）、木村朗子（津田塾大学）

2020年8月31日

EAA ダイアログ(6)
小林康夫（東京大学名誉教授）×中島隆博
（EAA 院長）

2020年9月3日

【共催】羽根次郎『物的中国論』合評会
石井剛（EAA 副院長）

2020年9月4日

EAA オンラインワークショップ「石牟礼道
子の世界をひらく」
張政遠（東京大学総合文化研究科准教授）、
高山花子（EAA 特任研究員）、山田悠介（大
東文化大学）、宇野瑞木（EAA 特任研究員）、
鈴木将久（東京大学人文社会系研究科教授）、
前島 志保（東京大学総合文化研究科准教授）

2020年9月12日

第4回「文学と共同体の思想」読書会
宇野 瑞木（EAA 特任研究員）

2020年9月14日

第1回「東アジア音楽思想と術数」研究会
伊東 乾（情報学環）、稗田浩雄（未来工学研
究所・東洋琴学研究所）、李珍咏（学際情報
学府修士2年）、陳施佳（学際情報学府研究
生）、田中有紀（東洋文化研究所准教授）

2020年9月14日

第6回 石牟礼道子を読む会
高山花子（EAA 特任研究員）

2020年9月19日

第2回 日中韓オンライン朱子学読書会
田中有紀（東洋文化研究所准教授）

2020年9月28日

第7回 石牟礼道子を読む会
宇野瑞木（EAA 特任研究員）

2020年10月4日

許紀霖『普遍的価値を求める—中国現代思
想の新潮流』書評会
許紀霖（華東師範大学）、中島隆博（EAA 院
長）、石井剛（EAA 副院長）、村田雄二郎
（同志社大学）、星野太（早稲田大学）

2020年10月6日

IAGS・EAA 共催セミナー「コロナ危機と自
民党政権」
パク・チョルヒ（ソウル国立大学教授）、内
山融（東京大学総合文化研究科教授）、中島
隆博（EAA 院長）

2020年10月12日

第8回 石牟礼道子を読む会
高山花子（EAA 特任研究員）

2020 年 10 月 14 日

第 1 回 EAA ブックトーク

若澤佑典 (EAA 特任研究員)、前野清太朗
(EAA 特任助教)、高山花子 (EAA 特任研究
員)、建部良平 (EAA リサーチアシスタント)

2020 年 10 月 16 日

成功人文講座「東アジア儒学の近代的転換」
シンポジウム

石井 剛 (EAA 副院長)

2020 年 10 月 17 日

第 5 回「文学と共同体の思想」読書会

王欽 (EAA 特任講師)

2020 年 10 月 26 日

第 9 回 石牟礼道子を読む会

宇野瑞木 (EAA 特任研究員)

2020 年 10 月 30 日

第 1 回「部屋と空間プロジェクト」研究会

前野清太朗 (EAA 特任助教)、田中有紀 (東
洋文化研究所准教授)

2020 年 10 月 31 日

第 3 回 日中韓オンライン朱子学読書会

田中有紀 (東洋文化研究所准教授)

2020 年 11 月 10 日

第 2 回 EAA ブックトーク

前野清太朗 (EAA 特任助教)、若澤佑典
(EAA 特任研究員)、張瀛子 (EAA リサー
チ・アシスタント)、建部良平 (EAA リサー
チ・アシスタント)、高山花子 (EAA 特任研
究員)

2020 年 11 月 14 日

中国社会科学学会・EAA 共催座談会「天災
と人禍—思想と宗教、そして文学と歴史か
ら考える」

中島隆博 (EAA 院長)、佐川英治 (東京大
学)、渡邊義浩 (早稲田大学)、牧角悦子
(二松学舎大学)、伊藤聡 (茨城大学)

2020 年 11 月 14 日

EAA シンポジウム「東アジア音楽思想にお
ける和」

田中有紀 (東洋文化研究所准教授)、荒木雪
葉 (福岡大学)、榎木亨 (南昌大学)、中川
優子 (東京藝術大学大学院)、高欲生 (日本
古琴振興会)

2020 年 11 月 21 日

EAA オンラインワークショップ「石牟礼道
子と世界を漂浪 (され) く」

高山花子 (EAA 特任研究員)、宇野瑞木
(EAA 特任研究員)、宮本久雄 (東京大学名誉
教授)、宮田晃碩 (東京大学総合文化研究科博
士課程)、建部良平 (東京大学総合文化研究科
博士課程)、佐藤麻貴 (東京大学連携研究機構
HMC)、石井剛 (EAA 副院長)

2020 年 11 月 24 日

EAA Online Workshop “Identity, History, and
Legal Mobilization: Focusing on Japanese War
Orphans from China”

Hye-Won Um (PhD, The University of
Hawaii), Yoojin Koo (EAA)

2020 年 11 月 24 日

第 1 回 101 号館映像制作ワークショップ

高原智史 (EAA リサーチ・アシスタント)、
日隈脩一郎 (EAA リサーチ・アシスタント)、
小手川将 (EAA リサーチ・アシスタント)、
高山花子 (EAA 特任研究員)

2020 年 11 月 28 日

第 6 回「文学と共同体の思想」読書会

王欽 (EAA 特任講師)

2020 年 12 月 4 日

第 2 回 101 号館映像制作ワークショップ

石井剛 (EAA 副院長)、折茂克哉 (東京大学
駒場博物館)、星野太 (早稲田大学)

2020 年 12 月 5 日

第 4 回 日中韓オンライン朱子学読書会

陳韞超 (首都師範大学)、唐紀宇 (国際関係
学院)、田中有紀 (東洋文化研究所准教授)

2020 年 12 月 7 日

中国社会科学学会・EAA 共催座談会「中国
の近代と疫病」

中島隆博 (EAA 院長)、飯島渉 (青山学院大
学教授)、坂元ひろ子 (一橋大学名誉教授)、
下出鉄男 (東京女子大学教授)

2020 年 12 月 14 日

第 10 回 石牟礼道子を読む会

高山花子 (EAA 特任助教)

2020 年 12 月 16 日

ヒューム『自然宗教をめぐる対話』(1779)

新訳刊行記念ワークショップ「18 世紀の対
話篇を読む／論じる／翻訳する」

若澤佑典 (EAA 特任研究員)、犬塚元 (法政
大学法学部教授)、壽里竜 (慶應義塾大学経
済学部教授)

2020 年 12 月 18 日

第 3 回 101 号館映像制作ワークショップ

折茂克哉 (東京大学駒場博物館)

2020 年 12 月 20 日

GSI キャラバン研究プロジェクト公開シンポ
ジウム “Questioning the Idea of a “Small
Nation” in East Asian Contexts” (「東アジア
の文脈において「小国」概念を問い直す」)
伊達聖伸 (東京大学)、張政遠 (東京大学)、
スティーブン・ナギ (国際基督教大学)、傅
凱儀 (専修大学)、張彥啓 (立命館大学)、

サウリウス・ゲニューシャス (香港中文大
学)

2020 年 12 月 21 日

EAA・華東師範大学批評理論中心共催シン
ポジウム「歴史、社会、文学批評：中国現
代文学研究の方法及び射程」

王欽 (EAA 特任講師)、石井剛 (EAA 副院
長)、鈴木将久 (東京大学人文社会系研究科
教授)、朱羽 (上海大学中文系)、倪文尖
(華東師範大学中文系)、毛尖 (華東師範大
学国際漢語文化学院)、朱康 (華東師範大
学国際漢語文化学院)、羅崗 (華東師範大学中
文系)

2020 年 12 月 21 日

第 11 回 石牟礼道子を読む会

宮田晃碩 (東京大学総合文化研究科博士課
程)、建部良平 (EAA リサーチアシスタント)、
宇野瑞木 (EAA 特任研究員)

2020 年 12 月 22 日

EAA ダイアログ(7)

張政遠 (東京大学) × 石井剛 (EAA 副院長)

2020 年 12 月 22 日

第 3 回 EAA ブックトーク

前野清太郎 (EAA 特任助教)、若澤佑典
(EAA 特任研究員)、張瀛子 (EAA リサー
チ・アシスタント)、建部良平 (EAA リサー
チ・アシスタント)、崎濱紗奈 (EAA 特任研
究員)

2020 年 12 月 26 日

EAA オンラインワークショップ「感染症—
歴史と物語とのはざまで」

中島隆博 (EAA 院長)、張政遠 (東京大学)、
野家啓一 (東北大学名誉教授)、前野清太郎
(EAA 特任助教)、高山花子 (EAA 特任助
教)、石井剛 (EAA 副院長)

2021 年 1 月 9 日

王璞氏講演会「団結於遠方—革命世紀和中国作家の旅の書写」(EAA 連続ワークショップ「中国近代文学の方法および射程」第 1 回)
王璞 (米国・ブランダイス大学中国文学文化研究専攻・准教授)、鈴木将久 (東京大学人文社会系研究科教授)、石井剛 (EAA 副院長)、王欽 (EAA 特任講師)

2021 年 1 月 13 日

第 4 回 101 号館映像制作ワークショップ
高山花子 (EAA 特任助教)、小手川将 (東京大学総合文化研究科博士課程)、高原智史 (東京大学総合文化研究科博士課程)、日隈脩一郎 (東京大学教育学研究科博士課程)、崎濱紗奈 (EAA 特任研究員)

2021 年 1 月 18 日

第 12 回石牟礼道子を読む会
宇野瑞木 (EAA 特任研究員)

2021 年 1 月 20 日

姜涛氏講演会「“新的抒情”—何其芳『夜歌』中的“心境”与“工作”」(EAA 連続ワークショップ「中国近代文学の方法および射程」第 2 回)
姜涛 (北京大学中文系准教授)、鈴木将久 (東京大学人文社会系研究科教授)、石井剛 (EAA 副院長)、王欽 (EAA 特任講師)

2021 年 1 月 29 日

倪文尖氏講演会「風格・文気・体式—如何着手研読散文」(EAA 連続ワークショップ「中国近代文学の方法および射程」第 3 回)
倪文尖 (華東師範大学中文系准教授)、鈴木将久 (東京大学人文社会系研究科教授)、石井剛 (EAA 副院長)、王欽 (EAA 特任講師)

2021 年 2 月 1 日

第 13 回 石牟礼道子を読む会

宮田晃碩 (東京大学総合文化研究科博士課程)

2021 年 2 月 5 日

第 5 回 101 号館映像制作ワークショップ
田村隆 (東京大学)

2021 年 2 月 6 日

国際シンポジウム「朱子学の過去と未来」
石井剛 (EAA 副院長)、趙金剛 (清華大学哲学系)、唐文明 (清華大学哲学系)、中嶋諒 (明海大学外国語学部)、廖娟 (南開大学哲学院)、田中有紀 (東洋文化研究所)、許家星 (北京师范大学哲学学院)、姜智恩 (台湾大学国家發展研究所)

2021 年 2 月 8 日

EAA Art History Seminar in English
趙可卿 (中山大学西湾学院)、古川萌 (東京大学)、若澤佑典 (EAA 特任研究員)、前野清太郎 (EAA 特任助教)

2021 年 2 月 15 日

EAA オンラインワークショップ「コロナ危機と規制・財政政策」
早川有紀 (関西学院大学准教授)、田中雅子 (東京大学特任助教)、具裕珍 (EAA 特任助教)

2021 年 2 月 15 日

第 14 回 石牟礼道子を読む会
高山花子 (EAA 特任助教)

2021 年 2 月 17 日

第 4 回 EAA ブックトーク
前野清太郎 (EAA 特任助教)、若澤佑典 (EAA 特任研究員)、張瀛子 (EAA リサーチ・アシスタント)、建部良平 (EAA リサーチ・アシスタント)、崎濱紗奈 (EAA 特任研究員)、田中有紀 (東洋文化研究所准教授)

2021 年 2 月 20 日

EAA シンポジウム「哲学としての書院」

甘陽（清華大学）、李猛（北京大学）、石井剛（EAA 副院長）、田中有紀（東京大学）、孫飛宇（北京大学）、張政遠（東京大学）、趙曉力（清華大学）

2021 年 2 月 26 日

第 6 回 101 号館映像制作ワークショップ

小手川将（東京大学総合文化研究科博士課程）、高原智史（東京大学総合文化研究科博士課程）、日隈脩一郎（東京大学教育学研究科博士課程）

2021 年 3 月 9 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第 1 回 世界哲学史の可能性：中国とヨーロッパを付き合わせる

納富信留（東京大学人文社会系研究科）、中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、崎濱紗奈（EAA 特任研究員）、田村正資（EAA 特任研究員）

2021 年 3 月 10 日

EAA オンラインシンポジウム「三十年後の被災地」

高橋哲哉（東京大学総合文化研究科教授）、中島隆博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）、國分功一郎（東京大学総合文化研究科准教授）、王 欽（EAA 特任講師）、張政遠（東京大学総合文化研究科准教授）

2021 年 3 月 12 日

第 7 回 101 号館映像制作ワークショップ

高原智史（EAA リサーチ・アシスタント）、小手川将（EAA リサーチ・アシスタント）、石井剛（EAA 副院長）、高山花子（EAA 特任助教）、田村隆（東京大学）、星野太（早稲田大学）

2021 年 3 月 17 日

EAA 国際シンポジウム「一高中国人留学生と 101 号館の歴史」

太田邦史（東京大学）、石井剛（EAA 副院長）、中島隆博（EAA 院長）、宇野瑞木（EAA 特任研究員）、大里浩秋（神奈川大学）、汪 婉（北京大学／東京大学）、韓立冬（北京語言大学）、田村隆（東京大学）、薩日娜（上海交通大学）、高原智史（EAA リサーチ・アシスタント）、孫安石（神奈川大学）、岡本拓司（東京大学）

2021 年 3 月 22 日

EAA Online Workshop “Identity and Movements”

Takeshi Shirakawa (PhD Student, University of Hawaii), Sana Sakihama (EAA Project Research Fellow), Yoshiyuki Aoki (Visiting Lecturer, Dokkyo University), Hye-Won Um (PhD, University of Hawaii), Yoojin Koo (EAA), Ching-Yuen Cheung (Associate Professor, UTokyo)

2021 年 3 月 25 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第 2 回 世界における日本哲学を再考する

納富信留（東京大学人文社会系研究科）、苅部直（東京大学法学政治学研究科）、朝倉友海（東京大学総合文化研究科）、郭馳洋（東京大学総合文化研究科博士課程）

2021 年 3 月 31 日

EAA ダイアログ(8)

宮本久雄（東京大学名誉教授）×中島隆博（EAA 院長）

2021 年 4 月 1 日

EAA キックオフトーク「価値と価値化を問う」石井剛（EAA 副院長）、中島隆博（EAA 院長）、國分功一郎（東京大学総合文化研究科）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、王 欽（東京大学総合文化研究科）、張政遠（東京大学総合文化研究科）

2021 年 4 月 12 日

【共催】〈現代作家アーカイヴ〉文学インタビュー第 22 回（公開収録）松浦寿輝
松浦寿輝（小説家・詩人）、武田将明（東京大学総合文化研究科准教授）

2021 年 4 月 17 日

第 15 回 石牟礼道子を読む会
宮本久雄（東京純心大学看護学部）、張政遠（東京大学）、山田悠介（大東文化大学）、建部良平（東京大学大学院博士課程）、宮田晃碩（EAA リサーチアシスタント）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、高山花子（EAA 特任助教）、宇野瑞木（EAA 特任研究員）

2021 年 4 月 27 日

第 16 回 石牟礼道子を読む会
張政遠（東京大学総合文化研究科）

2021 年 4 月 30 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第 3 回哲学の領域横断的対話を求めて
納富信留（東京大学人文社会系研究科）、下田正弘（東京大学人文社会系研究科）、菊地達也（東京大学人文社会系研究科）、王寺賢太（東京大学人文社会系研究科）、笠松和也（東京大学人文社会系研究科博士課程）

2021 年 5 月 8 日

第 1 回東アジア仏典講読会
柳幹康（東洋文化研究所准教授）、小川隆（駒澤大学）

2021 年 5 月 14 日

International Conference “Reality and Fiction in Philosophy and Literature”
Takahiro Nakajima (UTokyo), Masaaki Takeda (UTokyo), Marion Gymnich (Univ. Bonn), Zakir Paul (NYU), Qin Wang (UTokyo), Tobias Keiling (Univ. Bonn), Todd Foley (NYU), Markus Gabriel (Univ. Bonn), Xudong Zhang (NYU)

2021 年 5 月 18 日

第 17 回石牟礼道子を読む会
宇野瑞木（EAA 特任研究員）

2021 年 5 月 21 日

第 1 回 沖縄研究会
崎濱紗奈（EAA 特任研究員）、張政遠（東京大学総合文化研究科准教授）

2021 年 5 月 25 日

第 18 回 石牟礼道子を読む会
高橋悠介（慶應義塾大学）、倉持長子（聖心女子大学）

2021 年 5 月 31 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第四回「中世と近世のあわい」
納富信留（東京大学人文社会系研究科）、山内志朗（慶應義塾大学文学研究科）、蓑輪顕量（東京大学人文社会系研究科）、渡辺優（東京大学人文社会系研究科）、田中浩喜（東京大学人文社会系研究科博士課程）

2021 年 6 月 11 日

第 2 回 EAA 沖縄研究会
神里雄大（『越えていく人—南米、日系の若者たちをたずねて』（亜紀書房）著者）、崎濱紗奈（EAA 特任研究員）、張政遠（東京大学総合文化研究科）

2021 年 6 月 12 日

第 2 回 東アジア仏典講読会
小川隆（駒澤大学）、柳幹康（東洋文化研究所准教授）

2021 年 6 月 15 日

第 19 回 石牟礼道子を読む会
兵藤裕己（学習院大学名誉教授）、宇野瑞木（EAA 特任助教）

2021 年 6 月 24 日

藤本文書アーカイヴ・レクチャー

丹羽みさと（立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター助教）、宇野 瑞木（EAA 特任助教）

2021 年 6 月 26 日

EAA Online WS “Cinema and Ideology”

Phil Kaffen (University of North Carolina at Charlotte), Max Ward (Middlebury College), Mitsuyo Wada-Marciano (Kyoto University), M. Downing Roberts (EAA, UTokyo)

2021 年 6 月 28 日

EAA-NUS Online WS “Expectations on the family: policies to encourage filial support in Asia”

Leng Leng Thang (National University of Singapore), Xiaolong Yang (UTokyo student), Mon Madomitsu (UTokyo student)

2021 年 6 月 29 日

第 20 回 石牟礼道子を読む会

山田悠介（大東文化大学）、宇野瑞木（EAA 特任助教）

2021 年 7 月 5 日

第 21 回 石牟礼道子を読む会

宇野瑞木（EAA 特任助教）

2021 年 7 月 12 日

第 22 回 石牟礼道子を読む会

高山花子（EAA 特任助教）

2021 年 7 月 12 日

EAA ダイアログ(9)

高橋哉（東京大学名誉教授）× 中島隆博（EAA 院長）

2021 年 7 月 14 日

EAA セミナー「東アジアからの批評理論」合同発表会

石井剛（EAA 副院長）、張政遠（東京大学総合文化研究科）、王欽（東京大学総合文化研究科）、王雨芊（東京大学大学院）、崔高恩（東京大学大学院）、朝倉智心（東京大学大学院）、胡婧（上智大学大学院）、ヴィクトリヤ・ニコロヴァ（東京大学大学院）

2021 年 7 月 22 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第 5 回世界哲学における「尊厳」概念

納富信留（東京大学人文社会系研究科）、加藤泰史（椙山女学園大学）、小島毅（東京大学人文社会系研究科）、犬塚悠（名古屋工業大学）

2021 年 7 月 22 日

【共催】フランスから見た #MeToo 運動ーラファエル・リオジエ『男性性の探究』をめぐって

ラファエル・リオジエ（Raphaël Liogier、エクス＝アン＝プロヴァンス政治学院教授）、隠岐さや香（名古屋大学教授）、大嶋えり子（金城学院大学講師）、増田一夫（東京大学名誉教授）

2021 年 7 月 24 日

【共催】東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ（GSI）キャラバンプロジェクト「主権の諸条件」第 1 回ワークショップ Koichiro Kokubun（UTokyo）、Jacques Lezra（UC Riverside）

2021 年 7 月 26 日

【共催】女性蔑視はどうつくられるかーラファエル・リオジエ『男性性の探究』をめぐって

ラファエル・リオジエ（Raphaël Liogier、エクス＝アン＝プロヴァンス政治学院教授）、三牧 聖子（高崎経済大学准教授）、清田 隆之（文筆業／『さよなら、俺たち』著者）、小川 公代（上智大学教授）

2021 年 7 月 29 日

【共催】シンポジウム・シリーズ「人文社会科学の未来」：これからの人文社会科学
Michael Facius（東京大学東京カレッジ准教授）、
中島隆博（EAA 院長）、Kerstin Cuhls (Scientific
Project Manager, Fraunhofer Institute for Systems
and Innovation Research)、Inanna HAMATI-
ATAYA (Founding Director, Centre for Global
Knowledge Studies, University of Cambridge)、柳
美君（Assistant Professor, Institute for Global
Public Policy, Fudan University）、王雯璐（東京大
学東京カレッジ特任研究員）

2021 年 7 月 30 日

第 3 回 沖縄研究会

前野清太郎（EAA 特任助教）、崎濱紗奈
（EAA 特任研究員）

2021 年 8 月 5 日

EAA 第 5 回座談会「「人間」を価値化する」
中島隆博（EAA 院長）、五神真（東京大学前
総長、東京大学理学系研究科）、田辺明生
（東京大学総合文化研究科）、野原慎司（東
京大学経済研究科）、柳幹康（東洋文化研究
所）、石井剛（EAA 副院長）

2021 年 8 月 10 日

第 23 回 石牟礼道子を読む会
高山 花子（EAA 特任助教）

2021 年 8 月 12 日

"EAA Global Lecture Series #1 "Approaches
to researching Somali poetry"

Martin Orwin (Associate Professor, University
of Naples "L'Orientale")、Mai Kataoka (Project
Research Fellow, EAA UTokyo)

2021 年 8 月 14 日

【共催】第六回ジャーナリズム研究会 シ
ンポジウム 朝日会館と〈コドモ〉文化
(1926-1935) —メディア、家庭、社会教育

佐藤宗子（千葉大学名誉教授）、前島志保
（東京大学総合文化研究科）、高山花子
（EAA 特任助教）、大森雅子（千葉大学准教
授）、紙屋牧子（玉川大学非常勤講師）、山
本美紀（青山学院大学教授）、畠山兆子（梅
花女子大学名誉教授）

2021 年 8 月 23 日

【共催】近世ヨーロッパの文化と東アジア
研究会 東アジアへの西欧の知の伝播の研
究 2021 年度第 1 回公開研究会

野原慎司（東京大学経済学研究科）、小野塚
知二（東京大学経済学研究科）、有江大介
（横浜国立大学名誉教授）、石原俊時（東京
大学経済学研究科）

2021 年 8 月 26 日

第 2 回 EAA 若手研究者研究会

前野清太郎（EAA 特任助教）、田村正資
（EAA 特任研究員）、崎濱紗奈（EAA 特任研
究員）、具裕珍（EAA 特任助教）、柳幹康
（東洋文化研究所）、田中有紀（東洋文化研
究所）

2021 年 8 月 28 日

第 8 回日中韓オンライン朱子学読書会

田中有紀（東洋文化研究所）、姜智恩（台湾
大学国家発展研究所副教授）

2021 年 8 月 28 日

旧制高等学校記念館「第 25 回夏期教育セミ
ナー」

宇野瑞木（EAA 特任助教）、高原智史（東京
大学大学院）、日隈脩一郎（東京大学大学
院）、横山雄大（東京大学大学院）、宋舒揚
（東京大学大学院）、石井剛（EAA 副院長）、
田村隆（東京大学総合文化研究科）、折茂克
哉（東京大学総合文化研究科）

2021 年 8 月 31 日

第 24 回 石牟礼道子を読む会

2021 年 9 月 2 日

第 1 回 EAA「批評」研究会

郭馳洋 (EAA 特任研究員)、片岡真伊 (EAA 特任研究員)、田中有紀 (東洋文化研究所)、佐藤麻貴 (EAA 特任准教授)、田村正資 (EAA 特任研究員)、高原智史 (東京大学大学院)

2021 年 9 月 5 日～7 日

Summer Institute 2021

Prof. Sato Maki (EAA, UTokyo)、Ms. Meng Tianyu (UNDP)、Prof. Ishii Naoko (Executive Vice President of UTokyo, Director of Institute for Future Initiatives, UTokyo)

2021 年 9 月 10 日

第 4 回「部屋と空間プロジェクト」研究会 & 第 7 回 EAA ブックトーク 大石 和欣『家のイングランド：変貌する社会と建築物の詩学』(名古屋大学出版会、2019) 合評会

田中有紀 (東洋文化研究所)、藤東君 (東京大学大学院)、大石和欣 (東京大学総合文化研究科)

2021 年 9 月 11 日

第 4 回東アジア仏典講読会

土屋太祐 (新潟大学准教授)、柳幹康 (東洋文化研究所)

2021 年 9 月 14 日

第 25 回 石牟礼道子を読む会

高山花子 (EAA 特任助教)、宇野瑞木 (EAA 特任助教)、池島香輝 (東京大学大学院)、宮田晃碩 (東京大学大学院)

2021 年 9 月 14 日

EAA シンポジウム「明治日本における東アジア哲学の起源」

佐藤將之 (国立台湾大学哲学系教授) 水野 博太 (東京大学ヒューマニティーズセンター特任助教)、林永強 (獨協大学准教授)、胡穎芝 (明治大学研究推進員)、片岡真伊 (EAA 特

任研究員)、山村奨 (昭和薬科大学非常勤講師)、田村正資 (EAA 特任研究員)、郭馳洋 (EAA 特任研究員)、工藤卓司 (県立広島大学准教授)、張政遠 (東京大学総合文化研究科)

2021 年 9 月 15 日

デジタル資本主義と価値革命

森健 (野村総合研究所上席研究員)

2021 年 9 月 25 日

第 9 回日中韓オンライン朱子学読書会

田中有紀 (東洋文化研究所)、福谷彬 (京都大学人文科学研究所助教)

2021 年 9 月 27 日

「文化」をめぐる対立と「人民＝ピープル」の不在—コロナ禍への対応をめぐる

梶谷懐 (神戸大学教授)

2021 年 9 月 27 日

EAA ダイアローグ

國分功一郎 (東京大学総合文化研究科) × 王欽 (東京大学総合文化研究科)

2021 年 9 月 28 日

第 26 回 石牟礼道子を読む会 山田徹監督ドキュメンタリー作品上映会

2021 年 10 月 5 日

第 4 回 EAA 沖縄研究会 映画『緑の牢獄』上映会

黄 インイク (映画監督)

2021 年 10 月 5 日

EAA Global Lecture Series #2 “Interactive Analysis, Language Barriers and Medical Consultations”

Shuangyu Li (Senior Lecturer in Clinical Communication and Cultural Competence at GKT School of Medical Education, King's College London)、Mai Kataoka (Project Research Fellow, EAA UTokyo)

2021 年 10 月 14 日

EAA Online Talk “From Input to Asset: Human Capital Revisited”

Michel Feher (Founding Editor at Zone Books)

2021 年 10 月 16 日

第 5 回仏典講読会

土屋太祐（新潟大学准教授）、何燕生（郡山女子大学教授）、柳幹康（東洋文化研究所）

2021 年 10 月 16 日

【共催】東京大学学グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ（GSI）キャラバンプロジェクト「主権の諸条件」第 2 回ワークショップ
金杭（延世大学教授）

2021 年 10 月 16 日

第 5 回東アジア仏典講読会

土屋太祐（新潟大学准教授）、柳幹康（東洋文化研究所）

2021 年 10 月 19 日

第 27 回 石牟礼道子を読む会

志村 昌司（アトリエシムラ代表取締役）

2021 年 10 月 21 日

7th EAIHN Online Seminar

Sora SATO (Toyo University)、Paul Tonks (Underwood College, Yonsei University)、Doohwan AHN (Seoul National University)、Shinji NOHARA (University of Tokyo)、Brian CHEN (National Chengchi University)

2021 年 11 月 1 日

【共催】文庫化記念公開イベント『近代世界の公共宗教』再読

渡邊千秋（青山学院大学教授）、佐藤清子（成城大学非常勤講師）、伊達聖伸（東京大学総合文化研究科）、津城寛文（筑波大学教授）田中浩喜（東京大学大学院）

2021 年 11 月 4 日

EAA シンポジウム「コロナ禍における藝術の理論と実践」

田中有紀（東洋文化研究所）、藤東君（東京大学大学院）、石井萌加（東京大学大学院）、植松瑞希（東京国立博物館主任研究員）、丁乙（東京大学大学院）、小手川将（東京大学大学院）

2021 年 11 月 6 日

【共催】東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ（GSI）キャラバンプロジェクト「主権の諸条件」第 3 回ワークショップ
汪暉（清华大学中国语言文学系教授）

2021 年 11 月 12 日

第 2 回 EAA「批評」研究会

郭馳洋（EAA 特任研究員）、片岡真伊（EAA 特任研究員）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、田中有紀（東洋文化研究所）、高原智史（東京大学大学院）

2021 年 11 月 13 日

中島隆博先生御著書『危機の時代の哲学—想像力のディスコース』書評会

中島隆博（EAA 院長）、大石直樹（東京大学）、具ユジン（EAA 特任助教）、崎濱紗奈（EAA 特任研究員）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、Xu Minghao（東京大学）、田村正資（EAA 特任研究員）、張政遠（東京大学総合文化研究科）、ナヌアシュヴィリ・テクラ（京都大学大学院）、円光門（東京大学）、王 欽（東京大学総合文化研究科）

2021 年 11 月 14 日

EAA 国際ワークショップ「石牟礼道子を読む—世界と文学への問い」

池澤夏樹（小説家）、建部良平（東京大学大学院）、徐嘉熠（清華大学大学院）、池島香輝（東京大学大学院）、鈴木将久（東京大学人文社会系研究科）、山田悠介（大東文化大学講師）、高山花子（EAA 特任助教）

2021 年 11 月 19 日

【共催】〈現代作家アーカイヴ〉文学インタビュー 23 回
町田 康（作家）、矢野 利裕（批評家）

2021 年 11 月 19 日

第 5 回 EAA 沖縄研究会
崎濱紗奈（EAA 特任研究員）

2021 年 11 月 20 日

【共催】日本におけるスピノザ受容をめぐるワークショップ（第 2 回）
竹花洋佑（福岡大学准教授）、朝倉友海（東京大学総合文化研究科）

2021 年 11 月 22 日

連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第 6 回 世界哲学と宗教
納富信留（東京大学人文社会系研究科）、藤原聖子（東京大学人文社会系研究科）、加藤和哉（聖心女子大学教授）

2021 年 11 月 26 日

第 1 回 EAA「民俗学×哲学」研究会 東アジア災害人文学の可能性
山泰幸（関西学院大学客員教授）、前野清太朗（EAA 特任助教）、張政遠（東京大学総合文化研究科）

2021 年 11 月 26 日

【共催】オンライン連続講座「知の継承（バトン）」第 1 回
石原俊時（経済学研究科）、小島浩之（経済学部講師）、森脇優紀（経済学部特任助教）

2021 年 11 月 27 日

【共催】東京大学 GSI キャラバン・プロジェクト「群島と太洋の思想史—太平洋のグローバル・ヒストリー」第 9 回研究会
小林ハッサル柔子（立命館大学准教授）

2021 年 12 月 2 日

第 5 回「部屋と空間プロジェクト」研究会
前野清太朗（EAA 特任助教）、田中有紀（東洋文化研究所）

2021 年 12 月 4 日

【共催】近世ヨーロッパの文化と東アジア研究会 東アジアへの西欧の知の伝播の研究 2021 年度第 2 回公開研究会
野原慎司（東京大学経済学研究科）、高哲男（九州大学名誉教授）、石原俊時（東京大学経済学研究科）

2021 年 12 月 6 日

8th EAIHN Online Seminar
Craig Smith (University of Glasgow)、Reinhard Schumacher (Universität Potsdam)、Hiroki UENO (Keio University)、Shinji NOHARA (University of Tokyo)、Maria Pia Paganelli (Trinity University)

2021 年 12 月 7 日

EAA ワークショップ「再興する書院—アジアからの新たなリビング・ラーニング・コミュニティ」
石井剛（EAA 副院長）、日暮トモ子（日本大学）、山崎直也（帝京大学）、張政遠（東京大学総合文化研究科）

2021 年 12 月 9 日

EAA Global Lecture Series #3 “Green with Milk & Sugar: When Japan Filled America’s Tea Cups”
Robert Hellyer (Associate Professor of History at Wake Forest University)、Mai Kataoka (Project Research Fellow, EAA UTokyo)

2021 年 12 月 10 日

From Seele to Mind: A Sociological Study of Knowledge On the Rationalization of Psychoanalysis
Feiyu SUN (Peking University)

2021 年 12 月 10 日

第 6 回 EAA 沖縄研究会

前野清太朗 (EAA 特任助教)

2021 年 12 月 11 日

第 6 回東アジア仏典講読会

土屋太祐 (新潟大学)、ディディエ・ダヴァン (国文学研究資料館)、張超 (フランス高等研究実習院)、柳幹康 (東洋文化研究所)

2021 年 12 月 14 日

高山花子『モーリス・ブランショールーシの思想』合評会

高山花子 (EAA 特任助教)

2021 年 12 月 15 日

“Why do we hate each other? —Understanding hatred through historical perception gaps”

Pattajit Tangsinmunkong (Assistant Professor, Waseda University)、Jin Sato (Institute for Advanced Studies on Asia)、Mark Roberts (EAA)、Maki Sato (EAA, UT)

2021 年 12 月 17 日

第 2 回 EAA「民俗学×哲学」研究会 トランスユーラシアの言語拡散と東北アジアの農耕民移住—「三角測量」の死角と民俗学の視点

張政遠 (東京大学総合文化研究科)、佐藤麻貴 (EAA 特任准教授)、山泰幸 (関西学院大学客員教授)

2021 年 12 月 18 日

【共催】東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ (GSI) キャラバンプロジェクト「主権の諸条件」第 4 回ワークショップ
章永乐 (北京大学)

2021 年 12 月 18 日

【共催】『渦動する象徴—田辺哲学のダイナミズム』書評会

小林昌平 (早稲田大学大学院)、山本舜 (京都大学大学院)、佐藤麻貴 (EAA 特任准教授)、田島樹里奈 (法政大学兼任講師)、川村寛文 (関東学院大学准教授)、杉村靖彦 (京都大学教授)、竹花洋祐 (福岡大学准教授)、廖 欽彬 (広州中山大学准教授)、張政遠 (東京大学総合文化研究科)

2021 年 12 月 20 日

EAA Global Lecture Series #4 “The Nonhuman in African Philosophy” By Professor Alena Rettová

Alena Rettová (Professor at University of Bayreuth)、Mai Kataoka (Project Research Fellow, EAA UTokyo)

2021 年 12 月 22 日

第 1 回 EAA 研究会「東アジアと仏教」

柳幹康 (東洋文化研究所)

2021 年 12 月 23 日

第 3 回 EAA「批評」研究会

郭馳洋 (EAA 特任研究員)、片岡真伊 (EAA 特任研究員)、佐藤麻貴 (EAA 特任准教授)、高原智史 (東京大学大学院)、田村正資 (EAA 特任研究員)、田中有紀 (東洋文化研究所)、ヴィクトリヤ・ニコロヴァ (東京大学大学院)

2021 年 12 月 25 日

【共催】第 10 回日中韓オンライン朱子学読書会

趙金剛 (清華大学副教授)、許家星 (北京師範大学教授)、田中有紀 (東洋文化研究所)

2021 年 12 月 27 日

EAA「部屋と空間プロジェクト」シンポジウム

田中有紀 (東洋文化研究所)、大石和欣 (東京大学総合文化研究科)、前野清太朗 (EAA 特任助教)、白佐立 (教養教育高度化機構)

2021 年 12 月 28 日・29 日

第 28 回石牟礼道子を読む会—「ショア」を観る

2022 年 1 月 14 日

第 7 回 EAA 沖縄研究会

崎濱紗奈 (EAA 特任研究員)、高山花子 (EAA 特任助教)

2022 年 1 月 14 日

第 3 回 EAA「民俗学×哲学」研究会 郷土の研究者はいつまで同郷人であることができるか？—アカデミック民俗学者にとっての地元について—

塚原伸治 (東京大学総合文化研究科准教授)、山泰幸 (関西学院大学教授)、前野清太郎 (EAA 特任助教)

2022 年 1 月 18 日

第 29 回石牟礼道子を読む会
山田悠介 (大東文化大学)

2022 年 1 月 24 日

【共催】連続ワークショップ「中国近代文学の方法と射程」第 1 回「如何理解鲁迅杂文？」

張潔宇 (中国人民大学文学院)、鈴木将久 (東京大学人文社会系研究科)

2022 年 1 月 26 日

EAA シンポジウム「仏教と哲学の対話」

守中高明 (早稲田大学教授)、下田正弘 (東京大学人文社会系研究科)、馬場紀寿 (東洋文化研究所)、柳幹康 (東洋文化研究所)

2022 年 1 月 26 日

【共催】岩津航『レトリックの戦場 加藤周一とフランス文学』公開合評会

伊達聖伸 (東京大学総合文化研究科)、三浦信孝 (中央大学名誉教授)、半田侑子 (立命館

大学研究員)、片岡大右 (批評家)、岩津航 (金沢大学教授)

2022 年 1 月 28 日

第 4 回 EAA「批評」研究会

田村正資 (EAA 特任研究員)

2022 年 1 月 29 日

第 7 回東アジア仏典講読会

柳幹康 (東洋文化研究所)

2022 年 2 月 2 日

第 30 回石牟礼道子を読む会

サラ・ニューサム氏 (カリフォルニア大学大学院)

2022 年 2 月 3 日

第 6 回「部屋と空間プロジェクト」研究会

柳幹康 (東洋文化研究所)、田中有紀 (東洋文化研究所)

2022 年 2 月 6 日

EAA 沖縄研究会シンポジウム「琉球」再考
中島隆博 (EAA 院長)、尚衛 (一般社団法人琉球歴史文化継承振興会代表理事)、尚満喜 (一般社団法人琉球歴史文化継承振興会副代表理事)、崎濱紗奈 (EAA 特任研究員)、張政遠 (東京大学総合文化研究科) 前野清太郎 (EAA 特任助教)、高山花子 (EAA 特任助教)、石井剛 (EAA 副院長)

2022 年 2 月 7 日

【共催】オンライン連続講座「知の継承(バトン)」第 2 回

石原俊時 (東京大学経済学研究科)、野原慎司 (東京大学経済学研究科)、矢野正隆 (東京大学経済学研究科)

2022 年 2 月 8 日

【共催】連続公開イベント第 1 回（全 3 回）
フランスにおけるジェンダー論争
セリーヌ・ベロー（社会科学高等研究院
(EHESS)教授）、小門穂（神戸薬科大学准教
授）、鈴木彩加（大阪大学招へい研究員）、
増田一夫（東京大学名誉教授）

2022 年 2 月 8 日

9th EAIHN Online Seminar
Annick Cossic (Université de Bretagne
Occidentale, Brest)、Emrys Jones (King's College
London)、Rémy Duthille (Université Bordeaux
Montaigne)、Hiroki UENO (Keio University)、
Shinji NOHARA (University of Tokyo)

2022 年 2 月 11 日

EAA シンポジウム「死から生の価値を問い直す」
三浦隼暉（日本学術振興会特別研究員）、笠
原真理子（東京大学ヒューマニティーズセ
ンター特任専門職員、早稲田大学オペラ/音
楽劇研究所招聘研究員）、一色大悟（東京大
学人文社会系研究科 助教）、柳幹康（東洋文
化研究所）

2022 年 2 月 12 日

第 8 回東アジア仏典講読会
柳幹康（東洋文化研究所）

2022 年 2 月 17 日

EAA ONLINE WORKSHOP 女性のいない民
主主義と「K-フェミニズム」文学の越境－
日本における『82 年生まれ、キム・ジョン』
の翻訳受容現象を中心に
金志映（ソウル大学アジア言語文明学部講
師）、具裕珍（EAA 特任助教）

2022 年 2 月 22 日

【共催】連続公開イベント第 2 回（全 3 回）フ
ランス・カトリック教会と性的スキャンダル

セリーヌ・ベロー Céline Béraud（社会科学
高等研究院(EHESS)・教授）、三木メイ（同
志社大学講師・日本聖公会京都教区司祭）、
伊達聖伸（東京大学総合文化研究科）

2022 年 2 月 25 日

第 4 回 EAA「民俗学×哲学」研究会 エスノ・
ナショナリズムの一類型としての混合民族論
前野清太郎（EAA 特任助教）、崎濱紗奈
（EAA 特任研究員）、張政遠（東京大学総合
文化研究科）

2022 年 2 月 27 日

一高プロジェクト リベラルアーツとしての
映画制作とは？－東京大学東アジア藝文書
院『籠城』制作チームトーク～QWS アカデ
ミア（東京大学）～

小手川将（東京大学大学院）、日隈脩一郎
（東京大学大学院）、高原智史（東京大学大
学院）、一之瀬ちひろ（東洋文化研究所／写
真家）、金城恒（東京大学大学院）、新田愛
（東京大学大学院）、永澤康太（詩人）、乙
幡亮（東京大学大学院）、久保田翠（聖学院
大学准教授）、森永泰弘（サウンドアーティ
スト）、高山花子（EAA 特任助教）、中島隆
博（EAA 院長）、石井剛（EAA 副院長）

2022 年 3 月 1 日

【共催】連続公開イベント第 3 回（全 3 回）
フランスにおける宗教的状况の特殊性
セリーヌ・ベロー（社会科学高等研究院
(EHESS)・教授）、渡辺優（東京大学人文社
会系研究科）、伊達聖伸（東京大学総合文化
研究科）

2022 年 3 月 3 日

EAA Online Workshop “From Manners to
Rules: Explaining More Legalistic Approaches
to Governance in Japan and South Korea”
Hye Won Um (Sogang University)、Yoojin
Koo (EAA, University of Tokyo)

2022 年 3 月 4 日

【共催】東京大学 GSI キャラバン・プロジェクト「群島と大洋の思想史—太平洋のグローバル・ヒストリー」研究会 “Norms and Representations of Pacific/Oceanian Regionalism: Reading Greg Fry's Framing the Islands (2019)”
Greg Fry (Honorary Associate Professor, Australian National University)

2022 年 3 月 8 日

10th EAIHN Online Seminar

Tomohito Baji (Tokyo University), Hanno Terao (Waseda University), Michael Ratnapalan (Yonsei University)

2022 年 3 月 9 日

第 2 回 EAA 研究会「東アジアと仏教」

一色大悟（東京大学人文社会系研究科）、柳幹康（東洋文化研究所）

2022 年 3 月 9 日

【共催】〈現代作家アーカイヴ〉文学インタビュー第 24 回 公開収録 川上弘美氏

川上弘美（作家）、木村朗子（日本文学研究科・津田塾大学教授）

2022 年 3 月 9 日

【事務局担当】人文社会科学系組織連絡会議共同シンポジウム「人文社会科学の構想力」

佐藤岩夫（東京大学執行役・副学長）、藤井輝夫（東京大学総長）、齋藤希史（東京大学ヒューマニティーズセンター機構長）、ハチウス・ミハエル（東京大学東京カレッジ）、石井剛（EAA 副院長）、白波瀬佐和子（東京大学現代日本研究センター長）、河原弥生（東京大学アジア研究図書館）、太田邦史（東京大学執行役・副学長）、佐藤健二（東京大学執行役・副学長）齊藤延人（東京大学執行役・副学長）、ケネス・盛・マッケルウェイン（東京大学社会科学研究所）

2022 年 3 月 9 日

第 5 回 EAA「批評」研究会

片岡真伊（EAA 特任研究員）、高原智史（東京大学大学院）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、田村正資（EAA 特任研究員）、田中有紀（東洋文化研究所）、郭馳洋（EAA 特任研究員）

2022 年 3 月 11 日

第 5 回 EAA「民俗学×哲学」研究会 語り継ぐことと、「無縁の縁」～福岡県筑豊における炭鉱の語り継ぎを題材に～

川松 あかり（東京大学大学院）、高山 花子（EAA 特任助教）、張 政遠（総合文化研究科）

2022 年 3 月 11 日

近世ヨーロッパの文化と東アジア研究会
東アジアへの西欧の知の伝播の研究 2021 年度第 3 回公開研究会

野原慎司（経済学研究科）、東田雅博（金沢大学名誉教授）、近藤和彦（東京大学名誉教授）、石原俊時（経済学研究科）

2022 年 3 月 11 日

【共催】連続ワークショップ「中国近代文学の方法と射程」第 2 回「“社会史視野” 如何深入一部作品—以柳青的《种谷记》为例」
程凱（中国社会科学院文学研究所）、王欽（東京大学総合文化研究科）

2022 年 3 月 11 日

第 8 回沖縄研究会

具裕珍（EAA 特任助教）・崎濱紗奈（EAA 特任研究員）

2022 年 3 月 16 日

【共催】東京大学 GSI キャラバン・プロジェクト「「小国」の経験から普遍を問いなおす」
ワークショップ “Small States in International Affairs since the End of the Cold War”
Odd Arne Westad (Yale University)

2022 年 3 月 17 日

『価値と現代社会—価値を問い直す』座談会
角尾宣信（和光大学）、田中有紀（東洋文化
研究所）、柳幹康（東洋文化研究所）、王欽
（東京大学総合文化研究科）、佐藤麻貴（東
京大学総合文化研究科）

2022 年 3 月 19 日

第 8 回東アジア仏典講読会

佐久間祐惟（東京大学大学院・日本学術振興
会特別研究員 DC）、柳幹康（東洋文化研究所）

2022 年 3 月 20 日

【共催】東アジア藝文書院・ジャーナリズ
ム研究会 第 7 回研究会

陳萱（致理科技大学副教授）、ボネア・アメ
リア（ハイデルベルク大学・トランスカル
チュラル研究センター・研究員）、前島志保
（東京大学総合文化研究科）

2022 年 3 月 24 日

EAA NOZOMI Booklet 座談会

田中有紀（東洋文化研究所）、具裕珍（EAA
特任助教）、前野清太郎（EAA 特任助教）、
崎濱紗奈（EAA 特任研究員）、田村正資
（EAA 特任研究員）

2022 年 3 月 26 日

第 6 回 EAA「民俗学×哲学」研究会「哲学
の民俗学的転回」

梶谷真司（東京大学総合文化研究科）、張政
遠（東京大学総合文化研究科）、山泰幸（関
西学院大学）

2022 年 3 月 26 日・27 日・30 日・31 日

映画『籠城』上映会

2022 年 3 月 28 日

EAA ワークショップ「政府と与党の関係に
おける日韓比較『立法前協議の比較政治—

与党内不一致と日韓の制度』」（木鐸社、2021
年）を手がかりにして」

朴志善（岡山大学助教）、濱本真輔（大阪大
学准教授）、具裕珍（EAA 特任助教）

2022 年 3 月 29 日

第 7 回「部屋と空間プロジェクト」研究会 &
第 8 回 EAA ブックトーク『サーギル博士と
巡る東大哲学散歩 場の地理学的解釈に向
けて』公開合評会

James C. Thurgill（グローバルコミュニケー
ション研究センター）、円光門（EAA ユー
ス）、前野清太郎（EAA 特任助教）、田 有紀
（東洋文化研究所）

2022 年 3 月 29 日

『東アジアにおける哲学の生成と発展』書評会
廖欽彬（中山大学）、中島隆博（EAA 院
長）・鈴木将久（東京大学人文社会系研究
科）、佐藤麻貴（EAA 特任准教授）、張政遠
（東京大学総合文化研究科）、朝倉友海（東
京大学総合文化研究科）、王欽（東京大学総
合文化研究科）、田村正資（EAA 特任研究
員）、上田有輝（東京大学大学院）

2022 年 3 月 30 日

【共催】未来哲学研究所 第 4 回シンポジウ
ム 靈魂論の未来—情念・鎮魂・他者

平野嘉彦（東京大学名誉教授）、中島隆博
（EAA 院長）、佐藤弘夫（元東北大学教授）、
末本文美士（未来哲学研究所所長）、山内志
朗（慶應義塾大学）

2022 年 3 月 31 日

EAA 座談会「時代の危機と哲学—回帰する
亡霊に向き合う」

乗松亨平（東京大学総合文化研究科）、星野
太（東京大学総合文化研究科）、王欽（東京
大学総合文化研究科）、鶴見太郎（東京大学
総合文化研究科）、石井剛（EAA 副院長）

(資料5) 新しい世界史/グローバル・ヒストリーに関する国際的なネットワーク型研究教育拠点 (GHC) プロジェクト
(2014～2019 年度)

学術研究集会等の開催

	開催日	開催場所	種別	学術集会名	講演者
1	2017 年 4 月 24 日	東京大学	シンポジウム	“The Intriguing World of the Chinese in Nagasaki, 16th - 18th Centuries”	Patrizia Carloti (Professor and Chair of History of East Asia, and of History and Civilisation of Far East Asia, “L’Orientale” University of Napoli)
2	2017 年 1 月 28 日 ～29 日	東京大学	セミナー	GHC 共同セミナー “Sources in Global History”	Andreas Eckert (Humboldt), Marc Elie (EHESS), Alessandro Stanziani (EHESS), Shel Garon (Princeton)他
3	2018 年 9 月 18 日	東京大学	セミナー	東文研・GHC 共催セミナー “Muslim Perceptions of Pre-Islamic Pasts: Changing Perspectives on Heritage and History in Egypt and Indonesia”	Prof. R. Michael Feener (University of Oxford)
4	2019 年 1 月 16 日	東京大学	セミナー	東文研・GHC 共催セミナー 「1524 : The End of the Silk Road」李伯重先生講演会	李伯重先生 (北京大学)
5	2016 年 4 月 5 日 ～7 日	フランス 国立社会科学高等 研究院 (EHESS)	ワークショップ	学生ワークショップ “Global History Collaborative Students Workshop in Paris”	
6	2016 年 7 月 11 日	東京大学	ワークショップ	若手研究者報告会	

7	2016 年 7 月 16 日	東京大学	ワークシ ョップ	グローバルヒストリー の方法	
8	2016 年 10 月 22 日	東京大学	ワークシ ョップ	日本宗教史と世界を繋 ぐ	
9	2016 年 11 月 21 日	東京大学	ワークシ ョップ	若手研究者報告会	
10	2016 年 12 月 9 日 ～11 日	東京大学	ワークシ ョップ	Towards a transcultural history of diplomacy	
11	2016 年 12 月 16 日	東京大学	ワークシ ョップ	Antonella Romano 教授 報告会	
12	2016 年 5 月 9 日 ～14 日	プリンス トン大学	ワークシ ョップ	The 2nd Summer School on Global History	
13	2017 年 9 月 4 日 ～9 日	フンボル ト大学	ワークシ ョップ	The 3st Summer School on Global History	
14	2018 年 6 月 18 日 ～23 日	EHESS	ワークシ ョップ	The 4rd Summer School on Global History	
15	2019 年 9 月 2 日 ～3 日	東京大学	ワークシ ョップ	The 5th Summer School on Global History	
16	2017 年 1 月 26 日	東京大学	ワークシ ョップ	The 1st Winter Institute on Global History between Princeton and UTokyo	
17	2018 年 1 月 25 日	プリンス トン大学	ワークシ ョップ	The 2st Winter Institute on Global History between Princeton and UTokyo	
18	2019 年 1 月 24 日	東京大学	ワークシ ョップ	The 3st Winter Institute on Global History between Princeton and UTokyo	

(資料6) 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) 研究プログラム
(2001～2020 年度)

学術研究集会等の開催

第 138 回 2016 年 5 月 12 日

「王維《輞川集》與南方文學傳統」
張紅 (湖南師範大学国際漢語文化学院准教授)

第 139 回 2016 年 5 月 26 日

「歩：識字を求め、部落差別と闘いつづける」
山本栄子 (部落解放同盟京都府連合会六区
支部女性部副部長)

第 140 回 2016 年 6 月 2 日

「資源を手放す選択はあるかー農村開発の
再考」
麻田玲 (東洋文化研究所・特任研究員)

第 141 回 2016 年 6 月 9 日

「彫刻技術に基づいたインダス式印章の分
類とその意義：SEM 観察と 3D (PEAKIT)
解析を利用した考古学的検討」
小茄子川歩 (日本学術振興会特別研究 PD)

第 142 回 (GJS 共催) 2016 年 6 月 16 日

“Conflict in the Process of Creating “Kokuseki
(Nationality)” in Manchukuo : The Concept of
Japanese “Nation” Confronting Territorial
Communities
Masataka Endo (Junior Researcher, Waseda
University Taiwan Research Institute)

第 143 回 (GJS 共催) 2016 年 6 月 16 日

“Kurahara Korehito and Naturalism: Repre-
senting Human Nature in the 1920s”
Qinyuan Lei (Ph.D. Candidate, Princeton
University)

第 144 回 2016 年 6 月 23 日

“Introduction and Spread of Islam in South-
east Asia”
Tarig Mohammed (Associate Professor, Zayed
University)

第 145 回 (GJS 共催) 2016 年 6 月 30 日

“Warriors on the Jeweled Pagoda: The
Application of Nichiren’s Great Mandala in
the Decoration of Japanese Arms and
Armor”
Komei Sakai (Doctorate Student, Department
of East Asian Languages and Cultures,
Columbia University)

第 146 回 (GJS 共催) 2016 年 7 月 14 日

“Japanese responses to global higher educa-
tion trends”
Eva Liias (Ph.D. Candidate, Graduate School
of East Asian Studies, Freie Universität
Berlin)

第 147 回 (GJS 共催) 2016 年 7 月 21 日

Evan Young (Assistant Professor, Dickinson
College Women as Healers in Early Modern
Japan)

第 148 回 2016 年 7 月 21 日

“Utilizing Narrative Elements from a
Normative Textual Tradition to Develop an
Anthropology of the Ascetic Practice in the
Earliest Indian Buddhist Monastery”
Nicholas Witkowski (Visiting Fellow, IASA)

第 149 回 2016 年 7 月 28 日

「中国唐宋時代の外国僧侶と護国仏教」
郭珮君（東洋文化研究所・訪問研究員）

第 150 回 2016 年 10 月 13 日

「文献から見る中国の「新しい」司法改革」
徐行（東洋文化研究所 ASNET 助教）

第 151 回 2016 年 10 月 20 日

“Choosing Illusion: Mediated Reality and the Spectacle of the Idol in Kōji Shiraishi’s Shirome”
Lindsay Nelson (Lecturer, Center for Global Communication Strategies, UTokyo)

第 152 回 2016 年 10 月 27 日

「地域コミュニティの共同的活動にみる自力復興の試み：2015 年ネパール地震に対するバクタプル市 K コミュニティの対応」
サキャ・ラタ（東京大学大学院、日本学術振興会外国人特別研究員）

第 153 回(GJS 共催) 2016 年 11 月 10 日

「1970 年代～80 年代の日韓連帯運動におけるトランスナショナルなコミュニケーション・ネットワーク」
李美淑（東京大学総合文化研究科特任助教）

第 154 回(GJS 共催) 2016 年 11 月 21 日

“You are China’s Inukai Tsuyoshi, I am Japan’s Kang Youwei”: Revisiting the Potentials of Sino-Japanese Friendship in Late-Meiji Japan
Eric Han (Associate Professor, College of William and Mary)

第 155 回 2016 年 12 月 1 日

“The United States and “White Mission” — Analysis on the Relations between the US, Japan and Taiwan in the Early after World War II”
Jizhao Huang (Visiting Fellow, IASA)

第 156 回 2016 年 12 月 8 日

『鵜冠子（カッカンシ）』と戦国黄老学」
雷欣翰（東洋文化研究所・訪問研究員）

第 157 回 2017 年 1 月 12 日

「古代西アジアのワイン—酒器からみた都市化」
小泉龍人（東洋文化研究所特任研究員）

第 158 回 2017 年 1 月 18 日

「戦後初期における中華民国の対日船舶賠償請求（1945-1952）」
蕭明禮（東京大学総合文化研究科客員研究員）

第 159 回 2017 年 1 月 19 日

“When Western International Law Came: The Sovereignty Dilemma of Tibet in the Doderly Chinese Empire”
Yan Tang (Visiting Fellow, IASA)

第 160 回 2017 年 1 月 26 日

「個人史から描き直す社会運動史—戦後沖縄における社会運動の生成と環太平洋地域の構造的変動」
上原こずえ（東洋文化研究所訪問研究員）

第 161 回 2017 年 2 月 2 日

“Can States Manage Political Conflicts Effectively? Reflections on the Experience of Mining Conflicts in the Philippines”
Jewellord Nem Singh (Visiting Fellow, IASA)

第 162 回 2017 年 2 月 9 日

“Theorizing “Person” for Confucian Role Ethics: A Good Place to Start”
Roger T. Ames (Berggruen Fellow, Department of Philosophy, PKU)

第 163 回 2017 年 3 月 2 日

“Traveling Ethics Textbooks in East Asia (at the end of the 19th and the beginning of the 20th centuries)”

Nam Nguyen (Professor, Department of Oriental Studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University in HCMC)

第 164 回 2017 年 4 月 6 日

“What does China Want in the South China Sea and How will it Affect Japan’s Interests?”

Bill Hayton (BBC Correspondent; Associate Fellow, The Royal Institute of International Affairs)

第 165 回 2017 年 4 月 24 日

“Australia Japan Strategic Partnership: A new Form of Security Cooperation”

Thomas Wilkins (Senior Lecturer, Government and International Relations Department, University of Sydney)

第 166 回 2017 年 5 月 20 日

「戦後日本と「新しい女性」

中野嘉子（香港大学文学部日本研究学科准教授）

第 167 回 2017 年 6 月 8 日

「仏教戯曲の受容：浄土劇『歸元鏡』の刊行と上演をめぐって、清代から民国期まで」
王萌篠（東洋文化研究所訪問研究員）

第 168 回 2017 年 6 月 15 日

「静嘉堂文庫所蔵珍本『痛思堂日記』考」
張詩洋（東洋文化研究所訪問研究員）

第 169 回 2017 年 6 月 20 日

“Reorienting the Dutch East India Company: Europeans as Inter-Asian Brokers in Jakarta and Nagasaki”

Ali Humayun Akhtar (Bates College, USA)

第 170 回 2017 年 6 月 30 日

「メソポタミアの世界遺産の現状—最古の都市ウルクほか」

小泉龍人（東洋文化研究所特任研究員）

第 171 回 2017 年 10 月 19 日

「都市のパブリック・ライフを充実させるためにカフェが果たしうる役割」

飯田美樹（東京大学情報学環特任助教）

第 172 回 2017 年 10 月 26 日

「「呉中四才子」の名の形成と流変」

高虹飛（東洋文化研究所訪問研究員）

第 173 回 2017 年 11 月 2 日

「人文学の「デジタル」の裾野を考える—アジア研究図書館計画・宗教学・インド研究から」

富澤かな（東京大学附属図書館 U-PARL 特任准教授）

第 174 回 2017 年 11 月 9 日

「民族疫学：アジアの視点から」

石田貴文（ASNET ネットワーク長、東京大学理学系研究科教授）

第 175 回 2017 年 11 月 16 日

「地域社会史の日印比較研究試論—近世の日本と西インドの大庄屋制の位置づけを中心に」
戸石七生（東京大学大学院農学生命科学研究科講師）

第 176 回 2017 年 12 月 7 日

「批判から提案へ、排除から包摂へ—「非暴力運動」としてのチョコレート開発」

後藤絵美（ASNET 特任准教授）

第 177 回 2017 年 12 月 14 日

「アジアで類人猿を研究する」

松平一成（東京大学理学系研究科特任研究員）

第 178 回 2017 年 12 月 15 日

「近代国家としての日本とアイヌ民族」

落合研一（北海道大学アイヌ・先住民研究センター 准教授）

第 179 回 2018 年 2 月 1 日

「「台湾外交」の形成をめぐって」

清水麗（東洋文化研究所特任准教授）

第 180 回 2018 年 6 月 5 日

「インドネシア・スンバ島の暦を読み解くーゴカイの群泳と二つの大祭に関する調査から」

古澤拓郎（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）

第 181 回 2018 年 6 月 14 日

「トルコ共和国初期におけるマイノリティ政策と外交：クルド人同化政策開始要因に関する考察」

宇野陽子（東洋文化研究所特任研究員）

第 182 回 2018 年 6 月 28 日

「北方都城的文学生命：明末北京城与《帝京景物略》」

馮乃希（東洋文化研究所訪問研究員）

第 183 回 2018 年 7 月 5 日

「積奠（業）礼と江戸儒教の展開ー林氏家塾を中心として」

張哲（東洋文化研究所訪問研究員）

第 184 回 2018 年 7 月 12 日

“The Bureaucratization of Islamic Authority in Republican China”

Aaron Glasserman（コロンビア大学博士後期課程）

第 185 回 2018 年 11 月 8 日

「神話の批判力ーインドネシア・ムラピ山噴火災害の事例から」

木村敏明（東北大学院文学研究科・文学部教授）

第 186 回 2018 年 11 月 15 日

“The Transformation of Female Images in Early and Mid-Ming Chinese Painting”

Yizhou Wang (PhD. Candidate, Heidelberg University)

第 187 回 2018 年 12 月 13 日

「東アジアにおける楊慎「六朝学」研究ー日本収蔵の中国明代文献を中心に」

林玟君（台湾師範大学国文学系・博士課程、日本台湾交流協会フェローシップ招聘研究者、東洋文化研究所訪問研究員）

第 188 回 2018 年 12 月 20 日

「ドイツン・コーヒー：コーヒーを貧困削減とどう結び付けるか」

池本幸生（東洋文化研究所教授）

第 189 回 2019 年 2 月 28 日

「Passive Climate Control and the City Academy of Architectur in Mendrisio, Switzerland CEDEJ, Cairo, Egypt；暮らしを建てる、建物に暮らすーカイロの都市気候形成にみる知のスケールとモードの交差；Building a living / Living a building: Crossing scales and modes of knowledge in the creation of the urban climate in Cairo」

ダリラ・ゴドバン／Dalila Ghodbane (PhD Candidate.)

第 190 回 2019 年 6 月 6 日

「近代イランにおける奴隷女性の解放ーイスラム法の実践をめぐって／Islamic Law and the Liberation of Women Slaves in Iran」

Behnaz Mirzai (Professor, Brock University)

第 191 回 2019 年 6 月 11 日

「Recruitment, Romanticism and Military Dress: Britain and the Bedouin in the interwar Middle East／新兵募集における軍服とロマンチズム：戦間期中東の英国とベドウィン」

Robert Fletcher (Associate Professor, Warwick University)

第 192 回 2019 年 6 月 20 日

「東方文化学院と国際漢学について／東方文化学院與國際漢學／Oriental Culture College and International Sinology」

秦瓊（復旦大学博士課程、東洋文化研究所訪問研究員）

第 193 回 2019 年 7 月 11 日

「インドネシア泥炭地の環境破壊と CO2 の放出－人工衛星により捉えた火災データから／Destroyed tropical peatland environment in Indonesia and the impact to the CO2 emissions」

朴慧美（生研 5 部、竹内（渉）研究室特任研究員）

第 194 回 2019 年 12 月 19 日

「マラッカのアングロ・チャイニーズ・カレッジ設立背景と存立理由／Anglo-Chinese College in Malacca: The Back-ground and Reasons for Its Foundation」

黄イエレム（東京大学人文社会系研究科博士課程）

第 195 回 2020 年 1 月 16 日

「巨大都市のパラダイグムの次元：『江戸繁昌記』にみる江戸の表象，1832-1836／The Binary Opposition of the Metropolis: The Representation of Edo in Edo Hanjōki」

張璉（アリゾナ州立大学）

第 196 回 2020 年 11 月 12 日

「近代日本と中国の装いの交流史／History of costume culture exchange between modern Japan and China」

劉玲芳（大阪大学招聘研究員）

第 197 回 2020 年 11 月 26 日

「ガザのパレスチナ難民が湾岸産油国で日本企業と渡り合った話／A Story from Palestinian Memoirs: the Man who Involved in Contract Negotiation with the Japanese Company」

鈴木啓之（東京大学大学院総合文化研究科特任准教授）

第 198 回 2021 年 1 月 28 日

「新型コロナと国際政治／COVID-19 and International Politics」

詫摩佳代（東京都立大学法学部教授）

第 199 回 2021 年 2 月 18 日

「京城帝国大学法文学部の学問的遺産：日本人卒業生の帰還と学界編入／Keijo Imperial University Faculty of Law and Letters Graduates and their Academic Contribution」

金知原（東京大学総合文化研究科博士課程）

第 200 回 2021 年 3 月 4 日

「利己的な人々と正義／Justice and Selfish People」

池本幸生（東洋文化研究所教授）

(資料7) 復旦大学文史研究院・プリンストン大学東アジア学部との学術交流コンソーシアム・プロジェクト
(2010年度～)

学術研究集会等の開催

	開催日	開催場所	種別	学術集会名	講演者
1	2016年12月16日 ～17日	プリンストン大学	シンポジウム	第6回 東アジアの文化交流における宗教、文学と画像	
2	2017年12月16日 ～17日	東京大学	シンポジウム	第7回 古代における「古代」	
3	2017年12月19日	東京大学	講演会	董少新講演会	Dong Shaoxin 董少新 (復旦大学教授・文史研究院副院長)
4	2016年7月25日	東京大学	セミナー	海上の旅人たち:遣明使・通信使に関する瀬戸内海の港の調査	朱莉麗 (復旦大学文史研究院)
5	2017年4月6日	東京大学	セミナー	Berezkin Rostislav 先生をお迎えして	Berezkin Rostislav 白若思 (復旦大学 文史研究院副研究員)
6	2018年3月10日	東京大学	セミナー	Michael Laffan 講演会	Michael Laffan (プリンストン大学教授)
7	2018年4月4日	東京大学	セミナー	Linda Colley・David Cannadine 講演会	Linda Colley (プリンストン大学教授) David Cannadine (プリンストン大学教授)
8	2018年4月9日	東京大学	セミナー	Is the “Li sao” 離騷 Actually One Poem? — Observations on Structure and Intertext	Martin Kern 教授 (プリンストン大学)

9	2016年6月23日～ 7月2日	復旦大学	サマース クール	第6回 アジアの藝 術、宗教と歴史研究	
10	2017年6月23日～ 7月2日	復旦大学	サマース クール	第7回 アジアの藝 術、宗教と歴史研究	
11	2018年6月23日～ 7月2日	復旦大学	サマース クール	第8回 アジアの藝 術、宗教と歴史研究	
12	2019年6月23日～ 7月2日	復旦大学	サマース クール	第9回 アジアの藝 術、宗教と歴史研究	
13	2021年6月23日～ 7月2日	復旦大学	サマース クール	第10回 アジアの藝 術、宗教と歴史研究	

(資料8) 復旦大学文史研究院との研究者相互派遣リスト

2016年度	復旦大学：朱莉麗、白若思	東文研：小寺敦、松田康博
2016年度	復旦大学：董少新、朱溢	東文研：額定其勞、平勢隆郎
2016年度	復旦大学：李星明	東文研：安富歩
2016年度	復旦大学：劉震	東文研：鐘以江

※2020・2021年度はコロナ禍のため中断

(資料9) フランス社会科学高等研究院との教員交流プログラム

2016年度	EHESS：Antonella Romano	東文研：なし
2017年度	EHESS：Guillaume Carre	東文研：中島隆博、池亀彩
2018年度	EHESS：Alessandro Stanziani	東文研：なし
2019年度	EHESS：Sebastian Veg	東文研：平勢隆郎
2020年度	EHESS：中止	東文研：中止
2021年度	EHESS：中止	東文研：松田康博

(資料10) 成均館大学校東アジア学院・延世大学校国学研究院・京都大学人文科学研究所との4研究所共同研究プログラム

学術研究集会等の開催

	開催日	開催場所	種別	学術集会名
1	2017年1月20日	京都大学 人文科学研究所	シンポジウム	東方文化研究の記憶と遺産
2	2019年1月22日	成均館大学校	シンポジウム	アジアの女性
3	2021年1月26日	オンライン	シンポジウム	アジアの災害

(資料11) プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト
(2013年度～)

プロジェクト名 Toward Immersive Asian Studies: A Collaborative Undergraduate Exchange Program for the UTokyo-Princeton Partnership ※2013年度に「東京大学-プリンストン大学共同研究・教育プロジェクト」として採択			
学 生 交 流	派遣	2018年1月25日	東京大学－プリンストン大学学部学生交流プログラム 3名
	受 入	2017年1月26日	東京大学－プリンストン大学学部学生交流プログラム 4名
		2019年1月24日	東京大学－プリンストン大学学部学生交流プログラム 4名
		2016年6月20日 ～8月1日	サマースクール:People, Nature, and the Environment: A Summer Research Program at the University of Tokyo 2016
		2016年6月26日 ～7月24日	サマースクール:Response, Recovery, and Memory in the Aftermath of Disaster:A Summer Research Program at the University of Tokyo 2016

(資料12) その他の大学との交流事業

学術研究集会等の開催

	開催日	開催場所	種別	学術集会名
ナポリ東洋大学				
1	2018年4月7日	東京大学	合同セミナー	Approaches to Arabic and Islamic Knowledge in the Early Modern Period: The Ottoman Empire and Europe Further West
チリ・カトリカ大学				
2	2016年11月3日 ～8日	カトリカ大学 チリ国立大学	学術フォーラム	日本チリ学術フォーラム
3	2018年10月23日	東京大学	合同セミナー	Internal and External Dangers in International Law
ブルネイ・ダルサラーム大学				
4	2021年6月29日	オンライン	合同セミナー	FASS UBD&IASA UT ブックトーク・プログラム “How does the first-person narrative work for academic writings?” - 1st ラウンド
5	2021年12月17日	オンライン	合同セミナー	FASS UBD&IASA UT ブックトーク・プログラム “How does the first-person narrative work for academic writings?” - 2nd ラウンド
シカゴ大学				
6	2016年10月17日	東京大学	ワークショップ	東京大学・シカゴ大学 共同教員ワークショップ「先端科学と社会倫理」
7	2016年10月18日	東京大学	ワークショップ	東京大学・シカゴ大学 共同院生ワークショップ
8	2017年12月13日	東京大学	ワークショップ	東京大学・シカゴ大学 合同院生ワークショップ・教員ラウンドテーブル
9	2019年3月18日 ～19日	東京大学	ワークショップ	東京大学・シカゴ大学 学際教員フォーラム・大学院生セミナー「エネルギー問題」
10	2019年3月20日	東京大学	ワークショップ	東京大学・シカゴ大学 共同大学院生日本学ワークショップ

(資料13) 国際的研究活動の状況

海外研究組織における委員の事例

アテネオ・デ・マニラ大学グローバルアジア研究センター	フィリピン	国際諮問委員
Annual Kathmandu Conference on Nepal and the Himalaya	ネパール	運営委員
チュービンゲン大学	ドイツ	国際諮問委員
研究プロジェクト "Ismailism in Badakhshan: A Genealogical History"	米国	諮問委員
研究プロジェクト "Green Industrial Policy in the Age of Rare Metals: A Transregional Comparison of Growth Strategies in Rare Earth Mining"	オランダ	国際諮問委員
フランス国立美術史研究所・セーヴル国立陶器美術館共同「Medieval Kashi Project」プロジェクト	フランス	学術委員

海外学術雑誌における編集委員の事例

中国文学研究	中国・復旦大学
中国文学研究	中国・復旦大学
民俗研究	中国・山東大学
中国文化研究所学報	香港・中文大学
Asian Anthropology	香港・中文大学
人文中国学報	香港・浸会大学
台湾師大歴史学報	台湾・師範大学
清華中文学報	台湾・清華大学
中正漢学研究	台湾・中正大学
Journal of Demography	Chulalongkorn University
Du-faṣṣnāma- 'i Muṭālī 'āt-i Asnād-i Mīrāth-i Farhangī	イラン・文化遺産・観光研究所
Pazhūhishhāyi 'ulūm-i tārikhī	イラン・テヘラン大学
Islam Tetkikleri Dergisi	トルコ・イスタンブール大学
Financial History Review	Cambridge University Press
Iranian Studies	Cambridge University Press
British Studies Review	UK Association for Buddhist Studies
Journal of Persianate Studies	Brill
Endowment Studies	Brill

(資料14) 班研究プロジェクトの状況

班研究プロジェクトの参加者数

(各年度5月1日現在)

年 度	班数 (件)	所内 (人)	学内 (人)	学外 (人)	計 (人)
2016 年度	27	33	18	187	238
2017 年度	27	36	18	200	254
2018 年度	30	49	19	242	310
2019 年度	27	42	18	220	280
2020 年度	28	45	22	197	264
2021 年度	25	43	23	178	244
合 計	164	248	118	1,224	1,590
年 平 均	27	41	19	204	265

2021 年度の班研究プロジェクト

班番号	班の名称	所内 教員	研究協力者		計
			学内	学外	
P-1	南アジア北部における人類学的研究の再検討	1	1	10	12
P-2	アジアの貧困と不平等の再検討	2	0	5	7
P-3	中台関係の総合的研究	3	1	11	15
P-4	アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究	1	3	3	7
P-5	東アジアの安全保障研究	1	0	6	7
P-6	東アジアにおける「民俗学」の方法的課題	1	1	6	8
P-7	英語でなされるアジア学教育プログラムに関する研究	4	0	1	5
E1-1	中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法研究	2	1	20	23
E1-2	中国古代文献の成立に関する多角的研究	1	4	7	12
E2-1	現存する中国絵画の包括的再検討	2	0	9	11
E2-2	仏教美術に関する資料収集と比較研究	3	0	11	14
E2-3	中国学における概念マップの再構築	1	2	13	16
E2-4	アジアの資料・情報の再編と可視化	5	2	6	13
S-1	ミャンマー近現代史における「国」と「民」	2	0	5	7
S-2	南アジア農村社会の歴史的研究	3	0	9	12
S-3	中国禅宗語録の研究	1	0	6	7
S-4	上座部文献の研究	1	3	7	11
S-5	往来型フィールドワークがつくる社会生活	3	2	6	11
W-1	ベルシア語文化圏研究	1	2	13	16
W-2	イスラーム美術の諸相	1	0	10	11
W-3	ムハンマド一族をめぐる諸言説の研究	1	1	6	8
W-4	オスマン朝史料学的方法的課題	1	0	8	9
N-1	アジア法史	1	0	3	4
個別課題	建国期イスラエルの国内政治と対アラブ政策に関する歴史的研究	0	0	1	1
個別課題	方法としての音-アーカイブ・フィールド・スタジオの<写音的近代>	0	0	1	1
合計 (のべ人数)		42	23	183	248

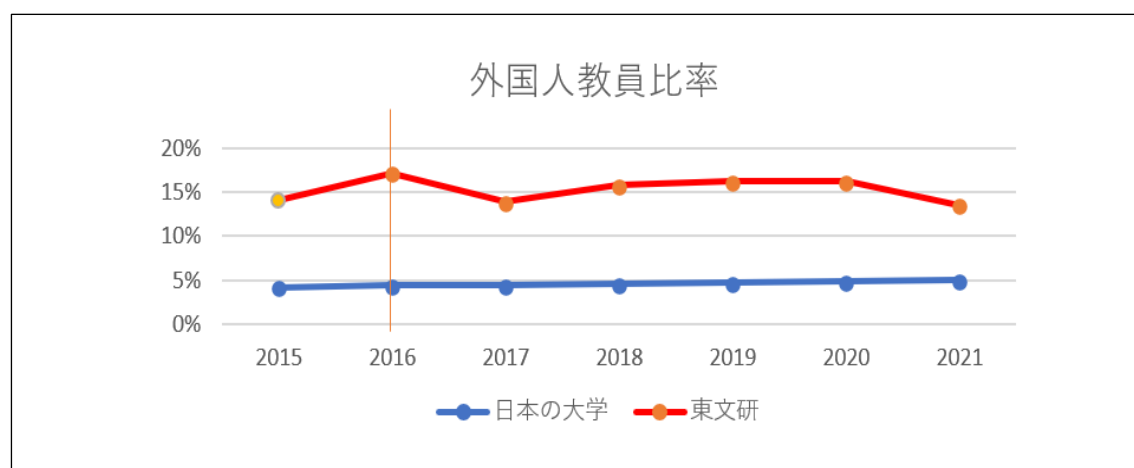
(資料15) 東文研セミナー・シンポジウム等の研究集会開催状況

(単位：件)

区 分	2016	2017	2018	2019	2020	2021
シンポジウム	9	5	5	15	12	6
講演会・セミナー	34	42	40	55	17	28
研究会・ワークショップ	6	6	6	10	6	5
合計	49	53	51	80	35	39

* 第3期中の開催総数：307件、年平均：約51件

(資料16) 本研究所の外国人教員比率



(資料17) 新世代アジア研究部門の世界的著名教授招へいリスト

○氏 名：包 茂紅

所属機関：北京大学人文学部歴史学科・教授

雇用期間：2016 年 7 月 8 日～2016 年 9 月 30 日

研究テーマ：グローバル・ヒストリーの観点からのポスト第二次世界大戦期における
経済発展と環境ガバナンスの研究

○氏 名：包 茂紅

所属機関：北京大学人文学部歴史学科・教授

雇用期間：2017 年 7 月 1 日～2017 年 9 月 29 日

研究テーマ：グローバル・ヒストリーの観点からのポスト第二次世界大戦期における
経済発展と環境ガバナンスの研究

○氏 名：夏 明方

所属機関：中国人民大学清史研究所・教授

雇用期間：2017 年 7 月 1 日～2017 年 12 月 31 日

研究テーマ：環境史の観点から見た近代中国経済

○氏 名：Alessandro Stanziani

所属機関：フランス社会科学高等研究院・教授

雇用期間：2018 年 4 月 1 日～2018 年 5 月 31 日

研究テーマ：グローバル・ヒストリーから見た歴史叙述—17 世紀から 20 世紀にかけて

○氏 名：Alessandro Stanziani

所属機関：フランス社会科学高等研究院・教授

雇用期間：2018 年 7 月 10 日～2018 年 10 月 9 日

研究テーマ：グローバル・ヒストリーから見た歴史叙述—17 世紀から 20 世紀にかけて

○氏 名：張 旭東

所属機関：ニューヨーク大学・主任

雇用期間：2019 年 4 月 1 日～2019 年 4 月 9 日

研究テーマ：グローバル化の文脈における二十世紀の中国文学と思想

○氏 名：Robert Lawrence Chard

所属機関：オックスフォード大学・中国古典学・准教授／同大学セント・アン・カレッジ・東洋学教官及び副学長

雇用期間：2020 年 4 月 1 日～2020 年 9 月 30 日

研究テーマ：東アジア文化史

(資料18) 英文図書刊行事業 (UT-IPI) での出版事例

書名	出版社
<i>An Intimate Journey: Finding Myself Amongst the Sama-Bajau</i>	Trans Pacific Press
<i>A Global History of Money</i>	Routledge
<i>Land and Society in Early South Asia: Eastern India 400-1250 AD</i>	Routledge India
<i>Mobilizing Japanese Youth: The Cold War and the Making of the Sixties Generation</i>	Cornell University Press
<i>A History of Maritime Trade in Northern Vietnam, 12th to 18th Centuries: Archaeological Investigations in Vandon and Phohien</i>	Springer

(資料19) 海外研究機関からの訪問研究員の受け入れ状況

〔地域別受入数〕

(単位：人)

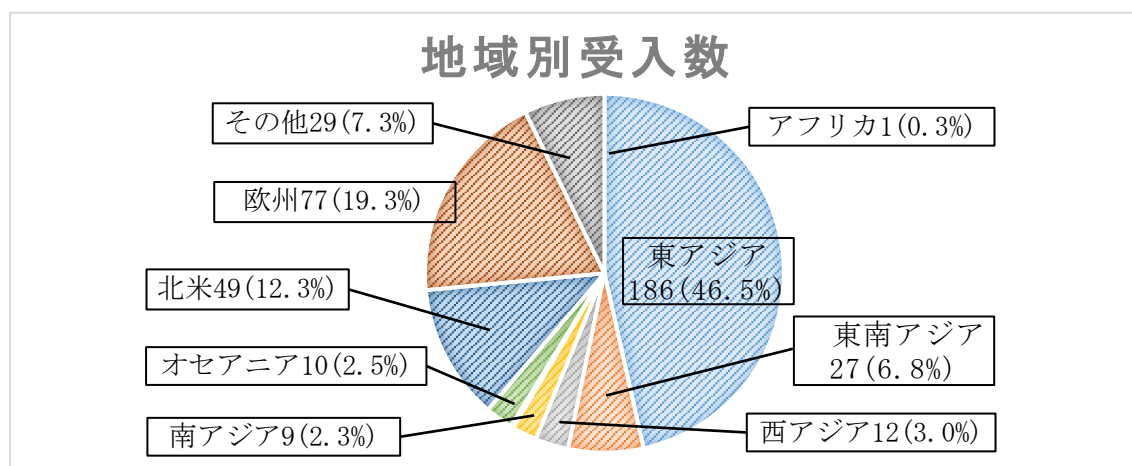
	東アジア	東南アジア	西アジア	南アジア	アフリカ	オセアニア	北米	欧州	その他	合計
受入数	186	27	12	9	1	10	49	77	29	400
割合 (%)	46.5%	6.8%	3.0%	2.3%	0.3%	2.5%	12.3%	19.3%	7.3%	100.0%

* その他：海外の研究機関に属する日本国籍を有する者

〔年度別受入数〕

(単位：人)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
受入数	115	94	77	95	13	6	400



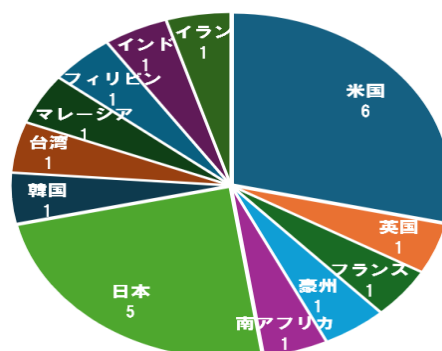
(資料20) 本研究所の刊行物一覧

2016 年度～2021 年度

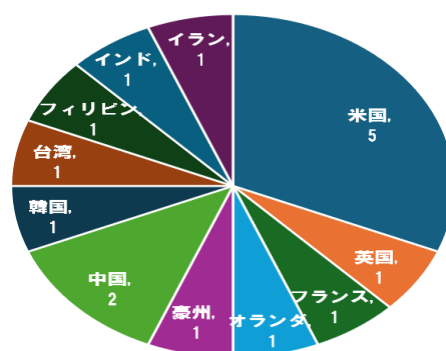
番号	種 別	巻号等	著者・編者	タ イ ト ル	刊行年
1	東洋文化研究所 紀要	第 170-181 冊 (12冊)	東洋文化研究所	『東洋文化研究所紀要』	2016～ 2021 年
2	紀要別冊		平勢隆郎	『史書の「仁」評価と古代の数理』	2016 年
3	紀要別冊		大木 康	『馮夢龍と明末俗文学』	2017 年
4	紀要別冊		高橋昭雄	『ミャンマーの体制転換と農村の社会経済史』	2020 年
5	紀要別冊		大木 康	『明清江南社会文化史研究』	2020 年
6	東洋文化研究所 叢刊	第 31 輯	名和克郎	『体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相：言説政治・社会実践・生活世界』	2017 年
7	東洋文化研究所 叢刊	第 32 輯	長澤榮治	『近代エジプト家族の社会史』	2019 年
8	東洋文化研究所 叢刊	第 33 輯	Waka Aoyama	『An Intimate journey - Finding Myself Amongst the Sama-Bajau-』	2020 年
9	雑誌 『東洋文化』	第 97 号	東洋文化研究所	『開発と援助の未来学』	2017 年
10	雑誌 『東洋文化』	第 98 号	東洋文化研究所	『出土文獻と秦楚文化 (I)』	2018 年
11	雑誌 『東洋文化』	第 99 号	東洋文化研究所	『出土文獻と秦楚文化 (II)』	2019 年
12	雑誌 『東洋文化』	第 100 号	東洋文化研究所	『開かれていく人文知-もう一つの世界につながるために-』	2020 年
13	雑誌 『東洋文化』	第 101 号	東洋文化研究所	『世界史を越境する／世界史に共振する-画家・富山妙子の作品世界-』	2021 年
14	雑誌 『東洋文化』	第 102 号	東洋文化研究所	『開かれていく人文知-もう一つの世界につながるために-2-』	2022 年
15	東アジア部門 美術研究分野報告		東 ア ジ ア 部 門 美術研究分野	『中國繪畫總合圖録 第三編』 第四卷 アジア・オセアニア篇	2016 年

16	東アジア部門 美術研究分野報告		東 ア ジ ア 部 門 美術研究分野	『中國繪畫總合圖録 第三編』 第五卷 日本篇	2019 年
17	東アジア部門 美術研究分野報告		東 ア ジ ア 部 門 美術研究分野	『中國繪畫總合圖録 第三編』 第六卷 総索引	2020 年
18	東洋学研究情報 センター叢刊	第 22 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの宗 教・司法関連文書』	2016 年
19	東洋学研究情報 センター叢刊	第 23 輯	赤迫照子	『廣島大學文學部舊藏漢籍目録書 名索引』	2017 年
20	東洋学研究情報 センター叢刊	第 24 輯	平勢克郎	『東洋文化研究所所蔵山本照像館 等撮影中国史跡写真目録』	2017 年
21	東洋学研究情報 センター叢刊	第 25 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの法的 権利関連・司法関連文書および宗 教生活関連文書』	2017 年
22	東洋学研究情報 センター叢刊	第 26 輯	平勢克郎	『東方文化学院（東京研究所）研 究の風景』	2018 年
23	東洋学研究情報 センター叢刊	第 27 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの社会 関連・司法関連文書』	2018 年
24	東洋学研究情報 センター叢刊	第 28 輯	松田康博	『台湾政党政治黎明期関係者イン タビュー集（上）』	2019 年
25	東洋学研究情報 センター叢刊	第 29 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの農業 用水関連文書』	2019 年
26	東洋学研究情報 センター叢刊	第 30 輯	松田康博	『台湾政党政治黎明期関係者イン タビュー集（下）』	2020 年
27	東洋学研究情報 センター叢刊	第 31 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの樹園 地・果樹園・樹木関連文書』	2020 年
28	東洋学研究情報 センター叢刊	第 32 輯	森本一夫	『カージャール朝期イランの市 場・店舗・隊商宿関連文書』	2021 年
29	東洋学研究情報 センター叢刊	第 33 輯	森本一夫	『文書史料にみるカージャール朝 期のマーザンダラーンとアブドル マレキー部族』	2021 年
30	東洋学研究情報 センター叢刊	第 34 輯	米野みちよ	『部族の記憶を記録するーフィリ ピン北部ヴァナウの民話』	2021 年
31	ニューズレター	No.36－40 （5冊）	東洋文化研究所 附属東洋学研究 情報センター	『明日の東洋学』	2016～ 2019 年
31	その他		東洋文化研究所 ・金沢文庫	『東京大学東洋文化研究所×金沢文 庫－東洋学への誘い』	2019 年
32	その他		東洋文化研究所	『東洋文化研究所の 80 年－近 30 年の活動記録を中心に』	2022 年

(資料21) International Journal of Asian Studies
(IJAS) の編集委員



(資料22) 東京大学東洋文化研究所アジア研究
叢書 (UTSA) の国際諮問委員



(資料23) 教員の研究業績数と使用言語

年度	研究者数*1	著作数*2	論文数	その他*3	合計	一人当たり平均
2016年度	33	21	90	15	126	3.82
2017年度	32	19	113	25	157	4.91
2018年度	32	22	80	21	123	3.84
2019年度	30	16	72	13	101	3.37
2020年度	29	32	101	12	145	5.00
2021年度	29	20	82	11	113	3.90
第3期合計	185	130	538	97	765	
当該6年間平均	30.83	21.67	89.67	16.17	127.50	4.14

* 1 研究者数 任期付き研究者含めず

* 2 著作数は、著書、編著、共著、翻訳数

* 3 その他は、書評論文・書誌紹介、事典等項目

上記業績の外国語使用言語

年度	英語	中国語	韓国語	ペルシャ語	合計
2016年度	21	5	0	0	26
2017年度	30	19	1	2	52
2018年度	20	15	2	2	39
2019年度	13	7	1	2	23
2020年度	17	5	1	1	24
2021年度	22	9	1	1	33
第3期合計	123	60	6	8	197
当該6年間平均	20.5	10	1	1.33	32.83

第3期に執筆された単著・編著（訳書含む）のリスト

著者	書名	出版社	出版年
【2016 年度】			
家近亮子、唐亮、 松田康博（編）	『【新版】5 分野から読み解く現代中国 —歴史・政治・経済・社会・外交—』	晃洋書房	2016.6.
名和克郎（編）	『体制転換期ネパールにおける「包 摂」の諸—言説政治・社会実践・生活 世界』東洋文化研究所叢刊第 31 輯	東京大学東洋文化 研究所/ 三元社	2017.
板倉聖哲、小川裕 充（編）	『中国絵画総合図録三編』第 4 巻 ア ジア・オセアニア編	東京大学出版会	2016.9.
塚本麿充	『北宋絵画史の成立』	中央公論美術出版	2016.
ナイラ・カビール （遠藤環、青山和 佳、韓載香 訳）	『選択する力—バングラデシュ人女性 によるロンドンとダッカの労働市場に おける意思決定』	ハーベスト社	2016.4.
池田嘉郎、上野慎 也、村上衛、森本 一夫（編）	『名著で読む世界史 120』	山川出版社	2016.12.
佐藤仁	『野蛮から生存の開発論—越境する援 助のデザイン』	ミネルヴァ書房	2016.6.
安富歩	『超訳論語—革命の言葉 エッセンシ ャル版』	ディスカヴァー・ トゥエンティワン	2016.9.
安富歩	『あなたが生きづらいのは「自己嫌 悪」のせいである。他人に支配され ず、自由に生きる技術』	大和出版	2016.8.
安富歩	『マイケル・ジャクソンの思想』	アルテスパブリッ シング	2016.4.
平勢隆郎	『「仁」の原義と古代の数理』	雄山閣	2016.11.
平勢隆郎、宇都宮 美生、野久保雅嗣 （編）	『東洋文化研究所蔵山本照像館等撮影 中国史跡写真』センター叢刊 24	東京大学東洋文化 研究所附属東洋学 研究情報センター	2017.3.
羽田正	『モスクが語るイスラム史—建築と政 治権力』	筑摩書房	2016.12.
羽田正（編）	『地域史と世界史』	ミネルヴァ書房	2016.10.
羽田正（編）	『「世界史」の世界史』	ミネルヴァ書房	2016.9.

長澤榮治、栗田禎子（編）		『中東と日本の針路―「安保法制」がもたらすもの』	大月書店	2016.5.
後藤晃、長澤榮治（編）		『現代中東を読み解く アラブ革命後の政治秩序とイスラーム』	明石書店	2016.8.
【2017 年度】				
松田康博、清水麗（編）		『現代台湾の政治経済と中台関係』	晃洋書房	2018.3.
高見澤磨、鈴木賢（編）		『要説 中国法』	東京大学出版会	2017.9.
中島隆博		『思想としての言語』	岩波書店	2017.9.
大木康		『馮夢龍と明末俗文学』	汲古書院	2018.1.
大木康		『蘇州花街散歩 山塘街の物語』	汲古書院	2017.7.
大木康	※	『馮夢龍『山歌』研究』（中国語）	復旦大学出版社	2017.6.
板倉聖哲（編）		『典雅と奇想―明末清初の中国名画』	東京出版	2017.11.
青山和佳、受田宏之、小林誉明（編）		『開発援助がつくる社会生活―現場からのプロジェクト診断』（第二版）	大学教育出版	2017.12.
佐藤仁		『教えてみた「米国トップ校」』	角川新書	2017.9.
園田茂人		『アジアの国民感情―データが明かす人々の対外認識』	中央公論新社	2020.
園田茂人、David S. G. Goodman（編）		『チャイナ・インパクト―近隣から見た「台頭」と「脅威」』	東京大学出版会	2018.
安富歩		『Tao 老子の教え―あるがままに生きる』	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2017.6.
HANEDA, Masashi	※	TOWARD CREATION OF A NEW WORLD HISTORY（英語）	出版文化産業振興財団 JPIC	2018.3.
羽田正		『グローバル化と世界史』	東京大学出版会	2018.3.
羽田正		『東インド会社とアジアの海』（学術文庫版）	講談社	2017.11.
羽田正（編）		『グローバル・ヒストリーの可能性』	山川出版社	2017.10.
羽田正（林詠純訳）	※	『東印度公司與亞細亞的海洋』（中国語）	八旗文化/遠足文化事業股份有限公司	2018.1.

羽田正（張雅婷 訳）	※	『従海洋看歴史』（中国語）	広場出版	2017.5.
【2018 年度】				
田上智宜、松田康 博（編）		『台湾政党政治黎明期関係者インタビ ュー集（上）』東洋学研究情報センタ ー叢刊 28（中国語）	東京大学東洋文化 研究所附属東洋学 研究情報センター	2019.3.
藏本龍介（編）		『非営利組織の経営に関する文化人類 学的研究』南山大学人類学研究所研究 論集 第 6 号	南山大学人類学研 究所	2019.3.
小林康夫、中島隆 博		『日本を解き放つ』	東京大学出版会	2019.1.
中島隆博（編）		『世界の語り方 1 心と存在』	東京大学出版会	2018.9.
中島隆博（編）		『世界の語り方 2 言語と倫理』	東京大学出版会	2018.9.
板倉聖哲		『李公麟「五馬図」』	羽鳥書店	2019.3.
板倉聖哲、小川裕 充（編）		『中国絵画総合図録三編』第 5 巻 日本 編	東京大学出版会	2019.3.
板倉聖哲（編）		『「西湖憧憬－西湖梅をめぐる禅僧の 交流と 15 世紀の東国文化」展図録』	神奈川県立金沢文 庫	2018.9.
高橋昭雄		『蒼生のマンマー－農村の暮らしから みた、変貌する国』	明石書店	2018.
馬場紀寿		『初期仏教 ブッダの思想をたどる』	岩波書店	2018.8.
長澤榮治		『近代エジプト家族の社会史』	東京大学出版会	2019.2.
Masashi, Haneda, and Mihoko Oka, eds.	※	<i>Maritime History of East Asia: Kyoto and Melbourne</i> （英語）	Kyoto University Press and Trans Pacific Press	2019.3.
羽田正（張厚泉 訳）	※	『全景世界史』全 5 巻（中国語）	復旦大学出版社	2018.6.
羽田正（鄭淳一 訳）	※	『海から見た歴史』（韓国語）	Minumsa Publishing Group	2018.
【2019 年度】				
菅 豊、北條勝貴 （編）		『パブリック・ヒストリー入門－開か れた歴史学への挑戦』	勉誠出版	2019.10.

テイラー・フレイヴェル（松田康博 監訳、杉浦康之、手賀裕輔、福田円、吉田真吾、山口信治訳）		『中国の領土紛争－武力行使と妥協の論理』	勁草書房	2019.7.
川島真、遠藤貢、高原明生、松田康博（編）		『中国の外交戦略と世界秩序－理念・政策・現地の視線』	昭和堂	2020.1.
高見澤磨、鈴木賢、坂口一成		『現代中国法入門』（第8版）	有斐閣	2019.12.
黒田明伸		『貨幣システムの世界史 岩波現代文庫』	岩波書店	2020.2.
中島隆博、石井剛		『ことばを紡ぐための哲学－東大駒場・現代思想講義』	白水社	2019.4.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 3－中世Ⅰ 超越と普遍に向けて』	ちくま新書	2020.3.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 2－古代Ⅱ 世界哲学の成立と展開』	ちくま新書	2020.2.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 1－古代Ⅰ 知恵から愛知へ』	ちくま新書	2020.1.
板倉聖哲、小川裕充（編）		『中国絵画総合図録三編』6巻 総索引	東京大学出版会	2020.3.
Aoyama, Waka		<i>An Intimate Journey: Finding Myself Amongst the Sama-Bajau.</i> （英語）	Kyoto University Press and Trans Pacific Press	2020.3.
Furui, Ryosuke		<i>Land and Society in Early South Asia: Eastern India 400-1250 AD.</i> （英語）	Routledge	2020.
佐藤仁		『反転する環境国家－「持続可能性」の罫をこえて』	名古屋大学出版会	2019.6.
【2020年度】				
Jose 川島良彰、池本幸生、山下加夏		『コーヒーで読み解くSDGs』	ポプラ社	2021.3.
菅豊（郭海紅 訳）	※	『河川の帰属－人與環境的民俗学』（中国語）	中西書局	2020.12.
川島真・清水麗・松田康博・楊永明共（編）	※	『台日關係史（1945-2020）』	國立臺灣大學出版中心	2021.3.

川島真・清水麗・松田康博・楊永明共（編）		『日台関係史 1945-2020 増補版』	東京大学出版会	2020.10.
Kuroda, Akinobu	※	A Global History of Money	Routledge	2020.4.
真鍋祐子、趙泰燮 総括		<i>The Turbulent Seas of Memory: The World of Tomiyama Taeko</i> = 記憶の海へー富山妙子の世界=기억의 바다로－도미야마 다에코의 세계（英語、韓国語、日本語）	延世大学校大学出版文化院（延世大学校博物館・東京大学東洋文化研究所）	2021.3.
富山妙子、真鍋祐子、小林宏道、Rebecca Jennison、延世大学校、東京大学、延世大学校博物館		<i>To turbulent seas of memory－the world of Tomiyama Taeko</i> = 기억의 바다로－도미야마 다에코의 세계 = 記憶の海へー富山妙子の世界（英語、韓国語、日本語）	「富山妙子の芸術と思想」研究会	2020.
マルクス・ガブリエル、中島隆博		『全体主義の克服』	集英社新書	2020.8.
中島隆博、吉見俊哉、佐藤麻貴（編）		『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』	勁草書房	2020.10.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 8ー現代 グローバル時代の知』	ちくま新書	2020.8.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 7ー近代Ⅱ 自由と歴史的発展』	ちくま新書	2020.7.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 6ー近代Ⅰ 啓蒙と人間感情論』	ちくま新書	2020.6.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 5ー中世Ⅲ バロックの哲学』	ちくま新書	2020.5.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 4ー中世Ⅱ 個人の覚醒』	ちくま新書	2020.4.
伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留（編）		『世界哲学史 別巻』	ちくま新書	2020.12.

許紀霖（中島隆博、王前 監訳及川淳子、徐行、藤井嘉章 訳）		『普遍的価値を求める－中国現代思想の新潮流』（第 1121 版 叢書・ユニベルシタス）	法政大学出版局	2020.8.
田中有紀（編）		『朱子学的一去与未来』	東アジア藝文書院	2021.2.
田中有紀（編）		『東アジア音楽思想における「和」』	東アジア藝文書院	2020.11.
大木康		『明清江南社会文化史研究』	汲古書院	2020.9.
板倉聖哲（編）		『アジア仏教美術論集 東アジア 3（五代・北宋・遼・西夏）』	中央公論美術出版	2021.3.
板倉聖哲（編）		『日本美術のつくられ方 佐藤康宏先生の退職によせて』	羽鳥書店	2020.12.
板倉聖哲（編）		『アジア仏教美術論集 東アジア 4（南宋・大理・金）』	中央公論美術出版	2020.12.
鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸（編集代表）岡田保良、鎌田繁、長澤榮治、永田雄三、西尾哲夫、深見奈緒子、保坂修司、榎屋友子、水野信男、森本一夫（編）		『中東・オリエント文化事典』	丸善出版株式会社	2020.11.
真道洋子（榎屋友子 監修）		『イスラーム・ガラス』	名古屋大学出版会	2020.9.
Kazuo Morimoto, ed.		“Kingship and Political Legitimacy in the Persianate World,” symposium, <i>Journal of Persianate Studies</i> 12-2.	Brill	2020.1.
松本悟、佐藤仁（編）		『国際協力と想像力－イメージと「現場」のせめぎ合い』	日本評論社	2021.3.
【2021 年度】				
福田アジオ、菅豊、塚原伸治（陳志勤、趙彦民、彭偉文 訳）	※	『超越 20 世紀民俗学－対話福田亜細男』（中国語へ）	山東画報出版社	2021.6.
菅豊		『鷹將軍と鶴の味噌汁－江戸の鳥の美食学』	講談社	2021.8.

中島隆博		『中国哲学史—諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』	中公新書	2022.2.
中島隆博		『危機の時代の哲学—想像力のディスクール』	東京大学出版会	2021.8.
中島隆博（編）		『人の資本主義』	東京大学出版会	2021.9.
大木康（田訪 訳）	※	『『史記』与『漢書』 中国文化的晴雨計』（中国語）	三聯書店	2021.10.
大木康		『明清戯曲俗曲雑考』（中国語）	復旦大学出版社	2021.9.
板倉聖哲、塚本麿充（編）		『コレクションとアーカイブ—東アジア美術研究の可能性』	勉誠出版	2021.1.
板倉聖哲、塚本麿充（編）		『アジア佛教美術論集 東アジアⅢ 北宋・遼・西夏』	中央公論美術出版	2021.
高橋昭雄		『ミャンマーの体制転換と農村の社会経済史—1986-2019 年』	東京大学出版会	2021.
アンソニー・リード（太田淳・長田紀之 監訳、青山和佳、今村真央、蓮田隆志 訳）		『世界史のなかの東南アジア—歴史を変える交差点 上巻・下巻』	名古屋大学出版会	2021.11.
Matsuo, Mizuho, and Michihiro Ogawa, eds.		<i>The Caste Formation in Maharashtra</i>	The Centre for South Asian Studies at the National Museum of Ethnology	2022.1.
馬場紀寿		『仏教の正統と異端 パーリ・コスモポリスの成立』	東京大学出版会	2022.2.
佐藤仁		『開発協力のつくられ方—自立と依存の生態史』	東京大学出版会	2021.5.
園田茂人（編）		『はじめて出会う中国』[改訂版]	有斐閣	2022.
園田茂人、謝宇（編）		『世界の対中認識—各国の世論調査から読み解く』	東京大学出版会	2021.

※は、日本語の著書が外国語に翻訳されて出版された業績

（資料24）叙勲・学術賞等の受章・受賞

顕著な受章・受賞（名誉教授含む）

- | | | |
|----------|----------------------------|--------|
| 1. 斯波 義信 | 文化勲章 | 2017 年 |
| 2. 斯波 義信 | 唐奨 | 2018 年 |
| 3. 羽田 正 | 紫綬褒章 | 2017 年 |
| 4. 羽田 正 | フランス政府教育功労章将校（オフィシエ 2 等）受章 | 2021 年 |

学術賞

- | | | |
|----------|----------------|--------|
| 1. 名和 克郎 | 大同生命地域研究奨励賞 | 2019 年 |
| 2. 佐藤 仁 | 国際開発研究・大来賞 | 2017 年 |
| 3. 馬場 紀寿 | パーリ学仏教文化学会学術賞 | 2016 年 |
| 4. 馬場 紀寿 | 東方学会賞 | 2017 年 |
| 5. 馬場 紀寿 | 日本学術振興会賞 | 2019 年 |
| 6. 塚本 磨充 | 三島海雲学術賞 | 2018 年 |
| 7. 小川 道大 | 第 8 回日本南アジア学会賞 | 2021 年 |

(資料25) 若手研究者育成

留学生の受け入れ状況

(単位：人)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
修士課程	19	15	22	24	24	18	122
博士課程	15	15	14	21	15	19	99
合 計	34	30	36	45	39	37	221

特別研究員の受け入れ状況

(単位：人)

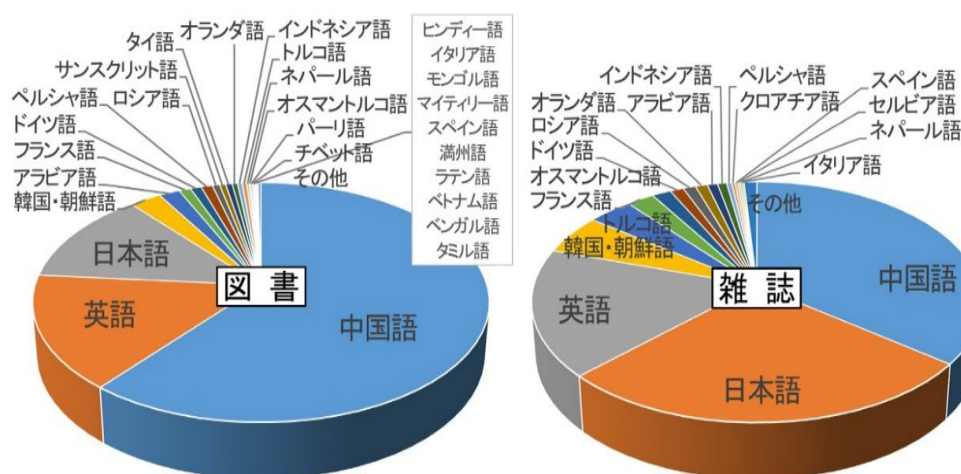
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
学振特別研究員	4	2	6	4	1	1	18
外国人特別研究員	5	2	3	1	1	0	12
合 計	9	4	9	5	2	1	30

大学院生指導状況

(単位：人)

		2019	2020	2021	合計
指導院生	修士	30	26	26	82
	博士	26	29	32	87
博士号取得者		6	4	8	18

(資料26) 図書室の蔵書の状況



(資料27) 図書室の受け入れ状況

図書収集状況

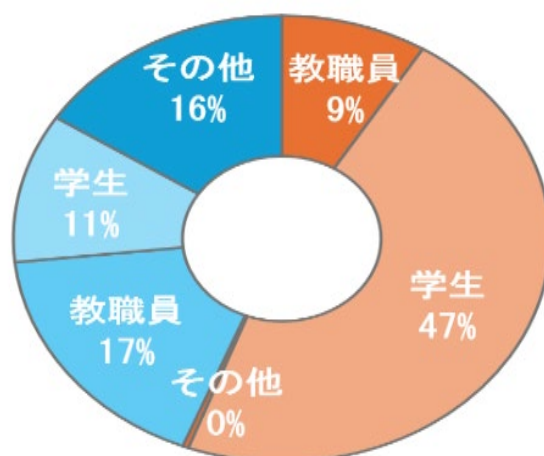
年度	受け入れ冊数	うち購入分	年度	受け入れ冊数	うち購入分
2016	4,248	1,679	2019	5,406	1,721
2017	4,415	1,619	2020	3,089	1,526
2018	4,264	1,620	2021	4,096	2,094
合 計	25,518		年平均	4,253	

(単位：冊)

図書室利用者の状況

(単位：人)

	学内				学外				合計
	教職員	学生	その他	小計	教職員	学生	その他	小計	
2016	282	1,377	42	1,701	561	427	450	1,438	3,139
2017	233	1,460	0	1,693	495	271	508	1,274	2,967
2018	227	1,239	0	1,466	469	290	467	1,226	2,692
2019	193	1,062	0	1,255	385	246	364	995	2,250
2020	71	406	1	478	64	26	65	155	633
2021	97	322	0	419	192	93	133	418	837



(資料28) デジタルデータの公開状況

東京大学 東洋文化研究所

アジア古籍電子図書館

 東洋文化研究所蔵
アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース

 総合図書館蔵・東洋文化研究所 南アジア部門制作
サンスクリット語写本データベース

 東洋文化研究所蔵
漢籍善本全文影像資料庫

 東洋文化研究所蔵
明代図像資料三才圖會データベース

 東洋文化研究所蔵
雙紅堂文庫全文影像資料庫

[朝鮮活字翻印](#) [秀州州学本](#) [六臣注](#) [文選](#)

当図書館で提供する、すべての画像等データについて、東洋文化研究所への承諾なしに、全部または一部を複製・再配布・販売することを禁じます。インターネットによる画像閲覧以外のサービスは行っていない。資料保存の観点から、原本の閲覧には原則的に応じかねます。

東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション

作成・提供：東京大学附属図書館アジア研究図書館上層管理情報研究部門 (U-PARL)

[閲覧](#)

お知らせ

- 2022年9月5日：永源伝コレクションに5件、U-PARLセクションに2件のアイテムを追加しました。
- 2022年8月22日：永源伝コレクションに2件のアイテムを追加しました。また、Digital Resources for Egyptian Studiesに日本語名称を付けてエジプト学研究所のデジタル資源/Digital Resources for Egyptian Studiesとし、1件のアイテムを追加しました。
- 2022年2月18日：神祐松本コレクションに11件のアイテムを追加しました。
- 2020年1月16日：これまで「東京大学附属図書館アジア研究図書館上層管理情報研究部門 U-PARL漢籍・神祐松本資料」として公開していたサイトをリニューアルし、新設公開コンテンツも加えて、「アジア研究図書館デジタルコレクション」を公開しました。これまでのサイトにはこちらからアクセスいただけます。

コレクション一覧

 神祐松本コレクション

 永源伝コレクション

 U-PARLセクション

 エジプト学研究のためのデジタル資源 / Digital Resources for Egyptian Studies

(資料29) 漢籍整理長期研修参加者

年度	参加人数	開催期間	
		前期	後期
2016年度	11	6月6日～6月10日	9月5日～9月9日
2017年度	11	6月5日～6月9日	9月4日～9月8日
2018年度	9	6月4日～6月8日	9月3日～9月7日
2019年度	8	6月3日～6月10日	9月2日～9月6日
2020年度	中止		
2021年度	11	6月7日～6月11日	9月6日～9月10日

2019年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日程	時間	課目		講師	備考
6月3日(月)	9:30～ 10:00	開講式 オリエンテーション		榊屋 友子 (東洋文化研究所長)	
	10:00～ 17:00	漢籍版本目録概説	講義	大木 康 (東洋文化研究所教授)	
6月4日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	古勝 隆一 (京都大学准教授)	
6月5日(水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(1)	実習	上原 究一 (東洋文化研究所准教授)	
6月6日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(2)	実習	上原 究一 (東洋文化研究所准教授)	
6月7日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮印刷文化について	講義	藤本 幸夫 (富山大学名誉教授)	
6月10日(月)～ 8月30日(金)		所属図書館等所蔵漢籍 整理及び研究	自習		
9月2日(月)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長澤 孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月3日(火)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの 利用と構築	講義	安岡 孝一 (京都大学教授)	
9月4日(水)	9:00～ 17:00	東洋文庫について	講義	瀧下 彩子, 會谷 佳光 (東洋文庫)	東洋文庫見 学を含む
9月5日(木)	9:00～ 12:00	東京大学総合図書館と 文学部漢籍コーナーの 見学	見学	大木 康 (東洋文化研究所教授) 上原 究一 (東洋文化研究所准教授)	
	13:30～ 17:00	資料保存の考え方・綴じ などの実習	講義 実習	青木 留美子 (国立国会図書館収集書誌部 資料保存課)	
9月6日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習(3)	実習	高橋 智 (慶應義塾大学教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		榊屋 友子 (東洋文化研究所長)	

※都合により課目・講師等を変更することがあります。

(資料30) 漢籍整理長期研修参加者所属機関
(1980～2021 年度)

北海道大学	奈良教育大学	鶴見大学
北海道教育大学	奈良女子大学	フェリス女学院大学
弘前大学	岡山大学	愛知淑徳大学
東北大学	広島大学	佛教大学
宮城教育大学	愛媛大学	龍谷大学
秋田大学	高知大学	関西大学
山形大学	九州大学	武庫川女子大学
筑波大学	長崎大学	国立国会図書館
図書館情報大学	熊本大学	国文学研究資料館
群馬大学	鹿児島大学	国立歴史民俗博物館
千葉大学	琉球大学	東京国立博物館
東京大学総合図書館	東京都立大学	宮城県図書館
東京大学法学部	横浜市立大学	仙台市民図書館
東京大学教養学部	青山学院大学	福島県歴史資料館
東京大学東洋文化研究所	桜美林大学	埼玉県立川越高校
東京大学経済学部	慶應義塾大学	千葉県立西部図書館
東京大学文学部	國學院大學	都立中央図書館
東京外国語大学	国際基督教大学	台東区立書道博物館
東京学芸大学	駒澤大学	横浜ユーラシア文化館
東京藝術大学	実践女子大学	新発田市立歴史図書館
お茶の水女子大学	上智大学	津図書館
一橋大学	成蹊大学	神戸市立中央図書館
新潟大学	成城大学	富山市立図書館
信州大学	専修大学	鳥取県立図書館
金沢大学	中央大学	島根県立図書館
福井大学	創価大学	岡山県立図書館
名古屋大学	大東文化大学	アジア・アフリカ図書館
愛知教育大学	二松学舎大学	東洋文庫
滋賀大学	日本大学	大倉集古館
京都大学図書館	文教大学	総本山長谷寺
京都大学人文科学研究所	法政大学	民族学振興会
大阪大学	立教大学	中国文化大学（台湾）
大阪教育大学	明治大学	
神戸大学	早稲田大学	

(資料31) 主なデータベース

	データベース名	蓄積情報の概要					公開方法	
1	日本政治・国際関係データベース	戦後日本の政治や国際関係についてのデータベース。重要文献、演説、出来事、略語等を調べることができる。順次情報を公開、2014年公開。					HPで公開	
	蓄積量／利用・提供状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
	蓄積量（文書）	8,003	8,520	9,128	9,619	-	-	35,270
	蓄積量（年表）	233,962	233,962	233,962	233,962	-	-	935,848
	利用件数	1,781,691	1,760,164	2,239,877	1,508,960	-	-	7,290,692
2	インド史跡調査団データベース	1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が行ったデリーを中心としたインドのイスラーム建築の写真、図面、拓本等の資料をデジタル化し、都市別、建物別に公開している。					HPで公開	
	蓄積量／利用・提供状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
	蓄積量	9,449	9,449	9,449	9,449	-	-	37,796
	利用件数	970,810	613,610	928,084	1,126,011	-	-	3,638,515
3	貴重漢籍善本	約11万冊に及ぶ所蔵漢籍があり文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため。					HPで公開	
	蓄積量／利用・提供状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
	蓄積量	104,949	104,949	104,949	104,949	-	-	419,796
	利用件数	9,723,788	13,125,313	20,423,108	4,424,278	-	-	47,696,487
4	雙紅堂文庫全文影像資料庫	長澤規矩也氏旧蔵書である中国明清時代の戯曲小説類約550部（約3,000冊）のうち、約500部（約3,940タイトル）を公開している。長澤氏が編集された『雙紅堂文庫分類目録』順に資料を並べ替えることができる。					HPで公開	
	蓄積量／利用・提供状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
	蓄積量	41,160	41,160	41,160	41,160	-	-	164,640
	利用件数	8,035	9,587	8,902	3,233	-	-	29,757

5	中国絵画所在情報データベース/東アジア絵画史研究文献目録/江戸後期中国絵画所在目録	国内外の中国絵画コレクションの悉皆調査を継続的に行ってきた。					HP で公開	
	蓄積量／利用・提供状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
	蓄積量	23,931	23,931	23,931	23,931	-	-	95,724
	利用件数	34,913	28,857	38,607	50,442	-	-	152,819

(資料32) 第3期のデータベース新規公開

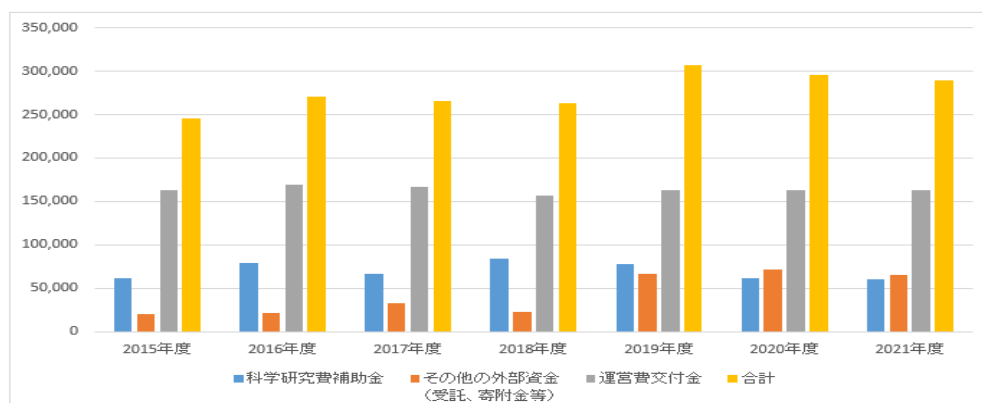
	件 名
1	データベース『世界と日本』/共同プロジェクト 政策研究大学院大学田中明彦研究室
2	『當代日本興東亞研究』

(資料33) 機関推進プロジェクト

番号	分野	プロジェクト名	年度
1	造形	歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存－東京大学インド史蹟調査団 HP の改訂と 2015 年度調査結果の HP 立ち上げ	2016
2	造形	東アジア美術データベースの構築と活用	2016-2018
3	文献	現代ネパール語重要書籍・資料の体系的収集・整理のための予備作業	2016
4	文献	東洋文化研究所所蔵漢籍目録増補のための基礎作業	2016-2017
5	文献	東洋文化研究所パーリ語文献コレクションの目録作成	2016-2017
6	文献	華語圏現代貴重史料の収集・整理	2016-2018

7	文献	ラジャブザーデ文書コレクションの研究	2016-2018
8	文献、 社会情報	日本政治・国際関係データベースプロジェクト	2016
9	文献、造形、 社会情報	WebAPI 化による東洋学研究情報センターデジタルデータベース資源の新たな活用モデルへの対応と実証研究	2016
10	文献、造形、 社会情報	富山妙子画伯コレクション－第三世界と Narrative Art－	2016-2018
11	造形	旧東方文化学院研究員研究発表スライド乾板の整理と研究	2017
12	造形	歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存－デリー補充調査および 2015 年度調査公開の拡充	2017
13	文献	東洋文化研究所所蔵山西票號資料の基礎的研究	2017
14	文献	現代ネパール語重要書籍・資料の体系的収集・整理	2017-2018
15	社会情報	対中認識形成メカニズムの比較研究	2017-2018
16	造形	フィリピン・パナオ語の民話：部族の記憶を記録する	2018
17	造形	歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存－東京大学インド史蹟調査団 HP の改訂と 2017 年度調査公開の拡充と衛星画像解析による遺構確認	2018
18	文献、造形、 社会情報	東洋学研究情報センターデジタルデータベース資源の新たな活用モデルの再検証	2018

(資料34) 本研究所の収入状況



(単位：千円)

経費区分等	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	第3期 年平均
科学研究費補助金	61,822	79,495	66,024	84,546	77,620	61,707	60,743	71,689
その他の外部資金 (受託、寄附金等)	20,127	20,888	32,804	22,791	66,214	71,334	65,657	46,615
運営費交付金	163,326	169,766	166,522	156,451	162,979	163,020	162,973	163,618
合計	245,275	270,149	265,350	263,788	306,813	296,061	289,373	281,922

(資料35) 本研究所の科研費の取得率と採択率

〔科学研究費補助金（新規及び継続）〕

区分	2016※	2017	2018	2019	2020	2021	2016-2021
研究者数	31	36	38	42	41	43	38.5
申請（件）	29	31	39	31	30	28	31.3
採択（件）	21	22	29	23	24	25	24.0
取得率 （％）	67.7%	61.1%	76.3%	54.8%	58.5%	58.1%	62.8%
採択率 （％）	72.4%	71.0%	74.4%	74.2%	80.0%	89.3%	76.9%

〔うち新規申請のみ〕

区分	2016※	2017	2018	2019	2020	2021	2016-2021
申請（件）	20	14	22	17	12	10	15.8
採択（件）	12	5	12	9	6	7	8.5
採択率 （％）	60.0%	35.7%	54.5%	52.9%	50.0%	70.0%	53.9%
全国平均	26.4%	25.0%	24.9%	28.4%	27.4%	27.9%	26.7%
国立大学	29.4%	27.8%	27.8%	31.4%	29.7%	31.2%	29.6%
東京大学	37.2%	35.4%	37.4%	40.0%	39.1%	40.1%	38.2%

(注1) 出典:日本学術振興会科学研究費補助金研究機関別配分状況一覧)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html

全国平均・国立大学の採択率は「研究者が所属する研究機関種別 配分状況（新規採択分）」より

東大採択率は「研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（新規採択分）」より

(注2) 特別研究員奨励費及び分担金受入額は除く

※国際共同研究強化を含む。

(資料36) 所蔵資料の貸し出し状況

開催期間	展示先	展示品等
2017年6月23日 8月20日	神奈川県立金沢文庫 特別展 「アンニョンハセヨ！元暁法師-日本がみつめた 新羅・高麗仏教」	「大東金石書」
2018年2月28日 ～3月2日	東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理 財団寄付研究部門 「アジア資料目録作成ワークショップ オスマ ントルコ語編」	「Osmanlı müellifleri」等 10点
2019年5月3日 ～6月12日	インド国立博物館 「デリーの遺産 (Heritage of Delhi)」	東京大学インド史跡調査団 イスラーム建築遺構写真
2019年5月3日 ～6月12日	国際交流基金ニューデリー日本文化センター 「デリーの遺産 (Heritage of Delhi)」	東京大学インド史跡調査団 イスラーム建築遺構写真
2019年7月20日 ～9月16日	神奈川県立金沢文庫 特別展 「東京大学東洋文化研究所×金沢文庫 東洋学へ の誘い」	「摩訶般若波羅蜜經殘 一卷」等 100点
2022年3月29日 ～7月31日	神奈川県立歴史博物館 令和4年度特別展 「洞窟遺跡を掘る－海蝕洞窟の考古学－」	東洋文化研究所所蔵甲骨 14点

(資料37) アウトリーチ活動

公開講座

年度	テーマ	講師数	参加人数
2016 年度	アジアの策	2	144
2017 年度	アジアの知	2	120
2018 年度	アジアの教	2	97
2019 年度	アジアの働	2	102
2020 年度	※コロナ禍のため中止		
2021 年度	創立 80 周年記念特別公開講座	2	185

高校生のためのオープンキャンパス

開催年度	来場者数	開催年度	来場者数
2016 年度	530	2019 年度	455
2017 年度	770	2020 年度	※コロナ禍のため中止
2018 年度	483	2021 年度	不参加

高校生のための講義（東大の研究室をのぞいてみよう！）

開催日	講義名	参加人数
2016 年 8 月 5 日午後	アジアの貧困と連帯に関する講義	7
2021 年 3 月 25 日午後	「アジアの国民感情」を掴める	20

（資料38）学会における役職・委員の例

学会役職

アジア政経学会	理事長、副理事長
国際開発学会	会長、副会長
中国社会文化学会	副会長
中国出土資料学会	会長、副会長
日本台湾学会	理事長、副理事長
日本中国学会	理事長
Association for the Study of Persianate Societies	副会長（会長代行）

学会理事や委員、編集委員等

アジア政経学会、アジア法学会、生き物文化誌学会*、国際仏教学会*、史学会*、中国社会文化学会、中国出土資料学会、中日民商法研究会*、東方学会、日本オリエント学会*、日本現代中国学会、日本台湾学会、日本中国学会*、日本中東学会、日本南アジア学会*、日本民俗学会、比較思想学会、比較法学会、美術史学会、パーリ学仏教文化学会*、文化人類学会、法制史学会 等（*編集委員、あるいは編集委員を含む場合）

公私の機関における委員等

（公的機関）

アジア経済研究所、緒方貞子平和開発研究所、海上保安庁、警察大学校、国際交流基金、東京国立博物館、日本学術会議（連携会員）、農林水産省、文化庁、防衛庁、JICA 研究所 等

（民間機関）

大平正芳記念財団、沖縄平和協力センター、京都フォーラム、経団連 21 世紀政策研究所、国際経済交流財団、笹川平和財団、末延財団、全日本錦鯉振興会、総合工学振興財団、東洋文庫、中曽根康弘世界平和研究所、日展、日本国際問題研究所、日本再建イニシアティブ、日本サステイナブルコーヒー協会、日本トルコ交流協会、日本仏教徒協会、パレスチナ学生基金、ブリッジ・エーシア・ジャパン、宝幢会、三島海雲記念財団、みずほアジア人材育成基金、湯島聖堂斯文会、立命館大学 等